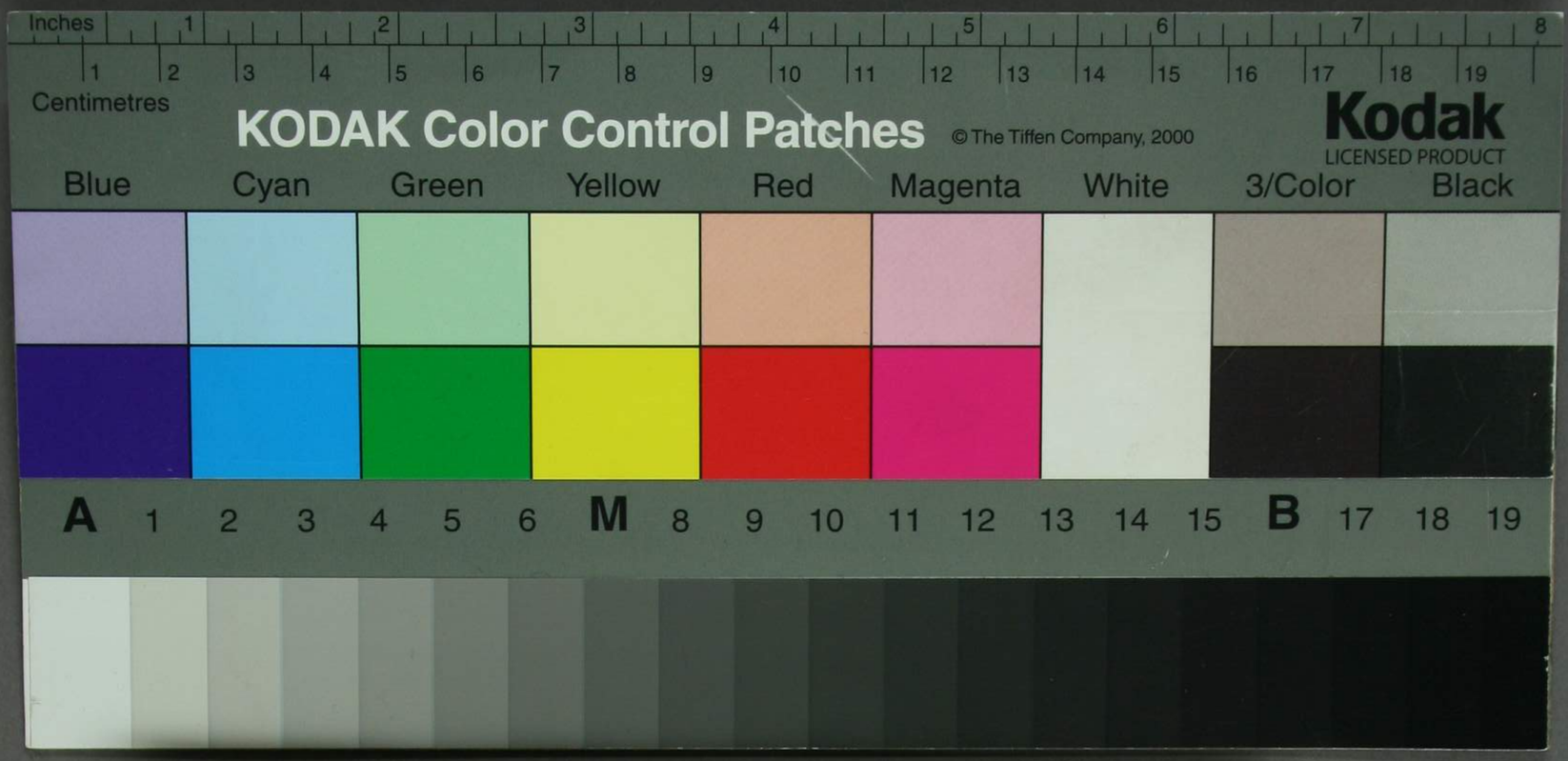

名所小鏡

ル 3
3283

名所小鏡

門 ル3 3283 蔵 巻

イ 一	ロ	ハ 十	ニ 十二	ホ 十三	ヘ	ト 十四
チ 十八	リ 二十	ヌ 二十	ル	ヲ 二十一	ワ 二十四	カ 二十六
ヨ 三十九	タ 四十三	レ	ソ 五十四	ツ 五十六	子 五十八	ナ 五十九
ラ	ム 六十七	ウ 七十	井 七十五	ノ 七十六	オ 七十七	ク 八十四
ヤ 八十九	マ 九十二	ケ 九十八	フ 九十八	コ 百五	エ 百九	テ 上同
ア 百十	サ 百廿六	キ 百廿九	ユ 百卅四	メ	ミ 百卅五	シ 百四十七
ヱ 百五十四	ヒ 上同	モ 百五十八	セ 百五十九	ス 百六十		

名所小鏡

○石蔵（山野） 山城。花薄 日陰草 君か代 神

拾 けふよりハ石蔵山に万代をうつしつる松のちとせをそ思 能宣

○稲荷 山城（山社神 滝坂池） 同。三の社 灯 玉垣 時鳥 鵜 杉 菴 忘 花 紅葉 卯花 十寸鏡 雞 面人 有明月 天降神

拾 滝の水かへりてすまハいなり山七日のほれるしるしと思はむ よみ人しらず

後拾 いなり山三の玉垣打たゝき我ねきことを神もこたへよ 恵慶

○泉川 同。みかの原 かせ山 玉藻 時鳥 [illegible]

昭和十六年三月五日 寄贈 石澤介吉氏

久迩乃都　清き河なり　柴漬（ふしづけ）　花の桜

月影も夜ふかく澄るいつみ川河風涼しよする白浪　俊成女

（新古今）時わかぬ浪さへ色に泉川柞の杜に嵐ふくらし　定家

○石清水○大宮人　呉竹　月の光　神垣　桜　若濱

かざしの花　雲の上人　住吉　君が代　三つ衣　御裳濯川

（よな秋）ちとせをは宿はかはらぬ住吉の松さへ秋はしらぬなりけれ　恵慶

（続古）松もおひて又も苔むす石清水行末とほくつかへまつらん　貫之

○石田杜小野○雉子　つぼすみれ　柞原　時雨　紅葉

鶉　鹿　雁　芝草　相坂山　山科　薄　尾花　早苗

○（続千）くらし行秋のねさめにいはそ石田の小野の篠原　藤原為嗣

（詞）山しろの石田の杜のいはずとも心のうちをてらせ月影　藤輔尹

○齋院○大宮人　九重　明ぼの　有栖川　あふひ　加茂河

松　花桜　榊　法忌　注連　葵ね　鞠（伊勢　三ー）

（金）神垣は木丸殿にあらねども名のりをせねば人とがめけり　藤惟規

（拾ゝ）一本の松の（子日）千世もひさしきはいつきの宮の思ひなるらん　源順

（夫木）おとゝせ母々女の紙とこそ花咲かかさつくらん　ゆき家

○石川　瀬見の小川とも　○花田乃萩　月　いくしたて　神

新古
石川やせミの小川乃清けれハ月も流をたつねてそすむ　鴨長明

新千
石川や花田乃萩なけやつてわか衣を摺ぬる袖ハ　津守国冬

続古
君か代も我世もつきし石川やせミの小川乃絶しとおもへハ　鎌倉右大臣

○今宮○こよみくさ　花乃都　むらさきの野

続拾
しよしくわかるゝこゝろましまれに花乃都に社さくらん　長能

○岩隈　雲かくれぬる月　源

玉
岩隈乃蝉ハ常に合かねくるみ夕くれの思ちらすかれ　資業

○伊駒　山　高峯　尾上　大和○渡のへ　大江乃岸　法乃月　宮

時雨　峯の雨雲　秋篠　から山里　難波とゝ　時鳥　霞

五月雨　長井浦　尾越乃桜　紅葉　高安里　鳴尾　涌

後拾
我宿乃梢の夏になる時ハ伊駒の山そミえすなり行（クワ）　能因

新古
君かあたりみつゝをゝらん伊駒山雲なかくしそ雨ハふるとも　よみ人しらす

万六短歌
いゆ山こえむむかまに萩乃花ちらしもちらしさかり志つゝた

○石橋　丹国○白雪　○渡　久米路　夜乃契　花

続后撰
かつらきや花咲く春ハ風にこそ絶もみえなくかゝる岩橋　西園寺入道

○石上（寺同） ○時鳥 苔乃衣 山田 布留の山 行幸

三笠山 小初瀬 有明月 時雨 菫 こゝろ花

鐘乃音 太刀 やふしわかね 旅ね

秋 石上ふるや男乃太刀もかれもこそ坐さそ〳〵ちかよへん

古 日乃光やふしわかねは石上ふりにし里に花もさきけり（ふるの いまみち）

昔よりらく人神を人まれぬ花にかゝめる石上も

○磐瀬 山 杜 同 ○立田川 あらしの園 時鳥 鹿 紅葉

初時雨 下草 三室山 村雨 よぶこ鳥 谷風

鶯 卯花 蝉 神南備山

秋 ちらはちれ岩瀬乃森乃風にはけしくや世を心あらん 俊成

夏 田中乃いはせ乃森よりなく蝉乃声にあつく人やきくらん

○稲渕 滝 同

後古 年ふる月よりみるも見えは打ちかはしけ流れ 庭見 源具氏

○般若余（イハレ） 池野 同 ○薄（スヽキ） 萩 鶉 女郎花 藤蒲

秋 萩草 千種乃花 駒 児手柏 鹿 鴫 浅茅

秋 おきて見るいはれ乃池のうきぬなはくるしき物ハ世にこそ有けれ

ま よしさらはいまはえこそいはれのゝかやかしたにおもひはさてこれ覧

○伊加ゝ崎　河内

古 梶まくらたかる波の上にとまれかし花のさかりをみる人そなき　玉

○泉杜（ノ）　和泉　○忍木引　雪乃曙

勅 泉川白波の杜またの風乃ふくむ浦とふく夢くらも　[illegible]

○生田　浦　池　杜　河　（里　海　小野）　杉津　○湊河　庫　初時雨　なき焼

時鳥　布引乃瀧　雄波　明石浦　須磨　搗衣　鷺

十 恋侘なからぬ乃益荒男さへ生田乃川に身をやなけまし数乃経

[illegible] 旅人のやとりそはまつ生田の森のしたつゆにぬるゝ　師兼

○板田橋　同　○秋さむし　五月雨　一説大和よし

とふ人の板田の橋もとたえしてなか中の絶たる　源兼氏

○岩手杜　同　○風　わか葉　注連縄　作くら　忠家

後古 君をのみ杖をおもふ法の出ていはての杜をわすれしも乃　馬内侍

○伊勢海　○延喜乃寄縄　千尋濱　浦乃汐貝　蜑衣

海松　和布　釣舟　濱荻　厂　もしほ木　清き渚　採貝

鈴鹿山　小野ゝ江　大淀　星合濱　神馬草（ナノリソ）

伊勢 いせの海の蜑のまてかたいとまなみなからへにける身をそ恨る

○伊勢嶋。一志の浦 乙女子 磯菜摘 よする 空貝（うつせ）

二見の浦 沖津汐風 紀の海 なきさ 松原 鶴の使

海士の焼火 くるゝ 夜 月 塩干 浜荻

続古 いせ島やわかきの浦につるゝ紀の海のけそ流る月影 良安

凡 いせ島や塩干のかたの朝なきに霞にまかふ松の松原 後鳥羽

○一志浦 同伊勢。海士 いそ菜摘 よする 玉藻刈

新古 けふとてや磯菜摘らんいせ島や一志の浦のあまの乙女子 俊成

○伊勢神 同。傳下法 玉くしへ よ枝 榊 月

太柱 注連縄

凡 かさそ民の安かねかそれもちらぬ道を神風に 朝敏

○五十鈴川 同。神代の流 松 神路山 磯の文 夜之

ミテグラ 宮柱 榊 ワタラヘ 扉

○岩城（キ）山 駿河。ほしくさ 駒かつむ いかゞ湊

○庵原 同。清ミゝ 松 三保の沖津

○庵湊 同。三保の浦 松 空貝 沖津風

○伊良虞 嵜 志摩 ○玉藻刈 いそね松 千鳥

時鳥 なのりそ うもれ松 海士

千 玉も刈いらこか崎のいはね松いく世までにか年のへぬらん 顕季

○引佐細江（イナサ） 遠江 ○みをつくし ふね 真菅

○伊豆海 伊豆 ○箱根路 吉白浪 沖小嶋

○伊豆の山 同 ○玉椿 八百万代

○芦嵜 下総 ○まつちの山 角田川

○長山（峯 谷） 近江 ○揚 秋の夜月 蜩 有明月 天津家

鐘 都 花

ま かくしいつくはつ人目あらはさて石山の名 法性寺

○伊吹 岑 山 嵩 同 ○さしも草 潮 藤川 下草 草木

よこ入海 雪 難面人 且妻舟 玉かつら 揚 松虫 鹿

又 拙くとえ伊吹の杉くれ川上ゟ吉本にかし若さ浪よる 西行

新拾 さしも草深きに五月雨は伊吹の嶽の杉もしらぬ 衣笠内大臣

○弥高山（イヤタカ） 同 ○榊 照す月日 君か代を 備中ニ有同名

石戸山（イハト） 同 ○掛 景 出る月影 神代

○板倉山 円 ○稲 治まる代 こよのはらか
○伊香具（イカゴ） 円 山 海浦 ○萩 君か宿
○石根山 円 ○不忘衣 こよへおもは やとてあれ 松の濡
○不知哉河（イサヤ） 円 ○ここ入山 太上 歩 炎ゝこち
古 杢乃ここにいまるいさ川 ささてゐへて細石もしずむ
○山 石清水 円 ○相坂乃関 むすぶ奥
○国境 山 谷 美濃 ○松 白雪 峯ゝ秋風 時鳥 鶯 厂
麻 萩 花 和ゝ 不破関 秋乃田

主 豈天まうこゑぬよふ八乃関いふや兵山乃いまこ宿ね恋 国景
○伊津貫川 円 露ま衣 摩田 君か代
○山 岩田小野 円 志乃ゝ薄 真葛原
○伊香保 上野 沼ゝ真菰 五月雨 恋しき人 苗
○石垣沼 円 ○菖蒲草 ぬまハ田露
万 青柳乃いと垣沼のみこもりに恋やいてくんあふよしとも
○般石手山 陸奥 ○谷乃埋木 薄紅葉 八谷下乃紫
つれの石まとそらぬし 五月雨 白雲 涙乃川

新古　みちのくのいはてしのふはえそしらぬかきつくしてよつほの碑　頼朝

伊津波多　越前　○帰山　雲井の雁　越路

○伊波世野　越中　○みくろ尾　秋萩　駒　小鷹

○生野　丹波○大江山　天の橋立　鹿　時鳥　夜ハ人来

旅枕　夜草　霧　雪　月　小山田　卯花　擣衣　丁

女郎花　蘭　薄　葛　尾花　露

千　里とをく見しハいくのゝ花落て夕林の夜の月　知家

勅　大江山香よとくる鹿のねハいくのゝ末ハきこえしやとの人　権中納言實守

○入佐山　但馬○時鳥　鹿　照射　火串　入江　夕附日　月

雲　霧　霞　まゆみ　梓　狩人　なく声　五月雨　初時雨

夫木　梓弓いるさの秋桜への秋をしも春雨ふれは人目をこし　長明

○石見潟　石見　海士のしほ火　玉藻　月　しほれかけ　峯

新後拾　いはミ潟浮ねる角ハせともしらて浪よする帆の月　新按察羽

○印南野　播磨　海　浅茅　住吉　女郎花　尾花

鹿　久盞山（クメサラ）　アカラ柏　水手鳴（カコノ）　清水　松　武庫

拾　住よしの松のときハいつまて雨ふるともいはて流ゝき　助時

丈 いもせの契をかけて父母はとくにとく萩原の旅寝

○妹背山（川） 紀伊 吉野川 一つね 男女 瀧津

渕瀬 中川の 數々の花 庭さうきし 簾 麻衣 氷

紀の川 諸越の梅 江葉 むろの くずかう 玉を

古 なかれてはいもせの山の中に落るよしの川のよしや世の中 よしや人

し 岩代 月 野 杜 岡 ○むすひ松 時鳥 松虫 千里の浜 （尾上 油）

下草 清水 萱薄 夜草 浜松か枝 結ふ契

於 岩代の野中にたてるむすひ松心もとけす昔思へは 金

遠き妻の清き名は絶ぬとも岩代の松家哀

よ 磐田川 岸 同 五月雨 夕涼

いはた川はやくそなかる岩松神も哀れと思ふらめや 花山院 御製

る 妹賀嶋 月 形見浦 千鳥 藻刈舟 雫 有明月

勢 風ふきて夜の更行は妹か嶋かたみの浦に鶴なき声よ

○儀間浦 月 あまの火 搗鳴 蟹 引網

○生ノ松原 筑前 ○浜し 扇 白波 忘貝

新 あしさハいきの松原まちけるも扇の風に立ぬさき（ビハノ）

入野 一 まはぎ 薄。堇 尾花 鹿 狩人 妹 月 霜

（続後拾）誰なるの秋も今さり入野の露かゝるおもたり 俊成

入日岡 同。著鷹 雉子 時雨 紅葉

（新古）はつ春の花の盛りもしられつゝ入日の岡の雉の声 土御門院

花山 山城。桜 藤 時鳥 月 駒 雪 鳥 風 鐘

余所にてそ見ん人の今宵の花をむかへまし風は吹けとも 遍昭

柞 山城 同。時雨 紅葉 下草 かさ見 泉河

ぬしそ山里に嵐のたえてよそにのみ見し 実氏

羽束師杜 同。家の風 ゆふしくれ

泊瀬 川 山 峯 尾上 檜原 寺 里 ゝ根 大和。古川邊

三輪 山田 布留 豊等 花 桜 紅葉 杉 八

数 古ゝ江 特雨 梅 宮 原 伏見 鐘 延小田

卯花 椎柴 井堤 鵆 旗 戸 鵙 蛙 鹿 見

五月雨 若盤木 秋夜 月 乙女 まろうと 弓槻

よしこゝろ 鶯 みをの川 夕立 白糸 流 明文

（新後拾）小初瀬の花やさくらやこの川の岸の白浪

凡
年より女彩る髪ハ姥を山とその上の詠なるそめ太る　宗鑑

万
初瀬川ふる河のへに二本ある杉年をへて又もあひ見ん二本ある杉　よみ人しらず　わか点

羽買山　月。雉子　あさる　たつ鳥　蟬　岩つゝ

ちよ火ゐくる　よふこ鳥　霜　松　かれき

新拾
きる人くらむ山の岩の花ならで誰かまもらぬ岩つゝし　順徳院

羽束山　杉　津　秋のうつりにけるみ山の風さえてとくらん　通房

原池　月。水　浜　鷺

拾
池みつのちりをはらへる風の色のあさましくもあはれなりける　信実

浜名橋　遠江。高師山　棚舟　旅人　白雲　夕塩

海士小舟　相坂入関　小町　秋の夜　月　入海　松　五月雨

拾
塩みてる程に行かふ旅人や浜名の橋と名つけそめけん　兼盛

走湯　伊豆国や山の南よりいつる湯の
はやきは神のしるしなりけり　鎌倉右大臣

箱根山　相模。伊豆海　照射　鹿　女郎花　柏　袖　十三

時鳥　雫　つゝすみれ　むらだく　厂　沖の小嶋

新拾
足柄の坂よりむかふ箱根の山のあなた人丸

走井　水　近江　関

拾
はしり井のほとをしらはや逢坂の関ひきこゆる夕かけの駒　清原元輔

○竈門山　月だにもさし出かねたる山の梺入りて山井八　嵐もさし〔ゆ〕きてかなるかし　星占地主権現

○障関　手々つ　○東路　涙

○箱崎　筑前　○松へ寄る心浅くし　神　香椎

（松）箱崎の浜へ入人箱崎の松のむかしを尋ねけん（うまき）

○博多　月○新羅（シラキ）国　流るゝま　加へ人　志加小嶋

（博多）多分全て入る湊　ても　沖つ　の　つよく　後れ

○高洞　城○鳴瀧　岩越浪　○被　行幸　松貼

入江　氷魚　猿　是八宮のむきすかきりてつけし

忘れても汲やしつらん足引の山のはなるゝ江には　躬恒

○丹生　河泉川杣　大和　○五月雨　杣人　舟　おろす人　鴨

（万）しらぬ人の真木ひきて丹生川の舟はいかにかなくらん（よきて人）　家隆

○湖海　近江　辛崎　勢田橋　おほ渡　志賀　相坂　比良

猿山　秋之仙　鹿　雲月　かする　海進船　月入　秋

有明の月　に浪　柴舟　海士の濡衣　沖津嶋山

（家集）さゞ波の浪や花の影に流む湖の海（ホ）よせ来る　家隆

（新古）湖の海や月の光のうつろへは波の花にも秋はみえけり　家隆

○堀河　歌詞　為上ハ内さかく夕されハえの代よ（ちらひまあるかりなのそうの）曽祢好忠

○細江　摂津　歌詞　住よしのほそえにさすやミをつくし（ふかきこころまけぬひとハおもしろ）相摸

○堀江　同　棚無小舟　さし流し　難波　五月雨　蛍

煮鴨　鹿　蛙　鴎　人家　小舟　真菰刈　芦

松浦舟　五千舟　ひさし　一艘　高津　ここに津有

舟をのり　月影　難波　豊芦原　貝

詞

五月雨ハ難波堀江の水串そのぬれやすきまさるなる人源忠季

所後大に

難波人くる江漕なる松浦舟梶にかかるさらぬかそ恋　人丸

○堀兼井　武蔵　○ほりかね野　五月雨　波下草

○細谷川　備中　○真金吹　吉備中山

古今　まかねふく吉備の中山おひにせる細谷川のおとのさやけさ

一　○由良の門　紀伊　○由良湊人家のまつゆく　権中納言経房

ナ　とかりしくを菲の色とこそ入ぬる

○常盤　山杜里　山城　○時鳥　山石清し　鹿　槙　村雨

鶯　白玉椿　松　苺　椎茸　岩屋　五月雨　夜川

注連縄　採　榊　林麻入　松虫　蔦　大井川

藤 雉子 乃り 青柳 紅葉 霜月 卯杖

新勅
名盛りの山の黒ねの年毎の塗後のみ流る雨ふる 摂政太政大臣

文
山里ハ三きくの杜の夜の花咲くらしてや是家人家隆

○鳥羽 田 里 山 同 ○大江山 一重ね 夜寒 秋の月

早苗 時鳥 秋山 菖蒲（アヤメ） 五月雨 菴 稲妻 松

作り 泉 白雨 鷸 雲雀 宇治 千代古る 淀

新古
大江山かたふく月の影さえて鳥羽田の面に落つるかりかね 慈鎮

文
多くめる松もむかしの山城の鳥羽にあとしるへ人の世の松 順徳

拾
津宜の雉波思ふは山城の鳥羽にも人の思ひのたくそ

○戸難瀬 滝 河 月 ○大井川 嵐山 小倉 井堰 筏

紅葉 鵜飼舟 菊 ハ猿 松 夕紅葉 山吹 月

金
大井川岩波高く流れくるこゑは滝にまかせてそする 大中臣公長

文
ちる花をこときてかへる紅葉につまそそくとろ鷲のけん 仲正

○鳥部 山 野 同 ○鶴の林 鷲 高根 世の中

烟 袖の下 ろ之の露 消ゆ 絵虫

千
烟たにしはしたなひく鳥部山こそあかぬ旅人ともこそ 寂然法師

○とぶ火野　原　大和。春日　羽買山　奈良　若菜　菫

蕨　郭花　梅　鶯　雉子　雲雀　時鳥　蜻蛉

蛍　鹿　泊当　宮の下草　云々。

続拾
たまさかにとぶ火の野もりとの風にはかりに春の末よりほかの　定家

続古
若菜摘野べのゆきと白妙の子らかはふるとぶ火の野もりかな　為家

○泊瀬（上廿）　月　川　山　とり川と原ゝ森も別ニ載之

入江　菓　井堤（デ）　白浪　海士小舟　雪　瀧津　花柵

続後撰
暮れ行秋の泊瀬の八重よりも立ちぬる子なし　順徳院

○富小川　所。鳥井寺のいかるかに法の筋ともいふ名

法の海　汲ともつきせぬ　君か代　みとりを　万代

拾
いかるかやとみの小川の絶えはこそ我大君のみなをわすれめ　達磨大師　朗詠

○十市　里　村　野（山　池）　同。天香具山　白雨　夜ゝ河　高橋

稲妻　下くね　三稜縄（ミクリ）　蚊遣火　駒　鵲（きゝす）山　荻　擣

新古
ふけにけり山の端近く月さえて十市の里に衣うつ声　式子内親王

同
十市には夕立すらし久方の天の香具山雲かくれ行　俊頼

○豊等寺　同。かつらき　泊瀬　鐘　榎葉（エノハ）井　秋の月

竹斬乃尾　苺　山伏　採える　花ちる　紅葉

續古　うつゝまやとよしなる乃秋の月あまよる事こそ露こそ涙なれ　源具氏

夫木　かりむろとよくなるの文之井に紅白色のこの月　家隆

冨田嶋崎　礒　擣津〇ふる　露　究漂して　文覚

ゐと刈　月　ゐぶ　路る舟　一説淡路敏馬上書

夫木　ゐと刈とゐとゐく文草乃空鳴る沖に舟ちるすゐ人

〇遠里小野　同〇住吉　津守　擣衣　萩もら

真菰　採狩　時鳥　ハ　萩　康　荻薄　花　塩

松　子日　松虫　雪　霜　月　春の曙

新千　歌の里もと鳴里〻の萩の花袖まくりてゆふたね　後光

〇豊宮　伊勢〇皇乃天津とおや。みをさき志（ヨヅナリ）

〇常盤橋　近江一説奥州〇東路　藤浪　ゑくり谷

鳥篭山（トコノ）　同犬上　名とり川　康　臥猪　鶉　鹿

苺莚　いさや川　月　近江路　かるとの乱　旅人

金　ありくる康をゆるまで独ねの床の山風ゐもやく　三宮大進

續拾　君かへ床の山かひなもつしにやかるぬとも三氏　家隆

○利根川（トネ）　上野　新勅

ゆく分ぬ袖そぬれぬるとね川の石ハふむともいさかうなり　橘仲遠

○十綛橋（チ）　陸奥○東路

みちのくのとつかの橋にくる綛の絶すも人をおもひわたるか　親隆

○十符浦　同○水鳥　菅薦（スガゴモ）　秋の夜の月　荒莚

釣柱（ツリハシラ）　野田　假寐（カリネ）

金

みちのくのとらくの枕をかしもしきさにしとふへことと　經信

續古

須磨のもとの浦風さむみよもすから千とりの秋の夜の月　為仲

○鞆浦（トモノ）　備後○竈木（ムロノ）　妹　つまもる　月

萬

鞆の浦の磯のむろの木見ることにあひ見し妹ハ忘らえめやも　旅人

豊浦（トヨラ）　里宮　長門○白波　浪

新勅

浪をハとよらの浦のまさこにつきて世にハたれをまつらん　貞慶

泊礒（トマリ）　讃岐　玉

松か浦の泊の礒とさくふねをとめなをものこして浪のまにまに　行能

○床浦（トコノ）　未勘○霜月　千鳥　衵　延中小册

夫木

なれゆくと枕のうへに塩風ふく衵ねたまね床の浦かな　相模

續古

わかれ路のとこの浦風いかにしてあれの袖ぬかるゝ白波　光俊

床海（トコノ）　同

玉

床の海の秋かせにさむくうつゝ中よかりかよひけん　為家

○千代古道 山城ノさが 芹川 有月ゝ駒 子日
松 若菜 行幸 友草 雪 鳥羽
新後古 おさまれる代に花をかさしこの山の雲と跡とふ千代の古道 源満元
○千尋濱 伊勢 紀伊 有同名 ○貝拾フ
古撰 伊勢の海の千尋の濱にひろふとも今は何てふかひかあるへき 業平
○千ゝ松原 近江 大上郡
続古 ちかへりそ千ゝの松原数の上に重ぬる八十の今も君か万代 太政大臣
○千坂浦 月 夫木 千かへりの代への数よいのるらしかきりなき千さかのうらのまさこなりとも 後京極

○千枝村 月 ○柳 菜 こよひの明 藤 伊ヶ 丹ヶ
玉 うすくこく千枝に咲る藤浪のはらひもぬ万代のかけ 俊光
○竹生嶋 近江 ○志賀の浦 朱の玉垣 紅葉
新 あふみの海に秋の山みえて照るはえてことる麗き跡とこそみれ 親
○筑摩川 信濃 ○姨捨山 さゝれ石 岩苔 鴛 入江
峯の白雲 君か代 雪けふかし 春ゆく水
九 ちくま川春ゆく水はすみにけり消ていくかの峯の白雪 為家
○千賀塩竈 陸奥 ○ふね 霞 煙

続後撰
わか思ふ心をさそくみちのくのしら風浪の底ちらしまつ葉 山口鑒

○千世能山（ヨノ）丹波　君か代　榊　能宣

拾
こゝろよりに千年の山の八百絶す君か代ひさしく松をはなるゝ

○千尋濱　紀伊　万代　真砂　君か代

拾
万代をちかへる人の紀の国の千尋の濱のまさこさへとり　元輔

○千里濱　月
まだ遠き千里の濱は日くれて
秋風送る山名代の雲　兼盛

○千賀浦　筑前　○みちのく　よふこ鳥

拾
千かの浦に浪よせかくるちらこゝもひろ海まても見えしつれ　為信

○龍門　滝　○大和　○山城　布さらし　桃乃花　仙人

す
わか袖に苔もかゝる宿なれと猶かひ人ゝこしなくなき　源

なれ
ゐる人もなき杉山乃嶺の奥のたえまかれて　定頼

○布引瀧　摂津　芦屋里　生田奥　七夕　山姫

天津乙女　天川　五月雨　尾花　藤　夕日　白露

雲　竹葉　白雲　春　山乃桜　紅葉乃衣　梅　秋花

続古
真萩　山人　御祓　呉竹　よふこ鳥　都鳥　雁

山人の衣なるらし白妙の月よにさらす布引の瀧　後京極

夫
布引の瀧もやけふは涼しくて夏の白ゆふ出しけん　慈円

○鳥羽（里　山　河　瀬）山城　○時鳥　松虫　紅葉ニ　落葉ニ

網代　雪　鶉　相坂　山科　草木　摂らく

秋夜　五月雨　閑守神　千鳥　岩波　盃

柳　廣沢　大津の文　卯花　鶯　花　霞

○しらなみの山ゟくる鳥羽の瀬をとこよとそ見る　是則　重

古今
たち瀬は瀬のくまみと平つまりむすよ波にさき出る　忠岑

新古
鳥羽山さとや流ミすら白雲と見ゆる鳥羽の風色か　高倉院

廣沢の池よまつひ月影の鳥羽の山も池の寝ぬ　慈円

○小塩　山　大原　行幸　豊明　稜　神　松の戸　桜

雲　紅葉　時鳥　鹿　沢（ニノ）　沼　神代　月　花ニ

鳥　柳　相生の松　子日　淀　月影　杉村　雉子

新古
相生の小塩の山の小松原今より千代の陰をまつ見ん　大弐三位

夫
小塩山梢の嵐さそふらし淀の河せに舟よするらん　光俊

○小倉（山　野　里　岑）同名　時鳥　五月雨　鹿ノ子　種

月　鹿　紅葉　時雨　雪　松（軒端）　大井川　行幸　数々

谷林　藤の花　薄　木ずゑ　となの瀬

寺　塔　谷の庵　尾花　蝉　照射（ともし）　駒　蟲　蛍

鈴虫　椎柴　青淵ら　はじ　早苗　淀瓶

（後撰）大井川うかぶ舟の筏をも小倉の山も名のみなりけり　定家

（金）神な月ちるもみぢ葉に小倉山下てる程は隠れぬ　源師賢

（凡）小倉山麓の寺の入相にあらぬ雲間の月を見るかな　後成

○小野　山　藤原　炭竈　里　山田　古道　細道　山城愛宕郡

○雪　浅茅生　太山木　柴桶　氷室山　真葛　初雪

梅　卯花　榾　小木　柴積車　虫　時雨

旁　夏草　旅人　真葛　鶉　法の駒　菴　蛍

霜　露　蓮　瀧　水海　古々　槙の葉　秋萩　紅葉

日向　炭焼　きりぎりす　わすれ水の流　月の光

（風）炭竈の煙をそれとしるくして遠き小野の山里　平貞時

（拾遺）かきくらし庵をされむきそれ那奈よ嫁ぬ小野のさとくら　家隆

（ま）まみ流るもみぢの山をみて初て波をこそ小野の古里　為相

○小倉の嶺　大和（新古）白雲のたえまにさはくる田山小くらの峰に花匂ふなし　定家

○小鰺宮（ソノ）　松津一説六和○古石　姿の浮橋　枚田の様

○小野　古江　湊　伊勢○芦　五月雨　伊勢乃海

千鳥　入江　松　の篠

（後拾）湊ながれ涼しい春海の底も秋の初風（忠教）

○小塩井　伊勢　風の（忠嗣）

鷹（コガラシ）　駿河　○浜　松

○小笠原　甲斐○　草　駒

○小野　の秋　の（消光）

○音高山　近江○榊葉　君が代　万代

○小比叡杣　同　交木川　杉　神垣　波母山　神代

行幸　祢宜　木綿　松末

（後拾撰）大比叡やをひの杉本何迄の祢宜の初（日吉社）

○姨捨山　信乃○照月　更科　麓　峯　里　旅

さらしな　高峯　桜　花　麻　歌

（十）更科やを捨山の月見るとも我をと（兼季通）

（新古）今よりは秋もなく捨ての山桜月と花との比　具親

○緒絶橋（ヲダエノ） 陸奥・引琴 契 本ノ 袖ノ泪

続後撰 白玉のをたえの橋の名もつらしくたけておつる袖の泪に 定家

○雄嶋（ヲ） 磯 沖嶋 月 ○延出 釣舟 紅葉 ぬれ衣

松か根 千鳥 月 八重塩風 紅葉 時雨

とまや 漁師火 烟 月 夕霧 松風 瀬戸塩合

新古 秋の夜の月やをしまのあまの原明かたちかき沖の釣舟 家隆

新後古 波くるをしまの磯の提抗心してよけ八重の塩風 有家

三 おなしねのへき小嶋の磯のわかきにわくらくもよする沖津浪や 忠岑

○小嶋 月 ○田鶴 三河乃小嶋

古 心嶋の川嶋の人のこゝろは松の下花咲くて見まそ

○雄琴里（ヲコトノ） 近江 中今 松風乃をとにも里にかよひきて 治れる代のしるはかりなり 数光

○音無の川 紀伊 山ノ寺 卯花 五月雨

里 絶せぬほかなみ乃橋 衣川 涙

ま 音羽の里の松風夜さむきを思ひ子人の衣うつらん 宗尊

拾玉 あし引の尾上も白くなりけり秋ハ今さき月やすみぬらん 慈鎮

○緒捨山（ヲステノ） 月 槙乃葉 苺 霞 雪 月

（秋夜）しるしのと捨の山風月影さえて秋の下家基

○忘水 大和 播ノ有同名 ○布留野 津ヨヌリ

○忘るの 摂津 ○住吉 浅沢小野 五月雨

輪田ノ泊 同 兵庫ノ南ニあたる湖港之

車舟つるきかぜをしのびつり牛窓かけて塩やいかなる

夕附日さすのみなとを漕舟のさ帆よりやむこの浦風 名寄 夫木

○若松原 伊勢 ○零（タツ） 妹 伊勢嶋 塩干 雪 嶋

（新古）吹風の松原の川塩干の浦の土芭をけさき 維摂

○度會（ワタラヒ） 同 ○いつきの宮 大河邊 いすゞ川 君ノ代 唐

○我立杣 近江 ○墨染袖 鷲ノ山 有明月 唐

杣ノ川 佛ちら 三ノ峯 すべき坂 峯ノ大き

みどりの洞 麻 檜さく杣 淵 清 民

（十一）おほけなくうき世の民におほふかな我立杣に墨染の袖 慈円

（十七）春の山の緑の洞にかよふ人吾立杣の法の光ハ 為家

○岩の松杜 月 千年まてくらう比けり松のえり 皇のすゞ傷しかなきさえるしるよハ 永観

○若浦 紀伊 ○玉津嶋 鹽 住吉 芦邊

鶏（タ） 蚕ノ狗舟 こしや草ノ木 火 子ある月ノ夕暮
むと宮 神 文柱 炭俵乃尽 松 妹 捨舟
東の 淡路嶋 花 沖津汐風 久米皿山 嵐
浪乃下草 神馬草（ナノリソ） 老乃浪 入江 忘貝
（新古）あ浦よ月乃出潮のさ風まてに雲居露の声そ遠き 慈円
（勝古）いつまて乃浦風身によそへて見よりしめらん玉津嶋姫 後京極
天 ワかの浦海士の笘やも煙たてて八十風にまよふ花そ白き 行尊
若松の息 月 伊勢に 月名あり （新後古）鳴つるワかの松をしよりにくり いひ人ゆえ人むかし嶋守 弥兄君来

かも茂 社 川 河原 神 山城の姫小松 久たすき千鳥
葵 浪 行幸 端々離 日吉祭 斎院 神山 雷神
あふひ 卯花 小忌衣 天津神 れ桜 れ手洗
榊 モロカツラ 社 国移 大ぬさ 清き川 れあま
れ注連縄 臨月 神田（ミトシロ） 鮎 駒 佐手され
糺 竹 椿 勇 一言神 卯月 初雪 霜 廿五
古 出来むの釉 卧祢 芹 家路 久つきに 室 一葉分神 般行
ふよ振かとれ社の姫小松万代よもろこへかく

凡 君か為三玉綾にて清き河の流なすめくかもの鴨羽

元 かも河の後瀬しつけく後もあはむ妹にはわれはいまならすとも

神山 月の桂 楢の葉柏 時鳥 卯花 あふひ

注連 よろつゝこわれ 松 日影ノ葛（カンヅラ） ときはの明

あつまし女子 椎柴 行幸 れよ洗川 二葉草

三の位 榊 松虫 玉串の葉 森下草 玉椿 雪

みる鳥 木綿（ユフ） 簾 裙帯 花 大田ノ沢

神山の卯月まつりの風祈山の柏りよ河そかし 好忠

新古 みなかみも神山にたく花を松の声まても高ゆかり 源頼實

鴨羽川 月 はるの日の鴨の羽川のみなかみは おもひ八久し代々の河かさお 太政大臣

片岡 神社 同 時鳥 ゆふたすき 早田ノ咲稲

みたらし川 一すぢの光や 時雨 楢ノ上茨 柏葉 葵草

夕立ノ雨 櫟（アラヽキ） 木葉 いさきの色 着宴 雹

新古 時鳥声待程は片岡の杜のしつくに立やぬれまし 紫式部

又 かた岡のすゝきのやまと秋くれぬ時雨りすれ谷の よるき 越前

祇園（カミソン） 月 姫小松 千年の桜 久たすき 行幸

玉 秋宿よそなりの桜花さかりし金人の身も常へ（秋宿氏 事なりけり）

笠取山 月。時雨 紅葉 炭焼 花ちる夜

鹿 涙の雨 山科 時鳥 飛騨工（ヒダノタクミ）

古 雨ふれど露ももらじをかさとりの山はいかでか紅葉そめけん 在原元方

夫 世のうきをそのたくみやおもふ人村雨にぬれぬ笠取の山 西行

鹿背山 月 瓶原（ミカノハラ） 泉川 鶯 時鳥 雪

良経 拾 益雄か小野の尾上も跡絶て雪降りにける夜かせの山 公實

夫 泉川河波白く吹く風に夕涼しきかせの山松 後鳥羽

笠置 岩屋山 山城相楽郡。寺 抜いつゟ

ユルギの杜 菩提 うくひす

新 名のみしておくそ見えゆるぎの杜のかひもなくさきぬいくやすくや 登蓮法

夫 五月雨は水上まさるいづみ川かさぎの山もとのくもれて 後成

紙屋川 月 北野ゟ西社坂より二町半平野へむかふ

古 ちとせふるかみの家居やかゝる足技の森によわりて白き衣

嵐山（歌枕 嵯峨） 月。大井川 清滝川 紅葉 桜

吉野 露の林 月 松 山根 苔生 宮作り

子日　行幸　紅葉　榊　みとりは

書　嵯乃おの山乃小松か根にて落る瀧の白糸千代の数かも　きのとも

嵯峨山乃仙洞より亀山の殿におはしまし侍りける

さけまそて　後拾（まて毎よおもしろやられしみよしの　花ハちらふそ宿よ咲くれ　大上天皇）

新拾　嵯峨山乃千年越てみ法をは清瀧川そおもひける　椛さふ

神楽（カグラ）岡（ヲカ）　月。わらくか花　拾遺　松　君か代祈る

桂　宮　里　川　月。大井川　加茂家　嵐山　梅津

渡　月乃輪　鵜飼舟　かつらの花　持衣　卯花　梅

撫螢　かりの大戸　奥　十月乃野　小野　鷹狩

古　久堅の中に生ひたる里なれば光をのみそたのむべらなる　伊勢

六　明みく八日次侍る桂鮎あゆミと浅くてとるもの遊にし　信実

春日（かすが）（野　神山　原）（峯　里　杜　社）　大和。[illegible]　佐保　三笠山

若菜　霞　鶯　藤　下草　一　旁　月　鹿　紅葉

高松　谷　裡　末　裡乃萩　萩　榊　木綿だすき

姫小松　おとろ乃原　松乃南　小乃萩浪　時雨

子日　さくらつま　尾花　いの紫　浅茅　螢

天津こやね 十寸穂 子蕨 採 行幸 玉串 祝人
鷹狩 雉子 春の風 いさ川 野守かみそ 造宮（元）
高円（下） 萩の花が 法の手向 栗（蒔） 春駒 若行
神田の畠田 若草山 水谷川 雪消の沢
女郎花 行合坂 初申 氷室の梅 鹿嶋
お室守 時鳥 茸 垣つくり人 石の竹 枇（弁ヒ）
（玉）かすか野ハ子日の松の春風総秋のいろこハ秋萩の附 俊成
（新古）我をしれ尺迦牟尼佛世に出てさやけき月の世を照すとハ 神詠

（千）春日野の若菜を摘とてよる人の袖[illegible] 俊頼
（続）かすか野ゝ雪消の沢に袖ぬれて君かためにと小芹をそ摘 俊恵
葛城 山 橋 神
峯 高嶺の久米路 高間 立田 飛鳥川
豊等寺 奈良の海 吉野 小伏 谷川 正木 雪
紅葉 青柳 白雲 稲妻 採 時雨 木からし
葛花 月 しか子 たそやめ 五月雨 来ぬ
いさゆふ 佐保姫 岩橋 拂 虹 鷹狩 鶯
時鳥 ヌノミ屋 卯花 かつらき神 一言主

（松）岩橋の夜の契もたえぬへし明るわひしきかつらきの神　左近

（チ）朧月の旅ねの床やまよひつき山にてゝからさし　俊和

（ほ）時雨つゝ虹は川かや岩橋の渡もたえぬかつらきの山　宗蓮

○神南備　杜　川　大和　杉　滝　丹波ニ同名○立田ニ三室

時鳥　蛙　時雨　紅葉　木葉ゝ　山吹　五月雨　月

御禊　ぬさ　白木綿　石清水　椥　雪　猶葉

千鳥　早苗　菴　麻　榛　里　岡　淵　小田

（五六）忍ひ行くみはくらみれはおもひの関わするゝして世よかなし　季

（松）蛙神なひの川は咲花へいくよあるとも人のとへかし　三条院　あるき

（大）清き流よ中らはまきく山深き家に人すむの里　人丸

片岡　山野　同　○朝原　鶯　若菜　雉子　褚野

春雨　麻　小萩　泡雪　霜　芝　旅人　向つ岡

椎荷　兎　雲雀　柵　家　森

（五七）片岡の向の峯に椎まかはことしの夏の陰になるかも　よみ人しらす

（松）志な照や片岡山の飯にうゑてふせる旅人あはれおやなし　聖徳太子

（淡なす）片岡の朝のはらはむら消て草はみとりに春雨そふる　家隆

柏木杜　同○時鳥　雹　下草　春雨　時雨

三笠乃山　柏木乃杜のしくれを打てまく
ミかさの山とこそわれハきゝにけり　古近

拾　人志れぬ思ひしるらハ柏木のもりやしのふ海士よかりけり

神洹山　月　玉榊かけてやふる神かきも山のかみちるゝ
しられよしこしかくしきりけり

鼃池　市　月　入江　社○鴨　ぬなは　時鳥　五月雨　河鹿

市人　斎槻（イヒツギ）　歩　月　芹（セリ）　上手（ウハテ）乃坂

鳰乃池の入江かくれの鴨すらも我上手をいねかね　[illegible]

夏　天とぶやかりの社の夜ふかくいくよもたれこれつまるら

蜻蛉（カゲロフ）小野　に○萩　下草　浅茅生　秋津

新六　色かはる萩ハ宮まうけるをのゝをみくおきさる風の吹き　光俊

形（カタチノ）小野　月○女郎花　刈草

新古　一目もしかゝる人乃よ刈萱のなミのみもおとなさるらん　源兼政

金ノ御嶽　月○よしの　紀川上　うへの曉　法乃行

よしさかへ金のみと待ちゝや曙も聞もを法乃行　為家

の交野（カタ）　宿　里　原　河内　○天河　水無瀬　伊駒　渚（ナギサ）

淀川　片岸　雉子　霙　鶉　樫（かし）　紅葉　真柴

糸乃露志乃薄　五月雨　簾　楢乃葉柏　ならか

真葛ヶ原　雪　花薄　渚乃松　着露　に狩

霜　村雨　月　冷虫　採狩　豊明　紅葉狩　駒

行幸　摺衣　やまとの聲　荻　萩　女郎花

和古　まれにこん所なきみやの採摺花の露の春のゆかりの後（後撰）

新千　消えかへりみるかたしらぬ花の露乃そらにきえて橘　家隆

淀野しらかさ露にかゝる人狩人の手にもつけや形見草

○河山鳥　宇津　○山　是

十　太よのミとおもひ何事もなかりの心あさくらめくよ（坂三位　季行）

○神道山　伊勢　○すゞら　に御裳濯川　五十鈴川

内外乃宮　榊　杉　小車の錦　注連　百枝乃松

まつりの使　かまくらのさき　蔵　簾　月　山岩戸

子　ふかく入て神路の奥を尋ぬれは又上もなき峯乃松風　西行

寄枕　神道山まつはむかしの松は枝のさきさきもなきそなき　行基

○後朝　日　○朝盤　月

○河口関　月　○月　あら塩

新千 河口乃関のあら垣いかなれは夜のかよひぢゆるさゞらん

○甲斐が根（白根とも） 小夜中山 木葉 雪 零 似人 山颪

続後拾 かひが根八まだ白神の月時鳥 さやかにや小夜中山 蓮法

○鎌倉山 里 相模○星月夜 宮柱 鶴が岡 薪

続古 宮柱ふとしきたてゝ万代に今ぞさかえん鎌倉の里 鎌倉右大臣

かまくらやみこしが崎に雪はなくみなの瀬川にまさる辺

○足柄関 武蔵○むさし野 東路 よぶこ鳥

続千 おほつかな雲ゐにまかふ足柄の関路の雲は立ちへだてゝぞかくるん 為世

○葛飾（カツシカ） 浦 下総○真間継橋 駒 五月雨 入江

風 沖津洲 鴫 室 稲 赤人の舟 卯花 鶉

五月雨は越えけり浪ハかつしかやかつみかくるゝまゝの継橋 雅経

日 うち渡す真間の入江の浪はたゞたえずもかよふ継橋 朝村

○勝間田池 同 一説大和 芦 蓮 根 菅 衛 入宮

岸 堤 浪 蓮 葉 水

新林 かつまたの池のむかしくて水もなく名のみのこれり 宗尊法

六 鳥もゐでいつの世よりか勝間田の池のほとりにたえずなりけん 内相

○霞浦 常陸 延喜 いさらなミのしるし

帰厂 煙 舟

（わ後撰）まよひあかすミ乃浦をこく舟のよるかたもみえぬ人を恋つゝ 定家

（新古秋）白波乃跡しらみぬ天乃原霞乃浦のゆふくれの空 忠良院

○鹿嶋 神崎 沖 同○霞 常 鏡乃神 しめ縄

宮浦 浮

楫 檜とら 鷲 沖津汐風○春月 志賀八一所（夫木）

（わ新古）あまりかく別れもいかにあるらんしまの松かけしらぬ夢や 後撰

（ま）ふるさとを思ひちるやゝみちの浦のおもかけのあまのしほ 光俊

○かとり取浦 下総○海士 ぬさ 舟人 貝

（続千）夜をさむみ浦乃松かねよる波のよるしくかゝる秋風 定家

○唐崎 浜 近江○比良 湖海 志賀 二輪神 志賀

鶴高根 越路 杉 汀浪 歩 月 一松 酒

神乃行幸 神乃御舟 舟木 大人 哥 あらひそ

江 雫 清庇 する 真砂地 沖 神社

（新拾）波ま氏に沖つしほ風ふきあらし月にかはらぬ水のしらなみや 伊勢

（新集）はるはきてのこるしら雪ちらしつゝ越路をみする志賀の山かせ 慈円

夫 夜渡乃松乃梢よ舟の帆をさしてみをし三上抄拾 為定

○鏡山 月 ○老曽乃杜 志賀 花 卯花 紅葉 月 宮

神乃宮 時雨 旁 霜 豊明 鳴 挂 榊 時鳥

翁かさ よぶこ鳥 鶺 根ぶし乃桜

声 鏡山いさ立よりてみてゆかん年へぬる身ハ老やしぬると 大伴黒主

秋 花乃色をうつしとゞめよ鏡山春よりのちの影や見ゆると 是則

冬 時雨ふる秋の紅葉のうつらねバかゝみの山のなき影あらん 後光

鏡山 山城

山科乃かゝみ乃山ハありともなを大空くハゆきかへれらん

○同 豊前

豊国乃かゝみの山よ岩戸たてかくれにけらしまてときまさぬ 手持女王

○蒲生野 近江 ○むらさき野 山 鷹 かり 若紫

ぬ かまふ乃ゝむらさき野よ行鷹乃手にすゑて千代のためしよ よミ人しらず

○堅田 浦 沖 池 浜 同○延喜乃捨舟 漁火 かとり

冬 鷺 千鳥 鯯 寄 さゞ浪 海士のうけ 濁 網

浜よ入さるかたゝ人舟八極も堅田乃浦乃さゞ浪 宗成

わた船 えへハとかしこきて鯯つるやきる中乃玉藻 衣笠内大臣

○勝（カチ）野 原 同○いるべ 萩 旅人 うづら 駒 為家

夕立 やどり 遠入ノ白雲 大川舟 渡小

後拾撰 きゝ渇乃ゝみねの雲ゐ宿とハゝ雲ハゆらん遠乃白雲 家隆

○風越峯 信濃 ○郭公 木曽川波 梅

花 紅葉 霧 五月乃雨 穂 槙

千 うき色を夕きて風の時雨よりみね乃かけに鳴る 清輔

○可（カ）保（ホ）夜（ヤ）沼 上野 ○東路 うきつるさ

○帰山 越前 ○数かへ 宮 厂 色 枝折 越路

いつくさ 花 旅人 時鳥 庵 柴扉 紅葉 濃筆

新古 よしやふ人世に越路乃帰山いつか人を待ちまし見ん 女

き 人乃ね乃罕とも分て帰山葉も峯に行く方とて 能宗

○神南備山 丹波 ○榊葉 川 注連 コメリ

○桂山 同 ○豊乃明 照月 コメリ

○鹿嶌 丹後 ○暁ノ夢 岩こへ浪

○懸渚 月 霜よきこ声の枕とふハおもまて いつくかけ乃渚ちるらん 津守国冬

○辛荷（カラカ）嶌 播ノ ○満汐 玉藻 五月雨

○加古嶋 渚 月 ○松風 零（タヅ） 有明乃月

蒲汐 よまり

わ後古 ゆ乃かたこの湊の夕塩に松をたよりにてたつる鳴くし　津守国具

〇唐琴泊 備前〇舟人 松乃夕風

二古 波乃音れよ絹をさらすよ霞れハ浅乃空やあらたまるらん　安倍清行

〇神嶋 備中 続後 神嶋乃波の白ゆふかけまくもかしこき代乃ためしなるらし　資定

〇同 紀伊国 儀る浦〇波風 よする 波乃声ゆへ 月よみ乃光 鴨 を仁任出 なちられ松

わ続古 すきすきとふけてわたる神島や綾なる浦乃波の声かハ　家円

〇神嶋山 紀伊〇三ゝ野 石すゝき

形見浦 月〇田鶴 千鳥 藻刈舟 ともしか

延喜乃釣舟 月

わ古 もかり舟沖こき来らし妹か嶋かたみの浦よたつかける見ゆ　よみ人不知

わ後拾 おもふ何をまくる三乃浦つたふ沼のき波よぬれて行らん　家定

〇竈門（カマド） 山 神 筑前〇雨 霧 霞 火 煙

拾遺三 詞云 暑く 春ハもえ秋ハこかるゝかまと山かすミもきりもけふりとそみる　元輔

○香椎（かすい） 宮 神 浮渡 沖 筑前 ○胡菜摘 玉も川

同 梅 沖津風 塩干 かた あや杉

（続古）舟出する沖津汐さひ白妙のしゐの見ゆらん波まくらまし 忠家

（新続古）汐ひ非の夜をされかすゐ浮浦浪こえく立家か舟 源持賢

○今津湊 同 ○志らなみ神 浮枕 淡路

きつゝあれ金乃ゆさゝき風の吹き枕淡路も波は浅くこそぬ 義量

○刈萱関 月 ○志乃やの軒 夕立

（新古）刈かやの関守にのみみえつるは人もゆるさぬ道へなりけり 菅家

○鏡神 肥前 ○松浦川 月 玉嶋川

（新）志つめらん後の鏡やこれならん松浦の川に秋の夜の月 定家

○笠結（ゆひ）嶋 豊後 志はつ山 棚なし小舟 朝霧

（古）志はつ山うちこえ見れは笠ゆひの嶋こきかくる棚なし小舟

○笠縫里 美濃

十六夜記ニ 旅人のみのゝ井とゝよ夕暮や猶宿かるゝ笠縫の里 安嘉門院四条

○忘井 ー 摂津 ○富の小川 同 浮木

（新古）渇かき忘井の水をむすひわけて心の底をくみつかん 上東門院

新後撰
まれにこそ淀の渡ときゝてこれハ深草あをしき井かゝり　安嘉

○加佐ゝ我山　末勢 ○花衣　紅葉乃洞　月

○淀 山城国　沢川　渡野 ○美豆野　小塩山　水無瀬

男山　三笠山　竹田　交野　竹下ろ　長旅　心つくし

鄙山　柴漬（ふしヅケ）　高瀬舟　佐ゝん岸　歩人　里子

筏　鵜飼舟　真菰（ワカゴモ ミコモ）　若菜　青柳　田　早苗

菖蒲　はゝこ摘　押　雉子　時鳥　鴫　千鳥　鷺

春駒　れ秣草　鯉 子久　行幸　舟よそ人　胡芳車

月　水　五月雨　イナゴ魚ゝ　旅立

古
海こしの川淀の渡の雨ふれハあをよりまさる恋　貫之

後拾
三日月の形のやうなるかくりしれし草そ淀にゝこ摘ゝ　宗于

新古
都はしきみやこまで折をて淀の川美月まつるゆ　公衡

玉
深き夜の竹田の川をれをと車暁かけてとめゆく　為家

○吉田　里　宮　神　同 ○春日乃社　内乃宮人　神　禹居

拾
ゆめくそくへ吉田の里の杖をれぬとゝまれ　萬代　兼盛

新後古
万代を祈るを四くらの霜をくたぬ吉田の神のすまかれ　兼熙

吉野（大和） 山 川 里 瀧 峯 宮 嵩 山井 。大川邉
（高根 尾上 花園）
妹背山 ハ垣越 夏箕川 ハ舟山 象山 宮
六田淀 香久山 信田杜 塩竈浦 姨捨山 越白根
冨士 白河 花 難波 朝原 宇治山 泊瀬女
三輪 うきよけちの小野 十市 秋津野 紀伊
水分山 青峯 巻向 檜原 古津川 細谷川
みみサイタツゝ菊 蕨 山岩な 薄 款冬 白菊
葛 萩 ミツ二カ菅 道芝 スヽ芦 槇 紅葉

摘田 卯花 柳 つゝじ 岩戸 柏 正木
馬酔木 枝折 柴戸 茶菴 芦垣 神垣
ハ桜 白木綿 花 太ゝ人 ハ調物 国栖人 行幸
天津乙女 山外 スカク衣 谷の埋木 爪木 為事
網代木 井関 筏 高瀬舟 井堤 柵 舟 鵜飼舟
魚梁 鮎 蛙 よふこ鳥 雉 雲雀 田面雁 鶯 時鳥
よふこ鳥 鴨 山井の小柱 氷 雪 月 霙 春雨
白雲 時雨 村雨 五月雨 山河の渡 林 鹿 里人

衣手川　子日　鵜　山吹　河の山霧　擣衣

古　よしの川岸の山吹ふく風にそこの影さへうつろひにけり　貫之

千　よしの山みねにハはなもまたねとも岸にこそ花の白浪　顕昭

月　みよしのゝ花の盛をけふ見れは越の白根に春風そふく　俊成

夫　よしの川よしやみるめハたえてもなき家ハ春風そ　定家

家集　よし野山月ハ朧の有明よりもよりそむ岑の花園　西行

○横野堤　和泉　淡路　霜かれのよこ野の堤風さえて入汐とほく千鳥鳴く　光俊

○淀継橋　摂津　真野浦　舟よそふ月　難面人

続古　真野の浦の淀の継橋つきもせぬ見よと人をまちわたるかな　経朝

○喚續橋（ヨヒツギ）　尾張　新　鳴海かた夕浪千鳥たちかへり友よひつきの濱に鳴也　蔵阿上人

○横川　岑　近江　八重さ川　奥山　松　墨染袖

わき井乃月　徳　閼伽　山川乃水　唐舟　泪乃雨

たのむ夜舟の面影をうつすともうし山川の水　慈円　家集

○余古浦　月　己高見山（タカミ）　伊吹嵩　天乙女

松　月　入江　入海

ま　さゝ浪やよきのうら風あまりそてにもる入海　後京

横野 上野 新續古 東の根ろふしこえてつれなき すれ まつ袖よつまんゑさもむすほれ 後成

○与謝(ヨサ) 海 浦 湊 入海 濱 磯 舟 後國 ○網引

吹井ノ浦 稲ノ浦 天ノ橋立 門前ノ濱 小鴫ノ磯

倉椅川 遊ノ浦 漁 蟹 天井 くのゝ戸

鶚(ミサゴ) 蛍 庫 探貝 拾ひ 夕涼ミ 塩焼 泉

月 若布刈 沖津汐風 沖 漕舟 大山

續拾遺 橋立やこゝろ吹井の浦にさよふけて遠より沖に出る月の清さ 衣笠内大臣

よさの海内外の濱に浦さびて浮世をわたる天の橋立 西行

○竹田原里 山城 ○芹川 淀車 早苗 雫 鶉

續古 きりくもる鷹の諸よ

しの竹にたもとよふれて芹川や竹田の早苗ふしたちにけり よしつね入道寸

續古 ふるさと竹田の里よつもれ秋く夜もすがら〳〵〳〵 後鳥羽

○芹川 岸 円 駒 數冬 井手 下草 柵 柳

岩ね 探ゝ 厂 蛙 夜草

○芹川 里 搔 漾 ○柵 卯花 搗衣 草戸 時鳥

荻 衣干 垣根 氷柱(ツラヽ) 月 芸ル 步 霰 衣

夏　みわたせハ波の柵かけてけり卯花咲る玉川の里　相模

冬　問えてこぬ里ハ玉川やそてうみ氷きねを埋む白雪　定家

○玉川　武蔵　○調布（テツクリ）　遠入きさめさ

秋　玉川にさらす手つくりさら〳〵に昔の人の恋しきやなそ　洪仝卿

○玉川　近江　萩　鹿　鶉　化野（アダシノ）　月

十　あすもこん野路の玉川萩こえて色なる浪に月やとりけり　俊頼

○玉川　陸奥（野田）　府浦　鮎　汐　千鳥　水鳥　月　氷

五月雨　篝火　浅瀬　入江　秋沙鳥之

○玉川　紀伊　冬　わすれても汲やしつらむ旅人の
高野のおくの玉川のみつ　弘法大師

○玉井　山城　○山吹　月

冬　都ちあ人に角すれ刈もられ結むむつる玉井のの　藤道信朝臣

○ゐての杜　宮　同　○赤　玉道　ゆふたすき　れ桜　よふこ鳥

なくしきん　蜩　河そみしり

ま　後宮よかものゝとみ渡を良れの竹ハ下おれなり　巻四

○高雄山　月　○愛宕　清瀧川　谷陰　松ノ下乃

秋　おきそえのくる雉のせむろつゝそへハあるき凡れかわ　八条おほい君　みなん

高雄 なつこそりぬ山入時雨る嵐のくこそとよきゆきしもゐ

よ 高雄寺あはれなりけるつとめかなやすらひ花と鼓うつなり 西行

。槇尾の月。山の名 浮舟 八十氏人

後京 袖のうへや旅ねの人槇の尾に出よハ風そう舟 太上天皇

。龍田（山 川 河原 里 岸 峰 尾上） 大和。岩瀬杜 三室岸 かつらき

高間 雄倉峯 吉野 高安里 三津泊 三輪

衣手森 竹泉 石井 佐保山 康 聖射 當

附る 呼子鳥 浮ぶる 鴨 ある 春霞附る

松虫 薄駒 盗人 狩人 桜（初桜 八重桜） 柳（岸） 紅葉

卯花 咲し 花 青つゞら 松乃村立 あらし 鳥

ほとゝぎす 藤（浪） 苗代 時雨 霧 雪 霜 月

鹿猿 ぬえ 白鷺 落葉 雁 琴引 思出 水

井関 柵 搗衣 行幸 五十串 林康里（上市 下市）

古 花のちるやよしのゝ春の夜の山の鶯の声 後藤

撰 吉田川よしのは君か名をうつしとゞハ森の行よしのよ ありけ 元玄

撰千 風そよぐ川との山さくら咲るしめつゞき二ノ鶯の初音 基俊

（林）盗人の立田の山に入にけりおなしかさしの名にやけかれん のれ

（玉）立田山嵐の音もる安異にけり遠寺とこゝろよ 阿一上人

高圓 山 峯（尾上 野上）野 宮 同〻 春日野 布留 初瀬 花

撫 しのふ 草木 庭松 荻 萩 葛 紫え

撫子 女郎花 尾花 浅茅 風 摺衣 鶯 雉子

鶉一ノ 時鳥 松虫 鹿 むしろ 瀧津 秋

卯花 雪 袖つき衣 友鴈 月 弓張月 秋

（新古）萩か花真袖にかけて高圓の尾上の宮にひれふるや誰 顕昭

（後拾）うみかの人の世の流とて法遠なくも立ちなれ 行家

（二）いかよしくく瀬数も有りける高間の尾上のよれむしろ（鹿の声） [illegible]

（内）明あくき高間のしかも白波の高瀬川にうけつる舟人 頼政

高天（間）山 峯 河 里 社 同〻 葛城 龍田 花 桜 紅葉

槙 宮木（守）浅茅 注連 鶯 郭公 一ノ 鹿 照射

西風 山彦 天津乙女 撫 五月雨 冬至 白雲

月 雪 霞 とよりこし

（新古）かつらきや高まの桜咲にけり立田のおくにかゝる白雲 寂蓮

金剛（ちれがみ）にたえてみかね泥登するたかねの秋の夜月　西園寺内大臣女

もとのまゝて行螢とみてつくゑるたかねのみやりこから　俊恵

珠城宮（タマキノ）　同の部　歌の　五十鈴川　雪　月

すゑのよのさきみえて五十鈴川たえぬ流れにかけて朝どうみ　修蔵

辰市　月　入途数　宇治間　清水　歌乃尼　花　民

風　みるのたまゆらたちの市やはまもさもかく大和　定家（しらぬ）

つま花野の白露　女郎花

（わすれがた）おもひの行かたもきえし霜枯の花のそこそことはこの風にまよふ　無相法師

手向山（新）　同の　紅葉　保　白雪　木綿　花

時雨　雪　月　ゆふしぐれ

（古）ひきむすぶぬさこそもみぢとく手向山あらしの神のまに〳〵　菅家

（大）一夜ねし手向の山のもみぢ葉はきぬさもひらにちるあけぼの　家隆（くうる）

同　近江に（大本仲正）又逢坂山のさくらむすびとよめり

（古）ゆふぐれて手向の山のみやすまでこえていそぎの君をいのり　坂上郎女（きんしも）

高城（タカキ）　大和　新作　かりのくる高城の峯の深山にも

そらもさらにちかく見ゆる高城の山　為定

高瀬　河淀　河内の　五月雨　舞　真菰　コモ枕

佐手乃礼　うつし舟　鴫　袖乃湊

（新拾）あと絶るゝ人乃涙よさしそてかひや露よ志つ　家長

竹川　円の紅葉　渕乃なかれ　花園　山吹花　鶯里

（新拾）おもふこと待つ時は竹川乃渕のそこよりもたかき人　躬恒

高安里　寺　同　立田山　伊駒　けふこそ見え　勝定

（新古）行かへる乃安乃里はおれなし寺にさんよ　阿一上人

高師ノ濱　和泉つくられ松　松　千鳥　雲　汐干

沖津浪　真砂　あだ浪　鳧

（詞花）沖津浪高師の濱の濱松名にはかけて我恋めやは　定家

同　松濱と

（勅）大伴のたか師の濱の松かねをまくらにぬれど家しおもほゆ　東人

玉江　沼　同　真菰　芦　菖蒲　春駒　螢　五月雨

磯なれ松　厂　鷺　三嶋江乃玉江とも

（金）五月雨に玉江乃水やまさるらん芦乃下葉乃かくれゆく哉　源

（サン）みしまえの芦のまつやまをとくなかる玉江乃沼をあさる　清輔

同　越前ニ　十寸鏡　村鳥　鴨　芦　花かつみ　月

（新拾）夏刈乃玉江の芦をふみしたきむれゐる鳥の立空そなき　重之

○高濱　摂津（後拾）あくられくみ代か食あらへしる濱の
松らしむまのゝ鳥の毛衣　太上天皇
高津　宮　同。難波　大和嶋根　玉籬　山石舟　松
梅　わかな　海　浅茅　月　時鳥　氷室　虫の音　雪　曙
勅　ゑ乃よ我月よ音や田むかへる津の名を白よ梅ゝ人　延
玉　昔田子かよる津のよ取ふりて難波の芦をかよ秋風を法　法師
○田蓑嶋　月。難波潟　海士　衣　雫　多ゝ　厂　降る雹
芦　枯　秋　拾衣　五月雨　菊　苫屋　芦の花
住民、花乃下　菊あらし

古　雨よよるたもれく鴻とふ春ゆをいなれく退しる知るらう　古今　貫之
夫　久しれも田蓑嶋よ雲雀鳴く芦荻乃乃やとる夜の　寂蓮
勅　○竹都　伊勢　斎宮乃座所也。○榊　注連乃内
呉竹乃よ我か於きくきくかくらに君かちとせをおもひやるかな　よ兼輔
○高師山　峯　遠江。○濱名橋　富士　林　康濱　杖ち
泊浦　開川　康蝉　花　流し　わかな　真柴
塩焼　裙野　谷川　雪月　かさゝき
勅　もみち積るゝに春こめてくる師の山よ康るゝ　顕仲

ふしの根ハちるを限の名許そこゆる際の山ゟおろゝ中世

○田子浦　駿河○富士　古江村　さくらの絹　霞

篷ノ宿　五月雨　鳴　千鳥　玉も刈　早苗　夢

清見　天乃羽衣　沖津風　光乃別　旅人　東路

浪乃ぬれ衣　涙払むし　遣入る　丁ノ色

新古
ちゝをとゝや恋をすかの田子の浦浪とゝに浪のたゝぬ日ぞなき　後京極

新
うな草ハきゝらぬ人なすらへる田子の浦苗今やひくらん

文
朔氷鳴もかよハぬ冬よ何となく田子の浦浪よし　素寂

竹下　相模○足柄　花乃雪　一夜宿り

九
みちまさの関乃戸出く足柄の山すりこえて竹乃下道　兼成

○玉野　武蔵○玉川　狩　小男鹿　まゆとみる草

続古
玉薄かりはきし秋萩の立もく末をも鹿やなく覧　今家王政大臣

高嶋　近江　山河　浦のくらの　八里　三尾ノ中山（杣山）　勝野（カチノ）

夕立　麻　槙　檜乃　きゝ　ゐ　月　松ノ梢　鵜

続拾
高嶋乃かちのゝ原の宿にて人ハ今日やゆく遠乃やま　家隆

新続古
ひとりすむ嵐乃音もしきる身のみをの杣山あさまハかり　幽提法

○多谷上（タナカミ）川　山里　近江　田上○水尾（ミヲ）松本　宇治　勢多

網代　氷魚　芦の丸屋　紅葉　河風　卯花　瓜木

家生乃嵩　江（ニホノウミ）にねうつ　櫂（カジキ）　かゝり火

あとり　簾　奥築　真木ノ戸　太山風　稲

栖　篝火　舟　紅葉　山おろし　柳　お

（秋）月影乃田上川に清けれは網代にひをのよるもみえけり　元輔

（後古）衣手の田上川やかはるらんみをの山風さえまさるらし　（太下）

○玉（タマ）ノ井　義乃詞　むかしみし玉井の水のゆくすゑはうつりし年とくにけり　家隆

○多胡入野（タコノイリノ）　上野○葛のはうつろふ　草枕

武隈（タケクマ）　陸奥○千賀塩竈　安達原　松　紅葉

藤　時鳥　都人　コトナシ草　春　霞　月　雪

（後拾）武隈の松は二木を都人いかゝととはゝみきとこたへん　季通

またしらぬ安達か原は江良にて千とせあらぬ武隈の松　兼通

○玉造江（タマツクリエ）川　同○芦　アヤメ草　舟

（勅）漕入の玉造江にさす舟のさしてそたえぬ思ひしとまと　小野小町

○多枯浦　磯　入江　越中○藤　浪　松　早苗　時鳥

越路 笹ｲ小舟 古江村 五月雨 崎 汀

（新秋）五月雨は古江の妻も見えすかくて行まてかくれにし浦波 法印定円

（玉）沖津風こえし磯の松か枝に人まちてかゝる古江の浦なみ 宗尊

○高田ノ山 石見 ○時鳥 五月雨

○高間ノ山 同 秋 石見なる高間の山の木間より わかふる袖を妹見つらんか 人丸

○高角ノ山 同 ○もみちふもと 峯 月 松

（続古）石見のや夕こえくれてみわたせは高角山に月そいさよふ 家隆

高角ノ社 同 荒磯 大海

高砂 尾上 峯 山 浦 播ノ ○室泊 猪名 赤ノ松山

萩 桜 紅葉 藤 鹿 浪 郭公 鶯 千鳥 鶴

山鳥 夜ノ川 八重ノ汐風 松虫 擣衣 岸 湊

沖 磯 波 舟 霰 雪 時雨 月 花 山寺

（古）秋萩の花咲にけり高砂の尾上の鹿は今や鳴らん 敏行

（新）高砂の松にすむ時鳥こゝの湊なる舟はこゝろせん 顕季

（玉）あさきりの宿は泊の曙はきよくあらし高砂の松 後九条内大臣

（秋玉）みそれはやと高砂のおのへより雪ふるかたの風の吹らん 慈円

○高倉山　備中○富草ノ花　門田

凡　君か代は門田に刈稲のゑ山にみちぬへき哉　匡房

○玉津嶋　入江岸　宮神　社漆　紀伊○若浦

住吉浜鵆　奈良　箱屋山　和田原　磯ノ松　雫

五十冊　よる　薄　行幸　蛛ノ根葉　月

真砂　小松　浦同

万　玉津嶋よくみくハ青丹吉ならちる人の待といふ　まく人哉

夫　見にきゝ箱屋の山の月ならでよるとさる玉津嶋　蛤益宗

さむしる見よ君もあやしいさるもの漢の風をよみゐ　時賢

新後古 神祇　この方ハ玉津嶋の御方とよ人

○高野　山峯　同○大原ノ里　岩ノ室　谷ノ扉　縁

玉川　苔下　并鍋　草菴　法ノ灯　行者

白衣　藤　一松　唐冊　柳　孫ノ嗣　伽振杖　都

墨染　袖　暁を待　時雨　雪　霜　月　橋

千　修行者ハ谷の扉を埋むとも三世の佛の月や照らん　崇徳

月　暁をたかのゝ山に待程や苔の下にも有明の月　寂蓮

（凡）逃ゝ代庵舟子のりせさく／まつを移す松乃声　阿上人

大原に住侍りける比西行高野より十首送りける返しに

（うた）あはれさはかうやと君もおもひしれ秋くれかたの大原の里　寂然

○田中ノ井戸　同○山吹乃花　康　秋風

（続古）咲にけり萬代かけて移ろはて田中の井戸の山吹の花　待賢門院堀河

○玉嶋河　里　肥前○松浦山　松江　河上　杜

（続千）採　時鳥　千鳥　鮎　魚藻　霞　月　里乃烟

梅かゝを移して紀清き玉嶋川のよる乃紅葉　定家

（凡）玉嶋や　おちくる鮎ノ川柳下吹く松風に　家隆

（百首）乙女子かこの川上の家つとに玉嶋採ふりてけり之　国名

（後撰）○多波礼嶌　肥後○わさ名　波ノ濡衣

名にしおはゝあさもおりてもあれたゝ波のぬれ衣いくよきつらん

○園韓神（ソノカラ）蔵　近きてこたえぬ稀なる何かれきえん

うつる神とは云ぬ祝らん　少將内侍

○袖振山　大和○瑶華　採　冷虫　紅葉　神ふ松

をとめご　天乃衣　花　月　池　薄　鶯　時鳥

（秋）乙女子か袖振山の瑞垣の久しき代より思ひ初てき　人丸

後十
天津風をゆふつ乙女子か袖ふる山乃秋の夜の月　国友

○曽乃原　野　信濃　○伏屋　箒木　木賊刈　康

うづら鳴　柾子　月　捐坂山

長秋
な露乃色ゝろゝハきゝろりそれ相坂とハこれをそ思ふ　相模

新古
木賊刈る園原山乃梢よりみかれ出る秋の夜の月　仲実

○袖渡　陸奥　新古
みちのくの袖の渡の涙川心のうちになかれてそすむ　相模

○袖浦　出羽　○海士　ミルメ刈　千鳥　忘貝　松

春　五月雨　擣衣　宮　とりかへ　もミ葉　川原

水車　烟　湊入江　唐舟

続後撰
君恋る涙を海と湛へてもいかゝハ袖の浦哉　通憲

ま
旅衣立よる磯の松陰に涼しくかよふ袖乃うら風　宣時

○袖師浦　出雲　○千鳥　康　忘貝　烟门　寄

なくさ系　佐人

新古
庵衣袖師の浦のけふの貝爪とき瀬よりこれを色ぬる　国房

ま
康のまゝハ尾花の浪にあそひきて袖師浦にてぬるゝ　宥仲

○そか（ソガノ）河原　同　○千鳥　真菅　五月雨

こよひこれは菱川岸の月のかけにちりはなれゆく　頼政

○染川　筑前　○思そめし　あやめ川　河水

宿の浪　わたる人

後撰
つくしなる思ひ染川わたりなは水やまさらむよとむ時なく　藤原真忠

○袖湊　同○里　舩舟　月　唐舟　千鳥　松浦

芦　蛍　本海　化浪（あだなみ）

續千
涙そふ袖の湊をたのみにて月もとまりの数にくまけり　津守國助

又
日をふるし袖の湊を行舟はたちかくふねもひとのかひなき　光俊

○綴喜（つゞき）　原里　山城　武蔵野有同名　宮山　園　○上奈良

秋草　長月　夕立　採

又
五月雨も花のところを袖ながら採つゝきの山のかたを名告

此方八大内山のつゝきとそいふ可尋

○月輪　同○藤　桂の宿　採　花

はきの間に植る宿をみてゆくは月輪ともよきこゆる　条七補雄

○月ノ林寺　同村
むかしかは臥しつのそむく月の林の名のみのこりて　○八　後生

○津守　沖　岸　浦　宮　神　松　津　○武庫　住吉

霰松原 遠里小野 延蟲 天降神 環離

夜川 月 雪 濱松 濱楸 濱庇 よしか草

ゆよ そろくと津守の沖にこきゆけハ岸乃松風遠さかる也 （ね京極）

又 秋のよハむかしの高ね月ふして津守の浦によする皇 （イ云门 太輔）

厨雛野 同 ○三津 堀江 御狩 御室 廉 大山守

ま あしへのつきみかりそぬかりくおかむれやきそ初〻ん （中務一）

宮乃おまへ宮居かりやみてつらん心かうけ小廉の恩ハとま

○月讀 神社 伊勢 ○勢る乃高根

月よみの神し照さハわさとをぬくら〻ぬむや （大中臣 力也）

○鶴郡 川妻 君か代 白玉椿 杦野

○鶴岡 相模 數ならぬ身の思ひ本るとも松かゑふく風の月もまし〻万代のこゑ 基氏

○筑波 山 根 河 神 常陸 ○美名乃川 ヤ戸 往山

深名橋 端山茂山 此面彼面 谷 裾輪田井

滴乃田井 撫乃なる 百合草 尾花 橘 松

枝折 一本 新桑眉 山鳥 時鳥 鳫 鷲

廉 駐射 稜 炭竈 茂き思 木葉 雪

菴畑 時雨 花 月 白鳥

はくそねの峯の桜やこゝろ川かれ渕とおもつみん　雅吉

刈かをとむつる田井よりおもておもしろくやさしく秋よの月

筑摩（ツクマ） 江神 沼野 近江ニ 菖蒲 芥（ミクリ） 紫

冬草 芦 菅 鴛 鴫 五月雨

あふみなるつくまの祭とくをうへ人雑面人の鍋の数を人　金記

つくま川入江に出るねぬ八声のうら葉うつねなん　恵慶

月出浦（イヅ） 月 秋

ところくと見えなきまはうらうて月出の浦の延虫乃沼舟　津輔

瀧（タキ）ノ湯 信乃ニ 流れの其湯とみ侍りて

いつはりのわくよかれてる白糸ハたえぬおもかげ　重之

敦賀 浜浦 越前ニ入 岩かけの名

かゐ色の山 多古浦（タコノウラ） 越路 勇魚（イサナ）

あまをとめ恩ひつくかの越のみかくハまするなり是

ありそつなみをたてて海辺ノ人の今うたるゝ

鼓山 丹波 金もとなるきつねの山かくゝるゝのきの行衛をぬるゝれき　行蔵

津田ノ細江 播广ノ 五月雨 冬草 わ・と

みくり沖ほ凡　舟人　　忠盛法

（多波は異）青雨ハつくこ乃なみ江のみをしくきともも涼きほしけなり

皷嵩　隠岐　○昔ミちり出るを　於道物名

かくりかハ乃ふ宝をそてつハなかれつゝ氷をとゝなり　紀輔時

皷滝　肥後　摂津国右同名

（秋）あにきてつゝみ瀧をうちかまへたゝ山川乃ちるもみち有　よみ人不知

寝覚里　美濃

（夏）凡乃あきそおとろかれてぞわきこもあつ

袖こめ氷里下夜ふ河らん　伊勢大輔

眠森　未勘

（新勅撰）おもしろけり眠乃ちもれすゝまくそ

目もし草ハうとのかもりそて　俊頼

雙岡　山城　○嵐山に在　紫藤寺　菫川　萱花

ならし　小笠　紅葉　松原　蝉　鶯　月　雪

（凡）なくよ双乃岡の初紅葉秋のはなのいはまさへかりに宇多

（夫）つとに咲双岡乃松陰ふ遠の夕日かくるゝ川乃え　為相

（知）鳴つく蝉のもろ声ひまもあれ双岡乃夕日くれ　為家

鳴瀧　川　同

かひくりのうく鳴瀧をきぬれぬれ

夏まちつてぬらも涼なりけり　[illegible]

（伊勢は異）鳴瀧や西乃河せにみそきせん岩こす浪も秋やちかきと　俊成

楢小河　同

（新勅）凡そよくなら乃小川のゆふくれハみそきそ夏のしるしなりける　家隆

まみそきする岩の葛もしとおらぬ川そゑをらの川風　忠之

中川　同○木陰ノ宿　瀬　渕　渡　垣根つゝき

夕萱　田芹　萍　撫　卯花　鶺鴒　水核

鉄古
しきハ名のみなりけり今も木陰涼しき中川乃里　光俊

続千
いとゝ又涙ハ渕となりにけり逢瀬もしらぬ中川の水　平時貞

ま
中川やつゝみにさける卯花ハ垣根つゝきに浪そ越ける　俊成

う川をとと斬場ノ　萩墓ナし心　源氏花散里ノ心

源
をちかえりえそ忍はれぬ時鳥ほのかたらひし宿乃垣根ニ

○長岡　里　同　○田作乃庵　鴫乃羽かき

ま
長岡や田つらのいほのあれまくにねさめの空に鴫の羽かき　西園寺

葎生て暮ゆく宿のあはれさハかりねの床のすゝき　華　之かり

○奈良　山　坂　里　都　古き　大和　佐保　泉川　春日山

玉津嶋　井手　飛鳥　太刀　水核　梅　八重桜　藤

若菜　小松　玉柳　椎子　児手柏　萩　時鳥　鶯

鳫　鈴虫　萱　ノ法　宮柱　宿　黒木　妹　時雨

古今
古里と成にし奈良の都にも色ハかはらす花ハ咲けり　奈良のみかと

拾 白くものたなひきわたるけふきてならしの岡の紐子ろ

夫 萱咲ならしの岡の花を見てすゝしのころかへりこしかな　仲正

一那良志　山岡　同○岩瀬杜　布留社　神南備

刈萱　葛　篠　楢柴　花　紅葉　よふこ鳥

郭公　箸鷹　鹿　ほとゝぎす　雪　採

勅 あさぢやにならしの浜にかくれなくならしの岡にみやこへのこゝち　赤人

夫 待人のならしの岡のほとゝぎす我おもふ心あるらし　為家

夏箕河　同○よしの　採　卯花　鵯　螢

蟬　蜩　氷　五月雨　月

新古 ほとゝぎすなつみの河のかは風に鳴わたるなり山かけにして　男覆

玉 むもれ木のよるの白浪とみゆらんなつみの川のたきつ院左大臣

○七瀬淀　月　肥前○有同名○五月雨　歩

後拾異 あすか川七瀬の淀にすむ風のなかれてゆくも月日ら吹

○波斂（ニギサ）　杜岡　河内○交野　宿　宮　まなご　鼓　梅　採

後古 花　松　薄　卯花　時鳥　鶴　鴨　紅葉

一河内女のいくらもなく染てふるからの渚のもみちなりけり　衣笠内大臣

き
言語のかは諸人の思の思ひねにまさ衣つもる浦の部花ま定

難波（浮浦 津 渡 江 澪 沖 濱 浅し）（都 寺 灘 里 河宮 海 磯 杦津）

田蓑嶋 長柄 橋 住吉 三津 堀江 梓ノ杣

淡路嶋 異浦（コトウラ） 高津 昆陽（コヤ） 芥川 武庫

平野 生田 草香山 吹飯 塩竈 田舎 古都

古々（田芦）（苗） 菅 みノ立 蓮 鶯 厂 千鳥 郭公

零 鴎 安持 村 鴨 都鳥 蛍 蛬火 蟋蟀

鯨 三貝 玉拾ヲ 駒 玉柏 水串 釣舟 漁火

灘ノ 捨舟 籠舟 棚無舟 丸木橋 網川 芦辺

小調物 小枝 大垣 法 小菅 笠 夜 夕縄

赤曽保舟 芦屋 スツモタク 沖白洲 梅コ花

探ノ 所 藤 芦 荻 真菰（コモ） 磯山寺 こと

鷹も夜 芦火焼 生駒 高山 城の高羽 月

家 五月雨 八重波 凡

古
難波浮汲満に延夜大入の鳴子河なる さよ人家

林物名
津の国の難波ゝ[illegible]の田八十[illegible] スケ三 ハケカね

新勅 難波津に冬籠せし花なれや平野の松にふれる白雪　家隆

十 え本川梓の杣に宮木ひきて難波の浦と遠く成ぬる　経信

三 昔こそ難波田舎といはれけめ今ハ都ひきみやこびにけり　宇合

長柄（宮里）橋　濱　同　難波　大江　橋　宇治川　淡路嶋

住吉松　三嶋江　冨士煙　真砂　千鳥　鶚　松

寺　蜑舟　芦　玉も刈　菅　礫　岩

三 年ふりて橋ハなとまつらむこゝをさきなると何かたへん　信實

大夫 まよはむ八十氏川の池月とみて橋の上にみれバ　よみ人しらず

古六帖 [illegible]　安嘉門院四条

那古海　浦　淡月　鳴門沖　住吉　淡路嶋　うつき

駒　玉拾ふ　貝　洞　寒　沖津白浪

三 住吉の岸の松駒とめて玉ひろふ八つ日長くれ　為家

同 かつまの宮の森あかき出る日にをとの濱人のおりたつ　仲芳

長居浦　同沖　伊駒　住吉池　千鳥　時鳥

鶴　松　芦　細石　霜　葉月　舟

十 霜はてゝさ夜もふけゐの浦さえて明かたちかく[illegible]人　静賢

○鳴尾 沖浦 同○和田入江 生駒山 千鳥 簾 擣衣
松（下） 泊 三ル〆刈 ― 延虫 汐風
後千 秋されは雲ゐなる浦風に延蚕人ハ浪うけ衣うつなる音遠し 貞重
文 浦さむくなく衣うつなりの泊れ松風さえて千鳥なくなり 澄西法師
古 ○長濱浦 伊勢○真砂敷 女種貝
君か代ハ限もあらし長濱の真砂の数ハよみつくすとも
○涙川 同○浮 三ルメ 水鳥 柵 水串 丸木橋
文 おもふ川漾まうへす浮ふみなわのうきもなかれてよしや 顕仲

○流江 同○淀伏 螢 千鳥
新千 いま風鳴海の浦のみなと入塩より流江遠く千鳥なく也 為重
テルミ ○鳴海 沖浦 濱 浮野辺 尾張○呼続濱 若浦 松
海渡寺
千鳥 安持村 秋汐（アキス） 空貝 鯛釣 捨舟 零
濱楸 江菜 延蚕 塩瀬 塩竈 笠屋 玉モ刈
網 擣衣 都恋 上野道 月 霜ノ下草
○松風乃里 夜寒乃里 星崎（何まても近き之）
新古 夕されはうらの浦の濱楸あれぬ松はのちよとよむ風 俊頼

夫 ゆかし恩とめくりて行人の松の流は何かなしきん 之朔

新後古 人数に非ぬ浦の浦に見いけりひともえて拾らん 顕昭

○鳴澤 駿河 富士 清見か関 蛍 五月雨

新拾 さみたれにくるる比の鳴沢ハ越てもや烟立まよふ人 慈円

新 をりふし富士の鳴沢風越て清見か関に錦をりなく 後九

○七社 近江 三津濱 日吉 六道 神詣 三ノ山本

三ノ聖 注連 鈴 猿 探 瑞籬 星

新古 あまねしも七の社のゆふたすきかけてもちかへ人のまことに 慈円

○長ら寺 山 峯 屋上 近江 ○志賀 辛崎 水海 藤原

大津道 真野浦 山乃井 無動寺 アカ浩 カウ 織

探 紅葉 神代の松 法花 尸康 山下水

菅ノ根 雪吹 月 花 蘇

千 さゝ浪や志賀の山越を見てこそハ尾上を越る志賀の浦波 良清

続 月の入るかたや山路の松の木の下にかゝる影の涼しく 慈円

○名取川 月

古 大人にも今日はあらむかなしきに名取川にも渡る人なし

古 大方の名取の川いとゝ浮名をなかすらむなれ

七久里湯 信濃（なお林） つきもせす恋に涙をわかすかな こや七くりの出湯なるらん 相模

○名取河 郡 里の湯 陸奥○信夫の原 小山田 柵

魚八簗 流木 埋木 水鳥 時鳥 螢 女郎花

若葉 花 測 月の影 五月雨

金 あさほらけ名取の川の瀬を早み 岩越す浪の音のきこゆる 内大臣

古 時鳥名のみ五月雨名取川むもれ木まであらはれてかけ よみ人

○奈古曽関 陸奥（山） 同○信夫 相坂 野路 玉河 よしの

時鳥 鶯 山桜 幕本 薄 松鳩

古 みるめ刈海人のゆきゝの湊路に名こその関も我はすゑなくに 小町

後拾 東路のおほふなこその関の名は君を都にすめとなりけり 恵慶

同 都には君にあふ坂近けれはなこその関はとほきなるへし（ま） 実朝

夫 東路のそをなこその関とさへ人をとゝむる常なれや 家長

○名草 浜 浦 山 紀伊○なよ竹 檜隈宮 貝拾ふ

新勅 磯乃刈みるめも波にまかせつゝ名草の浜を尋ぬるかな 俊成

九 名草山ことゝもや榊のはつきせぬ神のみことに三枝限りの（紀俊文）

○那智 山 滝 高根 同 淡路 注連 三熊野 草

三重瀧（三年渡ル） 終ノ栖 仏 花 海

続古 おちたきつみのりの道に落る泳津尼と心の底も[illegible] 式乾門院御匣

玉 ありかたく積る詞の罪もわすられて心すみぬる三かさねの瀧 西行

○鳴門 沖 浦 阿波 ○淡路 那古浦 淡底

縁（イサナ）雞 わかめ 貝 海塩 瀬戸 汐風

新拾 [illegible]の沖津舟人 成清

夫木 まつ[illegible]浦よ秋[illegible] 相撲

○大奈毛己武森 大隅 ○社 神 時鳥 サネカツラ

ム

続古 神さふるおほくまの森の時鳥しるく[illegible] 入道前太政大臣

夫木 [illegible] 権中納言

○梅津河 山城 ○井関 鵜舟 簾 里 渡 宮 梅宮

新拾 名にしおはゝ[illegible]梅津河井せき[illegible]

三宮親王 新拾 [illegible]花咲梅津の[illegible] 慶有

○紫野 同 大和二 近江二 同名 ○今宮 子日 むらさき草

栢ノ森 鷹狩 雁 菊 萩 豊（ユタカ）三テグラ 行幸

拾 白妙のとよみてくらをとりもちて斎ひそ初る紫の野よ 長能

（続千）拂しれねとや山菅を悪き上かやゆきにおきるかり鹿ぞ鳴なる　太上天皇

吉田　淀　大和○吉野　水分山　高瀬　採　柳恵

瀧　船　柴漬（フシヅケ）　佐手さし　鴛　蛙　五月雨　雪

（千）見しやみよ吉田乃淀まれくさても通ひ織麻衣ハ俊頼

（続古　秋）深き夜ハ水分山ヨ風寒けハ吉田乃淀の一ゆふつりもうつ家隆

武庫　浦　山　嵜　渡　河　海　入江　摂津

和田ノ崎　有馬　住吉　猪名　阿波沼　芦屋ノ（沖）

生駒　下南野　安津　難波　津守　朴（手）津

攝本　日和絲　洲鳥　貝（ミ）鳥　零　千鳥　網引

塩消舟　社神　泊　朝満汐

（新千）津国乃ひこ乃奥なる有馬山有ともみても雲ぞ久しき　基俊

（玉）住吉乃安津乃浦の夕なきに康乃音渡るむしこ成　慈

武蔵野　原　武蔵○堀兼井　向岡　富士

都筑（ツヽキ）原　霞関　岡辺原　足柄　女郎花　萩

若紫　尾花　江ともし　浅茅　蕨　菫　思草　薄

荻　吾木香（ワレモカウ）　蘭　葛　菊　白朮花（ヲケラガハナ）　条　牧（マキカリ）

厂時鳥 雉子 雲雀 鹿 照射 駒迎 里

荻の葉 花乃千種 雪乃下草 虫乃音

新古 行末ハ空もひとつのむさし野に草の原より出る月影 後京極

續秋 むさし野ゝきりの雲風吹やとらん まくらの草の尾花の末 [illegible]

新拾秋 花の方によるの[illegible]の声にゝて[illegible]の月武蔵野の末 定家

同 むさし野の草のゆかりもしらねとも[illegible]露の夕暮 顕昭

又 むさし野ゝ[illegible]秋萩も[illegible]なれ 好忠

新千 [illegible]ぬ里

○向岡 月 ○花 時鳥 草 川 菊 駒 飼 [illegible]

朔附月 夕 十寸 白鳥

新勅 むさし野の向の岡の草なれは根をたつねてもあはれとそ思 小町

夫 名もしるく向岡の花[illegible]そよそに[illegible]ける [illegible]

○席田 鶴乃 ○いつぬき川 霰 月 氷柱

續後拾秋 席田乃いつぬき川に[illegible]月[illegible] [illegible]

新拾 席田にふる年をへぬ住鶴も君かちよには[illegible]とそ思 源師[illegible]

○浩神 日 秋

君[illegible]むすふの神[illegible]つらき人を何つらからん

○室八嶋（下野）相坂 富士 東路 宿 都 けふり

夏草 岩木 雲の 五月雨 霧 時雨 烟 浮を

子 いかにせん室乃八嶋に宿もかな恋乃烟を空にまかへん 後成

源 東路乃室乃八嶋に思ひ立一よりかへる相坂の関 隆源

下野乃室乃八嶋よりたつ烟をこそ二乃世まてつかし○奥 やくらん

○室泊（播）古 砂 鴫 磯 追門 寄 苫屋

持多 千鳥 松 火堅 湊 沖ノナカゴ 浪ノ浦

教以 秋らに室乃泊乃湖風に声あらはて出る舟人 大江成量

文 室乃浦よりや舟出をよ時鳥世に知られぬる杜鵑 云

○虫明迫門 備前 浜 沖 浦 入江 泊 淡路嶋 康

より 都思 浦乃松風 沖津浪 八 舟人

淡路 終る夜を袖にこきれ乃風よりに月ろくとはむ虫明のせと 雅経

○室戸 土佐乃国室戸ともいふなり 弘法大師

法性乃室戸と我住ハ有為乃浪風よせぬ日そなき

○牟婁郡（ムロ）（ヤノ） 紀伊 侍従ぬいつかハきてよきかのむろの郡ハくるしとも（ゴン云）

有漏よりも無漏に入ぬる道なれは是そ仏乃すみかなりけり 白河

○内野 山城　九重乃内野の雪に跡つけて　はるかに千代の道をみるかな　前参議　雅経

○宇治　嵐山　河　里　同。槙嶋　槙尾山　朝日山

伏見　木幡　田上（タナカミ）　小淵が濱　數の流　鳥羽　樒原

瀧　都　峯寺　假菴　花園　花みる柳

松　椎　柯（ガイ）　花　藤　荻　芦　若菜　菖（ひたごも）深川

時鳥　しかる　雲雀　鵜　鮎　鵜飼舟　氷魚　鱸（ますう）

亀　田中　玉　柏　埋木　布任手　柴舟　赤み舟

網代　しば木　車　持衣　小紫（シガラ）　森　蛍（ホタ）　中宿

島乃浮舟　菱乃浮橋　河霧　月　氷　時雨　雪

五月雨　千鳥　勢多の渡　川長　橋守

金　うち川乃河せも見えぬ夕霧に槙乃嶋人舟よばふなり　基光

新古　ちかひ舟あとも見えねと武士乃八十氏川のゆふ霧の空　慈円

同　さ庠や待夜乃秋の風ふけて月をかたしく宇治の橋姫　定家

[illegible]　定なきよをうち川乃瀬津浪はもとより知れと君操々　万秋門院

玉　雪とみるこのはし橋の宇治川代あてもさらなれ渡りし人や待らん　小宰相

建保名所　夕くれハある羽田乃里に嵐吹て村雨なひくくらはしの山　知家

●瓜生（ウリフ）山 同 坂里野 ○鹿 紅葉 朝ノ河 雉 女郎花

鶯 霧

（勅）行かでたゞめかれぬくそ瓜生山峯立ならし鹿も鳴らん 謙徳公

○宇多ノ氷室 （同新後撰）ひさしさは六月中をいはぬかし山深の枝さしさ乃ひむろの槙乃下風 前太政大臣

○浮田ノ森 同 ○大荒木 苗代 紅葉 椎山茶 厂

時鳥 よふこ鳥 注連縄 時雨 五月雨 早苗

（続後共）下葉ふく末中ふかみまくらうき田の杜の五月雨 長息

（夫）つの月浮田の杜の露とをへよ為の月もなし

○宇治間山 大和 持統天皇吉野にみゆきありける時

（続古）うちま山あさ風さむし旅にして衣かすべき妹もあらなくに （佐保左大臣）

○宇陀野 月 ○耳無山 よふこ鳥 雉 鷹狩

鹿 萩 ほそ川 霧 雪

（続共）宮こ人よりの朝けにかくる狩衣ふるさとはかりもふりにし 家隆

（続千）秋くれの風をうけくても法の道宿えしぬ 宇多法皇

○浦ノ初島 摂津 紀伊ニ同名 ○汐瀬ノ浪 霞 霧 月

（新六）あま人のよするなみにぬれにけり浦乃初島 家良

新拾
いかにせん浦の初嶋はつかなるうつゝのゝちは夢をたにみす　定家

同　紀伊　新續古今
紀の国や沖津浦の月見えれは
[illegible]よのこゑからしの海　重光

○有度濱　駿河　天の羽衣　うちよする
拾遺
うと濱に天の羽衣昔きてふりけん袖やけふの祝子　能因
天女降臨之地　東遊駿河舞等自是初也

○浮嶋原　同　足柄關　富士　入江　沼　海　池　柳
松　薄　尾花　千鳥　螢　雲　浪　烟　波

新
わかりつゝ関路越行[illegible]一むしる浪む浮嶋かな　[illegible]

新拾
白妙のふしの高ねに月さえて氷をしける浮嶋かはら　後二条

○浮嶋　陸奥　塩竈浦　花　松　神　竈　宮
六帖
みちのくにありといふなる浮嶋の[illegible]　小町

まき嶋の松のみとりをこしくれは[illegible]　元輔

宇津山　駿河　夢里　岩　細道　蔦　楓　紅葉
松　苑　真葛　庵　搗衣　鹿　雁　山川
宿　里　高根　月

新古
都にも今や衣をうつの山夕霜はらふ蔦の下道　定家

新後古 うみの山月さえわたるなつくさの雲路絶えて風の音清し　家隆

古 あま人のかりの小ふしもうらくよ起きもせつ稲ふしきと　長明

宇ナカミ
海上山　浮　下総　一説安房　○真麻ソ　雫　かしる

推柴　沖津洲

古 夜をこめて川よりこぐ舟の沖津江に舟はつるなりさよふけにけり

ウチイデ
打出濱　近江　損坂　志賀　湖海　駒　麻　撒　苑

続後拾 湖海ハ小波ながら白浪のうちいでの濱名に寄る風そふく　源兼氏

文 白浪のうち出の濱の秋風に麻の袖もなみとよる　維寛

月 開越しく打出の濱のいかに涼しき風の音色　為相

同 白浪のうちよる濱の秋霧に立たる物とも鳴きか浦鳴　高遠

新拾 やらら浪夜もなく岸をあらふに清くハここもかよふや　黒主

○宇祢野　同○雫　菅根　麻　薄　あら田

古 かきわけて萌出る秋のつはな涙の露のしのふよ八

○宇多間　美濃　丹幡山　摩由都の近衣

夫木 東路ゆうきそなる風ともふ大淀の入の秋の夕暮　宣之

○同　大和　宇陀保の　辰市　やまとの国の宿の夜なかすぎて しらぬのくまものゝ夜　康光

卯花山 越中。時鳥 月（ソラニムラ）文 白雪（空ハクモラテ ツモル） 小倉坂

夫 時鳥なく卯花山の五月雨はさりけて神まつるらん

碓氷（ウスイ）山 上野 坂 むかし見しうすひの坂をはしるふ

妹か恋しく長らへぬらん

浦嶋（いハ） 丹後。みつの江 浦島か子 山 月 たかれの駒

うら貝 浦島 かも 鴨 真菰 玉藻 延齒（禁中ヨム）

手 百千鳥浦島の子か箱なれやあけてくやしき下 像成

鶯關 河内 みなかとも人のとつきなりまふと

こさくもとゝよふくむすの關

宇志間門 備前。水雉 浪汐さし 舟人 月

拾 牛窓をさしくの鶴にまきはや浪さわかなく猶かゝるらん 後撰

浮奴池 石見 後拾 共 君かへくてうきぬの池のあやめくさ

引人もなき根こそつきをね 知らぬ

宇和郡 玉 伊与のいさしくの郡の魚まてと

秋くれハあれを河をとゝふよそ 住吉明神 江

宇佐宮 豊前 新古 西の海や川白浪の立かへて

おもひをくすらんも世を 詫宣

井手 川里 玉川 玉水 山城。大和路 奈良路 隠沼（カクレヌ）

山吹 山田 款冬 花爲 苗代 玉藻刈 岩ツヽ紅を

水下 柵 浮萍 蛙 駒 岩橋 布曝 垣根

夜虫　五月雨　歩　蛤

（俳共）かくれなき恋むしのなく秋の夜の蛙も苔の下にはま　建房

（主）山風にさそはれ蛤も舟に浜の泊りの袖とこそ　これ後朝

○播名

原山漆野　摂津○有馬　高砂　の前沖

昆陽（コヤ）　武庫　紅葉　塗手（ヌルデ）　樒（シキミ）　萩原　芝山

薄　蕨　屋　千鳥　時鳥　鶉　雁　鴫　鴨　鴎

螢　康　照射　狩人　長草　五月四　夏月

（松）よもすがら鳴や千鳥の声すみて自飛浦の鴫の羽音　よみ人

（手）うき秋を浜の浪の庫の風の音も　隆信

（家）冬かれの竹のあさ風の尾上より色かるる　杜風

○舟積山　未勘　吉舟をさきの山をかへる　慈円

○野少文　山城の菊　山の松風　琴　子日　揃

此外垣根　白雪　雪月

（松）琴の音に松風よりもいつまでも　秋の入道

（後古）揃さはがしく白雪入にける　大后

○野島崎　浜　浦　近江の庵　玉藻刈　鳥　尾花

萩　夜寒　露　千鳥　鶉　丁　虫　猟人

（千）長月の野嶋か崎の濱の屋に旅寝袖に浪をかけつゝ　俊成

（風）あはち路や野嶋か崎の濱風に夕波千鳥立さわくなり　顕輔

同（ノシマ）　淡路○富嶋　百人草　玉藻　御食國（ミケツクニ）

蜑　浦人　ワシ　梅子　萩　蘆　千鳥　雁

安持村　鷗　夜草　舟

（続千）ゆふそは野嶋か崎の濱のゆふまた浪こす風のやまぬ日そなき　俊頼

（古）朝まくらこき梶音もきこえけれは野嶋か崎の濱に舟出もしつらし　人丸

同　安房　（万）東路の野嶋か崎の濱風に我紐ゆひし妹か貌のみ面影にみゆ　[illegible]

○野路篠原　近江○時雨　霰

（続古）眞萩ちる野路の篠原[illegible]露[illegible]　式子内親王

野上里　美濃○不破関　鶯　草枕　菴　薺（ナツナ）

（風）春立野上の方よりなく鶯の声[illegible]　[illegible]

（六百番）一夜ねし野上の里の草枕むすひ捨つる旅の契と　定家

○後瀬山（峯）　若狭○若狭路　椿　葭　雉子　時鳥

（新古共）[illegible]時雨つゝ[illegible]後瀬の山の[illegible]　公経

（はゝ）毎よもすがら色とれば夜を内山の里の雅楽家に

野中清水　播广○印南郡（いな）　夜草　みくさ

（いにしへの）あはれともみはらくまてあるを行て中々の心を汲む白雪　行女

○野坂浦　肥後○三嶋　千鳥　舟出

（わたの原）わきたつ野坂の浦に鳴千鳥二度よかし声に渡る道羹

○大内山　山城○桜　花　松　時鳥　朝倉邑　隠れ石

カウカノ梢　カタナミ綾　奏ル　亀山　石ナゴ

十　人丸おきて今ちら大内山の大内山へ木本くれて月とゝもに　紹巴

後京極　きそしかの開きえぬ花を見ては大内山よりかゝる白雪也　廣

さ夜ふけて大内山の鳳さしてよきこゝろを明かつ声　宗鑑

○大井川　同○小倉　戸無瀬　常盤山　亀山　桂里

松尾山　法輪寺　嵯峨　入江　岸　井関　柵　杣山

嵐山　撝　瀧　洲　浮人の車　裾　紅葉　款冬　藤

菊　芦　杠　鵜飼舟　時鳥　鷺　鴨　山鳥

鵙（ヒヘナリ ホロシ）　飛鳥　蛍　亀　鮎　筏　苫屋　浮木　以殺

鐘　行幸　高瀬舟　紅葉舟

オ

（後撰）大井川うかへる舟の篝火に小倉の山も名のみなりけり　業平

（拾）大井川河への松に事とはんかゝる御幸や有し昔と　貫之

（金）大ゐ川もみぢを分る筏士ハ棹に錦をかけてこそくれ　平致親

（拾玉）大ゐ川法の輪かくる水車秋いくめくり浮沈むらん　慈圓

○同　駿河　十六夜記　おもひ出る都の事ハ大井川いくせの石の数もおよはし　四條

○大澤池　山城○嵯峨　菊　薄（すゝき）　虫　夏の草

夏の螢　蛙　五月雨　月

（古）一もとゝおもひし菊を大沢の池の底にも誰かうへけん　友則

大沢の池のむもとみえて螢するくし五月乃比　康光

○大原山　神里野　同　乙訓郡○小塩山　河野沼　氏人

紅葉　桜　菫　萩　小松　郭公　雉子　鷹狩　鹿

行幸　注連　神代乃松　朧清水　両方アリ

（後拾）姫小松大原山のたねなれハ千とせハたゞに任せてそ見ん　元輔

（後拾）木枯と思ひてなけき大内ハちらぬ梢や大原の山　周防内侍

（新後拾）さて見る大原山の桜花かりあともしてわすれみかな　善

○同　川山里　同愛宕郡○八瀬　朧清水　清和井

芹生里　比良　小野　浅茅　苫屋　庵　炭竈
市柴　岸　柴栗　蓬ノ門、、　鷂　爪木　山女（アケビ）
榾焼（ホダタク）　刈萱　軒ノシノブ　椎柴　紅葉　扉　雪
新古　日数ふる雪けにまさる炭竈の烟もさひし大原の里　式子内
後拾　大原や[illegible]我[illegible]妹よと夜を[illegible]　良暹
あ　ますらおの爪木にあけひさしそへてくるれは帰る大原の里
入名寺　大原や[illegible]の麻衣[illegible]袖にかな　顕国
朧清水　同○大原　螢　蓬　花　水草　扇　岩　月　里

俊子　露[illegible]かな　国基
ま　まれに[illegible]の里に住人は[illegible]　丹後
○大荒木杜　同○浮田杜　駒　夏草　紅葉　早苗
葛　桑　時鳥　扉　稲妻　月
古　大あらきの森の下草おいぬれは駒もすさめす刈人もなし　読人
後古　かくしてさてや守らん大荒木の浮田の杜のしめならなくに　人丸
男山　月○淀　美豆野　天川　女郎花　行幸　杠
狩衣　遊高神　鳩ノ杖　放生　○忌衣　子日

神垣 神未 法場 朝倉 南海 月 雪

後拾 男山みねの勅神の上の光とみゝらん月影　清輔

新宿 男山秋の今宵や契りけん河をにごらぬ末の鯨　知家

丈 男山流の浪も長波南の海の沖にうつる月　内実

○大河邊　大和 ○千鳥 古柳 藻浪 みよし野

新千 ちはやふる大川の入の流をも広みのそかはに千鳥鳴行き

○大山峯　同（ヨシノ） 桜 篠（スヽ）下石（シヤ） なかめちら

新今 後もよしわくれをきなす深草ちりかすみ　行季

風 後の世は古今将の板庇かりけり月を袖にくゆらん　道昭

直い津の濱　和泉 ○雫 千鳥 鍛泉（タヽキ） 駒

新古 都には千代も長津の浜の千鳥なく迄ぬる月影　定家

○大江岸　摂津 ○伊駒山 長柄橋 渡辺 舟呼

小屋將ぞ 浦 宿り 清水 五月雨

後拾 わたのへや大江の岸に宿りしてをのみゆる伊駒山かな　良暹

丈 玉も刈大江の浦のうら風につるとなしいらぬ空

○渡前沖　同 猪名 蘆鴨舟 松（ツキ） 離

モトメ塚 紫舟 神垣 甲斐字

千 たらくとはあまの沖を見渡せは八重を舟よりくる海士の釣舟 おき

ま わきもこか塚のおきかくし紫舟われはいつかとよるれやよくかと後れ 兼

大淀 浦 浜 伊勢の荻 松 花 菖蒲 塩焼

三ルメ川 一丁 千鳥 零 貝 浜真砂、塩釣 舟

拾 大淀の浜荻いくたびかはる人待むかふ浦の浜松源思昆

新古 大よとの浦にかりほすみるめたに霞にたえて帰るかりかね 定家

生 浦 海漆 同 伊勢海 採麻 山梨木 入又ル磯

山畑 網 海松布 網代 釣舟 花 本源・鴨

千鳥 時鳥 駒の荻 舟人 嫁川

新古 採麻の刈ふの浦波まとりにかしたまを山梨の花 後京

冬さむき八重の浦風吹く採麻の生ふ川花に浜荻よりかり 実伊

又 兎原のたの浦波さしくにかさねぬりぬれ浜荻 忠定

奥小嶋 伊豆 共 新勅 箱根路を我越くれはいつの海や沖の小島に波のよるみゆ 鎌倉右大臣

同 雁 千 さつまかた沖の小島に我ありとおやにはつけよやへの汐風 平康頼

奥津嶋山 近江 湖 海 月 雪 神 浪漆

新拾
鳰鳥ハそれともみえぬ浪やよせて海しく與津嶋山嵐

○老曽森 同 ○鏡山 春 紫 花 あめ 野

鶯 郭公 しめ縄 下草 時雨 霜 宮

拾
東路の思ひ出にせん時鳥おいその森の夜半の一こゑ 公資

新古
はる近みて秋さきに風さそふ春ともなるらん鶯の色の霞

○陪照浜（ヲモノヽハマ） 同

拾
そこ清く浪をわたりておもひやる浜のまさごの見つきハ 西蔵

吹はらふ鳥のつばさハなくともは浜の浪猶そでやぬらさん

○大嵩（タケ）月

勅
大ぶけのそなれ木に雲かゝれるかくの山の月をしるかな 慈円

○大宮 月 日吉大宮の本地と思ひやるべし

千
いつとなく鷲の高根にすむ月の光をやどす志賀の浦風 性憲

○大津 宮 里 同 ○長等 音羽山 花園 三尾 橋 紅葉

馬 浜真砂

古
秋の夜はまはらしくあらしふく志賀の大津によする白浪

玉
さゞ浪や大津の宮の月影を見てこそ忍べむかしこひしさ 資隆

新古
関こえてくるればいそぐ大津にも泊の二つ三つ見えてぞ 定家

○大倉山 同

久
よろこびの大倉山ハときはにて
こもりにすむ万代やふるへし よしの

○奥海（ヲクノウミ） 陸奥○塩干 鵆ノ居岩石 蜑 ミルメ刈

河原 千鳥 荒浜辺

新古 ゐゆるつき心乃奥の海よ塩干の方乃ひ人かひもなし 定家

続古 さしもそれを有とも行くに奥の海はやくのうち岩も波のはる

○尾駮ノ牧（ヲブチノミキ） 同 後撰 みちのくのおふちの駒を野かふには あれこそまされなつく物かは

○奥ノ井（ヲキ） 門 古 奥のゐて身をやくよりも悲しきは みやこ嶋辺の別なりけり 小野小町

○大江山 丹波 ○天橋立 生埜 鳥羽 浮井

紅葉 桜 夜草 苔 井子カツラ 厂 時鳥

蝉 蜩 蛍 猿 麻 小田 泊舟 天照神

新古 大江山かたふく月の影さえて鳥羽田の面に落る厂かね 慈圓

玄 大江小笠の松の緑まて天照神乃宮居れとそ久 丹波忠茂

○大嶋 鳴門 灘 備前 ○早舟 延喜小舟 塩风

撰 大嶋のなとゝこゝろきて舟のはやくも今はひとこそハ 朝經

勅 おもふとも息くらひるく大嶋乃なるとみけらハ塩満久ら 恵慶

○思河 筑前 ○岩 ゑ蓋 款冬 淵瀬 埋木

菅 丸木橋 柵 浪下草 蛍 ものう 衛

鷺 七瀬 淀 五月雨 靡藻
撰 思河たえすなかるゝ水の泡のうたかた人にあはて消めや 伊勢
続古共 山吹の花よりくゝる思川色にいてねハ下に流つゝ 定家
わ 続古 思河うけしも水の流をさかのほるよる秋月とゝしるし 家隆
ま あすも川人のこゝろをまかきせのなかれてきえぬ人もなき 信実
鞍馬山 山城○里 墨染 瀧桜 鐘 岡 鷲 紅葉 法 行ヒ
秋 たれつくれる岡の山のあさてそあかね中に月かくれけむ 安倍し
冬 ふるさと河ともまかふ雪のふれは桜をおもへはちる 顕季

○暗部山 同里 奥○林 鹿 秋之谷 埋木 梅
紅葉 岩根ノ松 桜 桃 清し 女郎花
菓を拾フ 郭公 鹿 駒 鳴虫 照射 柴な
妹許 音羽 雪 月 氷室
古 梅花匂ふ春へはくらふ山闇に越れとしるくそありける 貫之
ま 去来我こそあつくらふ山音羽のむまもみえねは 文丈
○暗部里 近江 五 いかにしてかくをそての里人にみえねはこひしくとまつ 後光
○色し林 山城○白河 桜 紅葉 樵 文人寺

柳ゝ　星　蛍　焼亡　清花

（撰）木のもとはさゝぬ様なれとおもへハ梅の花にほひけり

（新古）しら雪のふれる梢をこゝろハ法によりちる花咲よりけり　肥梅

（ま）今うし知る秋の星かと空にみゆるハ蛍なりけり　経信

○久迩都　同○瓶原　泉河　辰市　槙ヶ島　花

紅葉　橘　時鳥　鹿

（勅）みかのはらくにの都ハあれにけり大宮人のうつろいぬれハ

（方）槙の島ゝ山ほとゝきすこゑのみ五月てちかり　行能

○栗栖小野　同○氷室　氷池　荻　焼原　若菜　蕨

葛　萩　花薄　桜　青つゝら　鶉　鷹　鹿子

小鷹狩

（新）くるす野ゝ氷室の氷いつとてかむすほれつゝとけぬとそしる　相模

（後古）みかはらハをのゝ摘へくおもひけるかりつの萩の花原　経信

（新後古）まけろゝ狩の矢の音とくるす野ゝ山とをかやまちの人　雅縁

○椋（くらハし）橋山　大和○時鳥　月

（秋）五月やみくらはし山のほとゝきすおほつかなくも鳴わたる哉　実方

○久米路橋 同川 岩橋 又涯橋 ○花 もみち

かつらき 八将 一言主神 月 雪

（新古）かつらきやくめちの橋も果ぬ物ゆへよかたに雲ゐの橋 夢しなりけり （作者）

みわたすもえたえぬ久米の川よりとぬるならまをゆく （有輔）

○同 信濃

（松）埋木ハ中ニ出る むもれおれく

くめちのはし ハ心してゆけよ人 公家

○櫲（クス）葉（ハノ）宮 河内 一説大和

（新古）日をへつゝまちし久須葉をまつほとに秋のよの月 関白左大臣

○草香山 摂津 新古

（年）鵙や難波をかけて打なひく くさかの山をこえてゆく

○黒戸浜 上総 （まとろましこよひならてはいつかみん くろとの浜の秋のよの月 菅原孝標女）

○朽木杣 近江 又谷埋木 月 雪 斧ノ柄

（新古）花さかぬ朽木の杣の杣人のいかなるくれに思ひ出らん 俊

（新後拾）いく世つゝなれし路にしらぬとの杣の朽木の杣木に月やすむらん 浄弁

○要なし里 月 令

わすれそよ里のゆくへ人の名こそ いつくはさてよそのありかの里とよ人そ云

○位山 飛騨 坂峯 藤谷 松ノ椎柴 猴

菊 桜 荊（ムバラ）ノ戸 玉光 青葉 鶯 時鳥

よをこゝろ 宮人 行幸 紫色 袖なれ 玉都

秋 佐山峯とつゞく秋霧いまぞ代のはれぬらん 孫宜

月 二なき名月をきゝてそ佐山の峯をいづる人 元輔

雑秋 佐山の陰の秋萩いつまれと人をまつ月にてぞ行人 高氏

秋 佐山さき世になへてもみぢ柞葉にまさる木の葉もなかりけり 慈円

○黒髪山 下野 日光山と云上之

羇旅 旅人の真菅の笠やくちぬらん黒髪山の五月雨の比 公実

新後拾 身にとけてかゝる人こそしらねども黒髪山にふれる白雪 親政

万 むばたまの黒髪山の山菅に小雨ふりしきまんしく／＼おもほゆ

○ミ上山 備中 新千 ひきくともよみ上山の山まちかくてやひとまつりけん 行家

○久米皿山 美作 ○和歌乃浦 紀伊 南紀 旅衣

冬 わかの浦やくもゐのはまもあらしと云とも和歌の浦とも云へ 師教

○塩家 陸奥 秋 みちのくの塩家の浜にことはりの人をこそまてくり 為盛

○田村 丹波 ○稲 白菊ヨメリ

十 天地のさかりもまつゆく程も田の村の稲をとらすつと 疏盛

○倉橋河 丹波 倉橋の倉橋川の川岸の なくさき月のしらしむ沢のかな君

○熊野 紀伊 ○神倉山 ○浦 那智 後心門

塩ノ屋王子 山ノ南 松 岩苺ノ川 枚抜舟

湊 スヽ分ル石 浜木綿 青つゝら とみち

猿ノ梅 非植 手向草 ナギノ葉 塚茶 茸

玉え 萱 思草 鬼ノ志ニ草 蔦 時雨

手束 山鳥 康 貝拾ノ 三ノ山 佛 歴ニ京ノ

若衣 カタクギ 淀 行幸 塚屋 一茎花

延ノ御舟 駒

みくまのゝ浦の浜木綿百重なる心ハおもへとたゞにあはぬかも 人丸

（宝）（人）三重ノく山嵐ノ滝津瀬ノ三年かぬ逢 昔ふ家よ 法印家

侍従ぬい浜ハ古ハ紀の国やむろの郡ハきさらんや 雑現 （後京）

（新後古）わかの浦つまむしろ寛人の西のく神のみくみなさ逢 宗助

草香江（クサカエ） 流前麿 草香江の入江のさゝにしらさきく なるをくさるとや秋の人あたを臣 ちりち

○山科 宮山里 山城 ○木幡 山石田森 音羽 千鳥 松

梅 草木 時鳥 鹿 菴 袖ノスメ 浅ノ山

（右桜）山科の里人の草木と君のく紅ハ京とめぬ人ゝりと 西備

（新松）山階の音羽の里のさよなる及ぶの絶よ縁よりうる 公雄

八幡山　神宮　同。石清水　淀　向ノ里　峯　麓
鳩杖　坂行　山嶋　雫　紅葉　桜　松　こゑ　東ノ調
燎（ニハビ）　玲く東ル　郭公　カタソギ
（新拾　秋）八幡山ちはやく神乃恵ミをそへ年をもちゝよる松乃人　（権大納言）
（又）やはた山あつ火のかけに松風は雪もさやかに月かけの　定家
（家）やはた山木乃葉の松ハ川波白くよする乃明かけ乃　後京極
○八塩里　同。長谷川　岩倉　岩しミ　紅葉　橘
（續拾）染かゝる八しほの里の紅葉を行かふ人の心ならめ　顕重

（拾遺）岩くゝもみちをさそふ長谷川のゆくせの　経房
○款冬ノ瀬　同　新勅　春くれは山吹の花のちとせ猶やいとしらの川長　西園寺
○八瀬　同　新續古（誹諧）さそへ人のおほやけに聞えぬる　清輔
○山ノ邊　大和　泊瀬まて行て山の下に云はたらうそ
（左撰）草枕旅より山の下にも思ふ和や有らん　伊勢
（玉三）霜おくは山のさねや思ひ何ゆる山の　家隆
○山階寺　同　春日の山階寺の月佛法よまり付ける
（松）三十あまりのうちの三のそらの頭の世の中のあはれ　空也大　これ

○山田原 伊勢○泠廉川 竹川 杁 郭公

榊 〆 早苗 若菜 梅 鶯 鶴 厂菴

新古 きかすとも爰をせにせんほとゝきす山田の原の杉の村立 西行

月 泠廉川ゆきゝ重ぬる日数なるらし山田の原の時雨そく 太上天皇

△ 榊とる山田の原の[illegible]八海[illegible] 源順

○八橋 参河○苗代 杜若 柳 時鳥 姿 夜

沼 里 原 野 沢 川

丈 五月雨の原の沢より越ていつま三河の沼の八橋 西行

新 駒並て[illegible]八橋[illegible]

も 玉鉾の八橋川を[illegible]苗代[illegible]ふるらん よみ人しらず

○山梨岡 甲斐 後古 足曳の山梨岡の[illegible]君を思はさる人そ[illegible]

○八重山 相模 新千 行人も今朝も思ひわかれゝる開の八重山花そさく

○野洲 近江 川 河原 渡 ○三上嵩 瀬田 守山 津守国基

駒 カケコ 欒 ヤス 梁 早苗 摘 卯 状 千鳥 零 鴨

川 調物 酒 寿

新か 逢ひ見つる三上の山を[illegible]にかけてまちぬるやすの川浪 左京極

玉葉
みさ葦とくや宿も淀には流しれけ別関はしらかなり　慈円

○山の井　同。花の後　月　時鳥　柴菴

古
結ふ手の雫ににこる山の井のあかても人に別ぬるかな　貫之

後撰
浅やしほそりの小山の井ハ沈めるかけ見え杉果はなり　よみ人不知

後拾
汲ひゆく峯の山の井るに法の水そ流くにそ有　慈鎮

○山井　陸奥。浅香　五月雨

古
浅か山かけさへ見ゆる山井のあさくハ人を思ふ物かハ　近江　采女

○矢橋　近江ゟ　湖照や　矢橋の渡する舟さ
いくらさしむ川せ兵撓守　西昌

ゆゝ遠く矢橋へ舟ハ若さ乃るあれとのかちらへ　公朝

○矢田野　越前。有乳山　廣野　康虫　鴈　薄
浅茅　厳、葛　萱　萩　狩　里　雹

新古
やたの野に浅ちいろつくあらち山峯のあは雪さむくそあるらし　人丸

ま
あらち山雨冬しやたの野の百枝の梅も匂ふなり　信実朝臣

○大和嶋　淡路。明石　下南の海　月

新古
天さかるひなの長路をこきくれハあかしのとより大和嶋見ゆ　人丸

○矢野神山　未勘。厂　康　鹿　霜

新千 住よしの松のしつえの麻の衣かくすやの神山家りけらし 玄輝丹 入道

○槙雄山（山城）○宇治 杣人 杉 時鳥 舟よばふ

擣衣 五月雨 月 雪

玉 朝朗槙雄山にたちこめてかけし川長舟よばふ也 土御門 内大臣

新拾 槙姫の衣よ寒てや河風のまきの山家初雪ふるらん 貫光

○槙嶋山 同○宇治川 舟呼 鷺 調布（テヅクリ） 擣衣

拾 うら川の河をもたてゝ冬雪は杣人舟よばふらし 基光

ち 杣の嶋はしのけうちはよみてまつと驚きらむまゝなり 京女法師

○松尾（マツノヲ）山 神 同○桂里 葵 郭公 仏法僧

玉垣 しめ 紅葉 白雨

新古 万代の松の尾山のかげしげみ君をぞいのるときはかきはに 家隆卿 母

夫 玉垣はあけもみどりも埋もれて雪おもしろき松の尾の山 西行

新六 松尾の峰静なる曙にあふぎて聞けば仏法僧なく 衣笠

松ヶ崎 同○深雪 岩陰 皇 埋樋 近江同名

夜の間にしかしながら松ヶ崎これやあかしの夕月のかげ

○真野 大和 萩 萩原 ○大和路 薄 虫 鶉 ら

薄　菅

拾　白菅乃まのゝ萩原咲しより朝たつ鹿のなかぬ日ハなし　基俊

夫　みかりする濱の萩をしわけて羽ぬれハ衣やかゝらん　信実

○真野　継橋浦　摂津　○菅笠　舟呼　蛙　蛍

安積　村鳥　鶯　厂　沖の芦　欵冬

続拾　夫　つきとよる袖となりて真野ゝ浦入こすもなミさへさ捲さなり　人丸

続古　遠乃浦ハ淀乃渡擢つきもなれつしさ人家のつゝまれ　経顕

同　入江浦　入海　濱　近江　○比良　辛崎　淀　渡江

近江路　沼　舟　松　尾花　又　吹　芦　百合草

葛　まろ萍　菜　しほ　鳩　鶉　厂　ゑ

安積沼　廉　蛍　蓋　猪　夜　涼　水月

金　うつら鳴まの入江の濱風に尾花なみよる秋のゆふくれ　俊頼

新後古　あつま路やまのゝ渡よ駒とめてしらゝ入るゝ秋の花さへ　頼政

万　浪こえぬまのゝ淀のさゆるなへ千鳥の旅ハ浪の下まで　家隆

玉　○真野　萱原　陸奥　○里　池　廉　菅　恋　都

分来しいつ室とも見る萱原まのゝかや原方こめて行　秀長

益田池（大和ノ名所）　菖蒲　蓴　鳴　蛍

十寸鏡　澤　本

（後拾）我恋ハ益田の池のうきぬなはくるしくてのみ年をふるかな　小弁

（集ある人）涙のますゝ益田の池の[illegible]みてやかるらん　雅宗

巻向　檜原山　同　名所　穴師　嵩　川　鳴神　春雪

弓槻（ユツキ）が嵩　小松原　江家ある　桜　山岸

郭公　ふる　よ三き　成文　ある雪

（新）なる神の音のミきゝし巻向のひはらの山をけふ見つるかな　人丸

（新古）巻向のひはらもいまたくもらねは小松か原にあわ雪そふる　家持

（勅）巻向の穴師の檜原春くれは花か雪かとみゆるゆふしで　好忠

（万）まきもくの穴師山[illegible]　長明

待兼山　摂津の　椎柴　よふこ鳥　郭公　鹿

（新古）よそにのみ待兼山の郭公[illegible]一声もきく　周防内侍

真間　下總　浦　入江　継橋　水鶏　萩　寒　五月雨

（勅）かつしかや真間の継橋をワたれは[illegible]　忠岑

（後拾）見わたせは[illegible]真間の入江の秋の夜の月　西行

待乳山 月。庵 宿 角田河原 合ニ同ッ [illegible]

新古
誰かまたやとをとへん待乳山夕くれゆきて八千[illegible] [illegible]

夫
待乳山おろしや嵐やさむからん角田河らに千鳥鳴也

同川 紀伊 一説大和より。花 桜 小松 とも 女郎花

蔦 郭公 山鳥（さとり） 鹿 駒 橡（つるはみ）衣 搗衣

裙野 いさよふ山の月 秋廿三

夫
わきもこか衣にさゝ待乳山とも[illegible] 安藝[illegible]

新古
打わたし約[illegible]川[illegible] [illegible]

松か崎 近江。しくれ 雫 砂 岩

新
よしさらは松か崎の[illegible]心[illegible] 元輔

松島 陸奥。奈古 雪 雨 篝 苫屋 塩焼 あま

雄島 磯 渚 搗衣 一 紅葉 藤 三ルメ

芦 鶴 秀 月 [illegible] 木 海士 搗衣

新松
松島やをしまの磯のあさ[illegible]海人の袖こそ[illegible] 重之

新
松島やをしまの磯[illegible]袖[illegible] 殷冨門院大輔

新
[illegible]の浦の[illegible]人の[illegible] 上西門院兵衛

○籬（まかき）嶋 同。塩竈 末松山 千賀浦 漁火 菊

塩竈 梅花貝 藤（浪） 若布刈 床ゝ夜 千鳥

蛍 松 卯花 旁 都恋しき

（古）我せこを都にやりて塩竈の籬の嶋の松そ恋しき

（新後古）今よりは秋の色のまかき嶋風さそて夜人のみなとの塩かまの浦 基量

（續後拾）夕闇に籬の嶋のいりえ(?)てつゝ色の嶋風蛍そかゝる ぬ恵

（う）おほ見のれ末の松山いつもより色の嶋とこゆる夜浪 能宣

松賀浦嶋 同。蜑 零 千鳥 藤 都人

擣衣 萩 舟泊 岩根 月 雪

（勅）心ある雨夜にかたらふ人まつか浦嶋なかむ

心あらは見よとにしの火を月まつに人の松か浦嶋の盛茂

増井 丹波 凡 涼しさは増井の水の結ふ手にまくらふる万代の秋 隆信

○松帆浦 淡路。千鳥 蜑 焼塩 淡路嶋 淡那

（新）こぬ人をまつほの浦の夕なきにやくやもしほの身も（こかれつゝ） 定家

（新）つまこふる人を松ほの浦千鳥汐によ声の遠さかるまゝ 能雄

○松賀浦 讃岐。泊り 磯 貝

古秋　松山の松の浦風吹よせハひろひてしのへ恋忘貝　定頼

玉　松浦のミなわうち破くときく物を思ふもさらてそ悲　行能　波心

〇松山　同ハ　磯　火串　浜千鳥　恋忘貝

め長秋　有明のまよひに見えし松山に待て磯のなみかゝるかな　為重

浜ちとり跡ハ都へかよへとも身ハ松山に音をのミそ鳴　崇徳院

よしや君昔の玉の床とてもかゝらん後ハ何にかハせん　西行

〇松山　備中　新後拾　十かへりの花咲ぬれハ松山の梢をたかくうつる白雲　忠光

〇松浦　沖　浮河山　肥前。比礼振山　姫江　袂袖

玉嶋川　七瀬淀　裙姫　此川上宇島郭ノ穴
子島　磯　蜷　鮎釣　尾花　唐舟　五月雨

千　年ちれハわかまつ袖せこそまみゝハすへき松浦さよ姫　基俊

玉　松浦かた八重の塩ちの秋風ハ夜よりや先にふきぬらん　僧正道玄

夫　松浦川鮎釣をとめの清き瀬をみまくほしき君　行能

円　まつら川七瀬の淀ハよとむとも我ハよとまし君をしまたん　よみ人しらす　まんえう

ケフ
〇狭布　陸奥　郡ノ名ト云又布ノ名ナリトモ

古秋　錦木ハ立なからこそ朽にけれけふの細布むねあハしとや　能因

氣色の杜　大隅　○蕨　石花　鷺　蟬　蜩

（新古）秋ちかきけしきの杜に鳴蟬の涙の露や下葉染らん　良経

（夫）明わたるもりのけしきに鷺の上毛をそよく雲ぞ深き　光俊

○氣比海　越前　けひの海日和よくあらしかりこもの　みたれていつるあまの釣舟　家持

（夫）山とこる鍬を手よりの道に至く神さびにけり氣比の宮はし　行遍

○船岡　野　山城　○肴栖川　小野　塚　行幸　子日

裙野　若菜　女郎花　卯花　薄

（玉）船岡の裾野の塚の数そへて昔の人に君をなしつる　西行

○伏見　里　小幡野（田井　澤）　同　○木幡関　檜川　桜　宇治

大倉　大江　深草　日野　駒　黒染　朝日山　向ノ山

墨染　薮々　津　宿　枚庇　芦垣　簾　擣衣

草枕　新枕　小田　菴　小山田　竹ノ下ノ　浅茅

花　紅葉　松　桜ノ　卯木　鶉　冬　萩　荻　葦

女郎花　康文　杜若　菅　花園　居　郭公

厂　零余子　鴫　鶉　熟　虫　簾　呉竹　早苗

五月雨　行幸　稲ゝ　長月

（千）游こゝも世三年もまくて山城ハ伏見の里にわ枕をる　中院右大臣

（新古）ゝの山き伏見の水田に蓑笠と卯ぬよ風ぞ月をぞろか　慈円

（同）蓑とふのさ交ぬるも交せかつ夜の下折　有家

（新拾）遠かりし君伏見の里ハ雨守にこちらの峯に君ぞまつけり　家隆

（又）伏見潟や河むくれ川水花咲て浪ハ垣ねの梅とこそ見れ　杦隆

深草　山　野　里　同　○伏見　葭　森　都ノタツミ三

故郷　裾野　竹え山　谷　鶯　郭公　よぶこ

鶉　鳫　鹿　駒　虫　花　ゑの子　松　浅茅　葛

櫻　尾花　萩　擣衣　宿　風　[illegible]野

（古）うつせミハからを見つゝもなくさめつ深草の山烟たにたて　僧都勝延

（同）深草の野辺の櫻し心あらハことしはかりハ墨染にさけ　岑雄

（新勅）深草やうつらの床ハ跡絶て春の里とふ鶯の声　良経

（玉）二年の秋の夜ハ深草やゟの水に春も又消ぬかり　為兼

（続千）深草や秀気色に淮住て有道は里に衣えらん　雅経

○藤森　同　ふ乱めまくまんのとこそかゝ夜へこりまをかけてこと花ハ咲けり　信實

○古河邊　大和　○青柳　杉　二本　よる　人串

打古（宿さへ秋や移りて泊瀬川古川の辺の杉乃下かけ）有家

ま　はつしくもきる風のをとさへ寒き川の辺のまつ杉の葉家のあ

○藤原　里　都　官　同　○玉津嶋姫　三笠山　萩　廓

打藤吉　衣のむしろに我袖の紅葉より風吹むら鳴姫（後福井院殿）

ま　みかさ山都のちかきより廓の毛色すゝきもなら乃里

○古柄小野　同　○三水　猶　すゝき　葛　女郎花

萩　桜　柏　廓　春雨　霜　芝草

勤　まなか月の末とも道夕霧一夜摘の法　覚

村雨の音にさへなの松柏植ふさへ猶とゞめしつる　智海法師

○布留　滝　山　野　澤　原　同　○穴師川　三笠山
社　神　都　橋

三輪　吉野　○影山　奈良志岡　高圓　巳心

高橋　宮居　白ゆふ　しめ　瑞籬　中なる　山里

小野　沼　寺　鐘　擣とも　桜　杉　紅葉　榊

柳　卯花　紫　尾花　すゝき　菫　つゝじ　早苗

杜若　薄　萩　菊　蕨　菖蒲　刈萱　思草

薮　しげみ　鶯　呼子鳥　鴫　廓　虫　鈴虫　蛙　螢

照射　太刀　霞　春雨　五月雨　時雨　雪

（後撰）石上ふるの山への桜花うへけん時をしる人そなき　遍昭

（新勅）幾年かふるの神杉何事て四方春もちそ残り給ふ人　但馬

（新後共）霞ちる三乃山雨きこのふとふるかをのみなけきて摘ふ人　定家

（続後拾）三輪川のきよき流に大和なるふるの田かへる人そとふ　行家

（夫）五月雨のふるの社の河原をみるさへ水に成てなかし　安嘉

吹飯浦　和泉　沖　礒　浜千鳥　零　郭公

鮎　釣　蜑乙女　花　採貝　塩竈　松　月

（新古）小夜中しら吹井の浦にあくかれて急鳴る礒に月かなしき　家隆

（新拾）おしてらら浪満らし天津風吹井の浦に零る鳴なり　八条

（夫）吉原の吹井の浦にみる花と採貝よそむさつさ下　上総

同　舟な　（続古）携るやよさこのふけゐのはよりより沖さゆる月かけ　衣笠内大臣

二見　山　浦　潟　伊勢。いさ鳴　貝　松　木入る石

沖津浦　礒　里　湊　塩屋　千鳥　郭公　一人　駒

鷲　蛤　擣衣　卯花　芦　菊　子日　延齢

（金）玉匣ふたみの浦の秋の夜は木の葉に月の影そやとれる　源数房

円 玉匣二見乃浦乃貝ありてまた緑よみゆる松乃村立 輔仁

文 今そ知二見乃浦の蛤を貝あはせとておほふなりけり 西行

同 播磨 古 夕月夜おほつかなきを玉くしけ二見乃浦ハあけてこそ見め 兼輔

○二村山 三河。夜重 旅路 野 峯 錦

揉紅葉 紅 松 柞 萩 時雨 衣二重

機織虫 康 照射 峯乃撲も 鹿

後撰 くれはとりあやに恋しくありしかハ二村山をこえすなりにき 清原諸実

続古 ゆくすゑハとをつゝ上乃白雲をたちかくる二村乃山 紀明

文 堤ちく夜黒ぬるやうに二村山をこえてきにけり 経輔

○富士山根 高根 嵩 鳴沢 駿河 ○浅間 清見

川 裾野 芝山

足柄 浮嶋原 田子 三穂 武蔵野 小室山

沼神 三国 真砂 花 紅葉 蕨 尾花

鳴る 蛍 千鳥 鹿子 康 山彦 舟よそふ

烟 雪 葛 下柴 東路

古 ふしの根のならぬ思ひにもえハもえ神たにけたぬむなし烟を きのめのと

後撰 信濃なる浅間乃山ももゆなれハふしの烟のかひやなからん 駿河

詞 むねハふし袖ハ清見か関なれや烟も浪もたゝぬ日そなき 平祐挙

新拾 白妙のふしのたかねに月さえて氷をしけるうき嶋かはら 有家

続古 舟よそふふしの河門ハ日ハ暮ぬよるハとまりやゆく人の浮寝なるらん 基政

万 ふしのねに降れる雪ハ六月のもちにきゆれハ其夜降けり 赤人

○舩木山 美濃○関前 もみち 郭公 月 入ぬるや

新 嵐ふく舩木の山のもみちはゝちらえハ関の藤河にちるらんこそと 経忠

○不破関 同○関藤河 伊吹 岡嶋山 中山 故さと

板屋 驛 花 紅葉 槙立り 杉の名ゝ 杖

関屋 鶯 鈴虫 野上里 月 夜 妹かもと花

千 音にのみ不破の関やに旅ねして夜をかさねてそ歳さへられ 親守

新古 人すまぬ不破の関屋の板ひさしあれにし後ハたゝ秋の風 京極

ま みのゝ国ふはの中山越てみる関の藤河 中務

○伏屋 野辺 信濃○曽乃原 箒木 木曽 桟 鶴田

ま 山田守木曽の伏屋の煙にも又袖ぬらしも秋の村雨 衣笠内大臣

新古 そのはらやふせやにおふる帚木のありとハみえてあはぬ君かな 是則

○二子山 下野 後撰 二子山ともにこえねとますかゝみそこなるかけをたくへてそみる

○布勢海（浦） 越中 ○千鳥 藤浪 安拾村

新勅
布勢乃海沖津白波ありかよひいや年のはにみつゝ思はん 家持

○二上山 同 ○月 鷲 こがれ木 郭公

続后拾
鳴るあ乃風も寒玉匣二上山乃夜半乃一こゑ 讀人不知

○藤江浦 沖 岸 播磨 ○入海 高砂 松 鶴

鷗 鮪釣 蜑 沖津洲 顕仲

新古
かとめのる藤江乃浦乃沖津洲に夜舟いさよふ月のさやけさ

新六
冬ふかき藤江乃浦乃入海に鐘ならすなる海士乃女子 衣笠内大

○尾上浜 小野 紀伊 ○萩 代ゝ波 紀路 遠山 桜

菊 浜茅 梅 谷 尾花 松 ミルメ 神社 鶯

真砂 鷗 千鳥 スガヒ 細貝 蜑 舟人 浜庇

海士ノ伏屋 寒月 雹 塩干

古
秋風乃尾上よりそろ白雲ハ萩かわらぬ浪かよすらん 兼覧

続後拾共
萩代乃ゆ波とをてこゝろを八重も中なる尾上の萩花 行家

新千
沖つ風尾上の浜の塩干るときまほにこそあれく表おもて 按察

家
天渡る月を尾上乃神ふく八やと繊のさえて更あかゆく 西行

○藤代坂 同 ○以上 あはち嶋 松

（新千）藤代のみ坂の松の木のまより夕日にみゆるあはち嶋山 （公蔭）

（新後拾）藤なミのさかりになれは藤代のみ坂を越る人のかさし （太上天皇）

○藤ノ杜 山城 ○紅葉 花 松 峯 ほとゝきす 蝉

鴈 鹿 すゝ虫 時雨

（玉）さゝわけてそよくは秋の風弾立そねる藤の杜 （為氏）

（新続古）子規まつ人のこゝろしれはわすれて鳴や五月には藤の杜 （國夏）

木幡｜ 里 関 峯 同 ○山科 伏見 宇治 森 浦

口おし 柳 花 待夜 馬 陸人 雪

（千）ゑ錦きを立てゝかゝる山城のこはたの里は春そ後れ （俊頼）

（新六）木幡山あらしのかせの白河の宿からおきる人 （知家）

○小嶋崎 同 ○山吹の花 浮舟 宇治

（続古）咲匂ふ小嶋か崎の山吹の花や八十氏人のかさしなりけん （光俊）

（同）袖の香や花橘の風の小嶋かさきに夜半の（うき舟） （太上天皇）

○狛（こま） 渡 里 山 野 同 ○泉河 川 園生 瓜 撫子 花

紅葉 松 ゆふ盤木 河しま 厂

（秋）春に出る雨の後ぞ冬つゝきなり 朝光

（ちる）やまさとをかくしもみちを山路の錦野に咲る花 玉慶

巨勢（コセ）野 河 大和。山岩橋 玉椿 尾花 枚 猿 雉子

駒 くゞつ 郭公 雪

（新後拾）雪と消氷となりて川上乃岸の若菜はわか為摘む 為重

（夫）誰き八重をみさ山乃椿をれは雨と花のよくさうなき 俊頼

越大野（コスノ） 同

（新後拾）ほとゝきすそこ小窓もあくれ乃ちよの大野のよはの月かけ 尭孝

昆陽（コヤ）池（摂） 松原。芦屋 みる 猪名 伊駒 住吉

難波 小菜 卯花 杜若 尾花 菖蒲 糸遊

蓮 よふこ鳥 鷺 鴨 蛙 蛍 松虫 芦ノ八重葺

菜屋 搗衣 神祭 寺 浦 鴫 五月雨 御柱

（後拾）跡もなく難波乃あしのにこやの池におくる八重葺 僧都長讃

（同）芦の屋に冬籠りしは目ハ若菜いつらわらへ駒よせて 能因

（三）こやの池におふる鴨のつらゝむすふわくらはの露 雅成親王

（新千集）津の国の三島咲花と今も見る伊駒の山嵐の村消 家隆

[illegible]奴見浜 駿河 磐城山 庵崎 杉 椒

千鳥　室貝　月

（新後古）霧こつしきまの山を越えくるも夜は浜なりけん　定家

（又）いかに寝ぬ夜の入江の夜の千鳥鳴く塩屋の里に近き　為氏

○木枯森　同○河原　下葉　河島　宮

（夫木）木枯の森の梢の朝あけに[illegible]ちる紅葉月ぞ見え　定家

○左升森　伊豆○和歌[illegible]きし

（秋）さて[illegible]つまくと[illegible]河島[illegible]てさくの[illegible]ハいつ千り　顕昭

○小余綾（コヨロギ）　相模○若布　川　花　桜　松

千鳥　鶴　沖　舟　玉藻

（古）こゆるきの磯立ならし磯な摘むめざしぬらすな沖にをれ波　読人

（又）鶴と住松を[illegible]こよろぎの磯の[illegible]世を[illegible]いのれ　[illegible]

○悪瀬河　常陸（後拾）思ふ事川うきなとおもひしに袖のしつくそ[illegible]　大江政国女

○巳高見山　近江○余古浦　雪　花

（ま）こたへ谷の[illegible]かゝりて[illegible]花くるらし　仲実

（今）夜をこめて余古の浦風さむくてこゝもと山は霞わたれり

○衣関　陸奥　日

もろともにたゝまし物をみちのくの衣の関をよそにきくかな　和泉式部

新千 猿ねすら衣関を守らされハくらくさぬ涓ハうつはる　忠助

文 山嵐乃ひまひまかつて流れてそ衣関を見し心ぞ残ね　寂蓮

○衣川　同　勅

人きれとまとへこまけハ衣川

袖のきらこせぬ目すみさ　清輔朝臣　三河

新千 有てをせん悲しきの衣河かかるさしれおさ歌乃かな

○悪山　出羽　勅

悪乃山ちけき小ゆくの春に今て

入袖ふうらうし袖り肌　家仲

新よ 悪の山へくしきみなとふみと袖てよう思ぬれ　為忠

○越白根　加賀　千

みよしのの花のさかりをそふこれ

さらし白根よ吹風すつく　後成

続古 ましまたひらとあけてやまさハ越乃白根の宮れ出里な　業経

○越湖　越中続拾　根てしも何よりさ人あらそのこ　俊成

家 沙の海越の海の海三同にて蛤しも人津れ九ひらうまえ

の湖みちみかけまハ

○越海月　千　天津凡ひとつよみゆらむの海乃

沼を分てもくる厂かな　私致

○越山月　○高根　雪　厂　シリ

家 厂かねハ海乃道よ白まとゆ越の中山まかてそく　西行

月 たゆらてそ白風吹白をもつまがにつよらんうか越後宮　円

兜嶋　備おりさる　松一一　宮　叙　渓鹿　深山木

名後中山　牛忘　鹿　琴泊

夕されは汐風さむし波まよりみゆる小嶋に雪はふりつゝ（[illegible]）

同
都人沖津小嶋の浜ひさし久しくなりぬ浪路へたてゝ　式子

○長浦　未勘　○海士　すゝむ　舟　泊　海松布　浦見

新千
浪くらき長浦とこそ風もなし流れくまかるよりかくる（以下）　成運

○排津（エナヅ）　摂津　後拾遺
住よしのえなの津にたちてみわたせはむこのとまりゆいつる舟人　よみ人不知

○夷（エゾ）　陸奥　新古
みちのくのいはてしのふはえそしらぬかきつくしてよつほの石碑　頼朝

○江よる閑　出雲　○佐太浦　天津風　袖の別

まくらともなにはむすひもへきをしらん川さたの夜も中よ秋は立ぬる

嵐山　山城　大井川　桂里　戸無瀬　嵯峨　双岳

法輪　吉野　棲霞寺　松庵　谷　桟　里　門　花

櫻　紅葉　松　萩　千種花　呼子鳥　松虫

猿　猪　柴庵　簾　木葉　月　時雨　瀧　音

吉野とは秋をそれとやさそはれん簾の今は嵐の山になく人　題中

又
嵐山もとも岩やつゝし人形よりくれは入日のまつかけ　後京極

又さくらもわかし乃山のさくらの枝の花よ有明乃月　俊成

○愛宕　同　山峯　○高雄　樒　枝折　時雨　雪

〇月輪乃里　杉尾　砥石乃山　陸奥名所

拾玉　あさえ乃ゝ高雄の山とゆきさえて君ハあさこのかけにや　八条入道大臣

新古　峯の日数なかしもあさこ山嶺ゝ京風はかけて　家仲

霧ふらハあさこ山そふとりすらむまさこの枝の峰の嵐や

〇月栖川　可ゝ也　冬　舟　思　庭　松虫　草花　里

捨衣　水鳥　行幸　岩　松

千　あさ振いつも露乃みすの川松ともと思ひけるかな　京極前太政大臣

文　ありまさて桂川のかすミはて舟路にもなりにけり　三ツ子

〇飛鳥井　同　〇珠　駒　待　花　蛍　岩　舎り

八代　あすか井のまし心ハかゝねしやかけ乃へきみなへの深さもわかなき

夫　絶てしかけと見えて来る井乃四株ともしく蛍かな　中務

〇縣井戸　同　〇姿　杜の　馬　蛙　よみ人　橘

拾　わ会ともおもふ人に逢ふかはる縣井と乃山吹の花　公平女

〇縣宮　同　新後拾　わたのしもあかし乃ミやまにくさのことはりの秋をあきことに　中原師光

〇栗田山　同　〇網　相坂　君と思ふ人

古　よきぬとハやよのうちとみえてぬれもなほかくて山乃林ゝ　よみ人

又
東路を行にしつてわかるゝ山へかりて君をまつかり人

。秋山　同。鳥羽里　池　庵　簾　擣衣　松

（後松殿）衣うつ鳥羽田の里の稲莚いくよかねぬ秋の山風　後光

（新続古）夕日さす秋の山かせ身にしみて鳥羽田の稲葉そよきこゆなり　等持院

。朝日山　同。宇治　伏見　簾　里　谷　擣　紅葉

梅　松　卯花　藤　早苗　郭公　布　曝　川岸

八
朝日山まつしきならしき眼にて宇治の川なみにうつ公家冊　次貝明

ま
朝日山ゆふすしこわたる伏見田井ゆら夜の宇治はさよそら　光俊

同（近江　甲）明　天照神　雉子　野　調物

（新古）あかねさす朝日の里の日かけ草とよのあかりのかさしなるへし　輔親

。天香久山　大和　十市　掛　天乃神　神代　浅

苔　榛（ハスキ）　香具里　長草　豊岡姫　埴安池

松　卯木花　簾　瀧　氷　霞　桜　雪　五月雨

詞
かこ山のさかきかよふもとおふるきゝの見ハみかさかな　嘉言

（新後拾）
佐保姫の霞の衣をとりかけてすゝ空ハさらに天のかく山　の主

ま
かく山の桜かれの附るこゝよ霧るの春のあはれ　公朝

究師ー山　擣衣　ー川　嵩　同○春色　同　採　和歌

搖　卦ー　鶯　郭公　弓　槻　嵩　山吹

玉藻　あやめ　葵　河骨　里人

勅　春の日の雨途の搖衆も気に花の雪うとみ庵の煙て　如思

新後拾　世とゝもに弓槻か嵩の五月雨ま究師の川ハ氷まさりし　文国

方　あふ山搖さけくまし岩にこそ君かいくひつまし　よみ人しらす

名○泉ヶ川　里　都　寺　同○三室山　逝（コキシノ）廻　恩　滝

真神ヶ原　涸沁　石楊　婦人（メノコ）　都　遠　梅

祈採　花　滝　紅葉　跡し　外　花　菊　薄　清

鶯　郭公　厂　ちとり　蛙　衣うつ　氷　残雪

うつき　五月雨　七瀬　淀　月　雪　浮木　雪

方　婦人の袖ふきかへすあすか風都を遠みいたつらにふく　志貴

文　清ゆく夜ハこゝにむかへの山桜まてそあらしの風ふかむすはれて　土佐

古　あすか川もみちはなかれけり風に乱れて落る白波　京極

落千　新袖ともに思ひあすか川行きてかはりぬ思ひの秋ハ白露　京極

新拾　さとゝひのみちもかはりぬあすか川きのふの淵そ浅せとなりぬ　室町院　贈左大臣

。朝原 同。片岡 吉野 岡部ノ里 花 ならしば 楢

まろこ 女郎花 浅茅 薄 菊 撫子 青つゞら

蕨 萩 小篠 撞 鶯 雉子 郭公 鵙（モズ）

鶉 鹿 虫 雁 駒 よぶこ鳥 雲雀 鴬

玉
音立て鹿の鳴なる片岡の朝の原はおもひこそやれ

玉
霜さゆる朝原の冬枯に一花咲ける宿もみえこそ 定家

新古
鶉入ゆる片岡の梢も霜枯て朝原ニ秋もくれぬめり 家ニ内大臣

。阿多ノ大野 同。女郎花 萩 葛 薄 萱

鶉 鹿 スガル 松虫

夫
まく葛はふあたの大野の白露を吹なみだりそ秋の初風 長実

新千共
くゝミにおある阿太の大野の萩の露ふけば六玉のかり 定家

吾妻野 同。蕨 女郎花 小萱（ヲガヤ） 紫（コシ） 煙

麻手刈 都ノ思ヒ 月

万
あつまのゝけぶりの立るところ見てかへりみすれハ月傾きぬ 人丸

新後古
東野の篠やの露のしげゝれば袖もほしあへぬよる物思ふ哉 寂

。秋篠里 同。伊駒 薄 杉 竹 孫衣 鹿 虫

小山里　時雨　雪

（判吉）秋風や小野の里も河辺人にしゐの高よも乃れかり　西行

（松玉）藤の花秋の遠さ秋風の簾と虫らに抛て人々の嵐

〇青嶺　同　〇吉野　佐保姫　菩提　花　さくら

松　郭公　象山（キサ）　白雲

（千）よし乃川みなぎりはしもまほしと玉根をうつや花の白波　露

（加）さぬ作のあさ宗をみよしのゝ玉根のまぬ菩提　通光

〇在原寺　同

在原寺と見てくもらある　須良かよ

くさ平にもく古りも右そるや者の跡をみるも実し

〇天河　川原　河内　交野　男山　瀧　御狩　若僧　星林

松　若花　秋草　玉モ　飛　簾　蛍　鵲　貝

（攝）砂　舟揚　步　五月雨

天の川名にながるゝくれもや方に激漂も見るまね　よよ人玄

（ま）久方の天の河くもぬえまで流くつ　赤人　とよ

〇有馬　山湯　摂津　〇猪名　昆陽　三輪の神

竹笹　高根　菅　笠　武庫　宿野　猿

厂附る　竹よ　草枕　梅あやふ　芳色

拾　[illegible]人の[illegible]に逢ても[illegible]なもわかんとぞ思　人丸

よ　みつしほき行末も三千歳神のかミにはや芦屋の[illegible]に　資賢

夫木　有ける山河の流れを絶えず木の独ねかに梅あやふれ　為忠

同　紀伊二

まよ　まよふかく本末咲くゆくさの雲や

わりまの村の辺をうりせよ　読人不

阿久刀川　摂津

新古　今とくあくた川では[illegible]給ふやまとく[illegible]　兼香家　中納言

夫木　[illegible]あまの[illegible]芥川こえて難波よ[illegible]

芦屋（浦　海　田）（沖　灘）　同　○昆陽　紀路　遠山　難波　生田

打出山　布引滝　入江　庭　垣根　漁火　蛍　峯

鶯　千鳥　芦　鶴　鴨　木綿附鳥　鹿　駒　蛍

採　臣下　松　蔦　道折　柴戸　掛衣　賤持草　月

春雨　五月雨　芳　さくら焼

後拾　あし乃やのこやのわたりに日は暮ぬいつら行らん駒に任せて　能因

新古　芦乃屋の灘の塩焼いとまなミつげの小櫛もさゝす来にけり　業平

同　はるゝ夜の星か河辺の蛍かも我住方のあまのたく火か　同

おしなへの神の山の上とのはやてそ[illegible] （好忠集）

月 冬されは[illegible]の沖つ風[illegible]のみ[illegible] （定家）

浅澤（小野） 沼 同。住吉 忘水 菰（カツミ） 若菜

芹 杜若 菖蒲 莎（ミクリ） 荻 女郎花 薄 葛

松 秋沙 蛍 沖津浪 五月雨

住吉の浅沢をのゝ忘水たえ〳〵ならてあふよしもかな 範經

五月雨は浅沢沼の花かつみかつみるまゝにかくれ行哉 顕仲

秋深み浅沢をのゝ[illegible]遠き水の末[illegible] 信實

浅香浦 同。住吉 [illegible] 玉藻 舟人

[illegible]やいつくなる[illegible]浦の[illegible]音

芦間池 同 （新勅撰） [illegible]の池のさゝら[illegible] 為明

安部嶋。同 [illegible]石 山 岩 白浪 千鳥

芦浦 同 （拾遺） 芦の浦[illegible]もみ[illegible]人丸

。朝熊 宮山 伊勢 鏡の宮とよみ

（後撰） [illegible]の月影 （[illegible]）

九 [illegible]の岩根の[illegible]の花[illegible] （[illegible]）

○朝日宮　月　玉　神風や朝日の宮のみやうつし影のとかなる世にこそ有けれ　[illegible]

○阿古木浦　同○月　雪　海士　こしかた

津守　名に清きあこきか浦のあけかた木のまの宮にさして浦の　津守国助

○阿波手浦　杜　尾張○海松　神馬草　紅葉

よふこ鳥　喚子鳥　康　蟬　空貝　琥珀　鰒

今　名にきゝしあはての浦の海士ことにみえつゝ猶しる　源雅光

續後　俤の身にしむ月のあはての浦に定家

○熱田　神　同　八剱の宮あり　よもきか嶋とも云

採花をしむ人をまもるとよ神もちれとなきよしれぬ　熱田大明神

○安陪市　駿河○母子ヶ　早苗　かゝきん

零厂　田面　山　坂

新後拾　いそかしくわたる市人さらに坂ありくるみえのもふ有明

又　山風はむかしゆくきも坂にてあへの田面にいたるね　紀氏

足柄　関山　收坂　捐摸○浮嶋原　富士　武蔵野　箱根

清見　上下　河内　海出湯　山岩陸道　竹下乃　竹山

鳥骨　関守神　花　桜　枝　松　苔　舟木切

ユフツケ鳥　鹿　駒　宮木川　月　川面宮

勅　あしからの関路こえゆくしのゝめに一むらかすむうき嶋かはら　後京極

続千　行人も今越ゆるも遠し足柄の関の八重山秋風そふく　国冨

カ　とふさたて足柄山に舟木きり木にきりゆきつあたら舟木を　満誓

荒藺崎　武蔵　。残鶴　払　ふるる　沖津　八　笠嶋

万　草陰のあらゐの崎の笠嶋を見つゝや君か山路こゆらん

阿取波宮（アスハノ）　下総　新千　たのむそよあすはの宮にゆふかけてちかひしことはわすれしものを　法印定為

。相坂　関山　近江。石清水　近江路　走井　関小河

岩田　白河関　志賀　粟津　湖海　関達駒

霧原駒　望月駒　夕景駒　穂田駒　甲斐黒駒

杉花　杉村　紅葉　梅　柳　卯花　薄　葛

あふひ草　女郎花　さねかつら　鶯　郭公　千鳥

うせ鳥　鹿　猿　狐塚　蟋虫　驛ノ鈴　陸人　庵

わらや　琴　筧　照射　鳥居　手向神　流　調物

杖　笠　山路ノ小車　祇園精舎　清水寺　箱

月　夕附月　横雲　関守神　音羽山　出附名山

古
君か代にあふ坂山の石清水木かくれたりと思ひけるかな　忠岑

後拾
陸奥乃おさらぬ顔も見えもやらす逢坂乃関こゑぬ　源縁法

チ
年坂乃山花さくら見る乃関守の神やまもる人　師時

新古
嵐の待ちもいまこそ落葉の人白き逢坂乃関　太上天皇

う
あふ坂乃関の岸の今はとて八十さき猶乃杉乃川　家隆

史
ゆふ坂の桜よりなるかすむ祇園精舎乃[illegible]曙　俊成

近江海。志賀　三津浦　八十湊　沖津島　磯

浜松　花　メルメ　故々　驛　[illegible]　山奥

網代　擣衣　白ゆふ花

後拾
みつうみをあふみ乃海よわたる人のあふさかの浦凡　伊勢大輔

新拾
逢坂を出て見れは近江乃海白ゆふ花に波たちわたる　よみ人しらず

史
東路乃驛くをかきてあふさかのせきにかゝれるしるし　同

粟津　杜　野　同。相坂　志賀　清水　[illegible]駒

里　花すゝき　葛　萱　萩　女郎花　千草（サチ）

薄　尾花　鶉　鷺　鹿　螢　虫　鈴虫

雉子　擣衣　猿　狩人　ツミ

夫木
あさ川の〳〵すゝしみ松島角級ハみを立なむ駒のゆきゝを [illegible]

拾玉
なにはの〳〵宮ハ風に落やてかきつくつるのなき出ぬ 慈円

〇直菅の 同 志賀 湖海 伊以ふ高 渚 片山岸

花 桜 舟 春

支
湖海やあさ青あ舟をかきつらねつゝ寄ち風やそふらん 家長

〇梓杣 同 雑波海 みの中 何ゝ 天弓

ふもと川梓の杣をとくとく流て雑波の海を遠さかるかな [illegible]

〇浅間 山 高野 信濃 富士 遠近人 谷 里

[illegible] 紅葉 錦 萱 鶯 雪

新撰
信濃なる浅間の嶽にたつ煙をちこち人の見やはとがめぬ 業平

き
家づとに浅間の嶽のけふりにやかる[illegible] 清輔

ま
いくよまて越て見るなる浅間の嶽の[illegible]月影 [illegible]院

〇あさ日の山 同 何ゝ 樹 嶺 松 月 麻 何ゝ

支
老の身ハ三月の光にちるとて月まちまさる朝日の山 [illegible]

丸
しぐれにもさむき松風ふきて有明の月の山 慈円

〇浅羽野 同 新撰
[illegible]されハおさえの[illegible]小萱[illegible]れて秋風ぞふく [illegible]

○安蘇川（下野）（新千）石ふまぬあその河原に行くれて
みかハの渡まだふやゆらん　蓮生法師

●安積（山　沼）陸奥○山井　若草　杜若　菖蒲
蒲（カツミ）（浅香とも）桜　紅葉　松　鴫　鳩　玄駒　蛍　附郭
五月雨　旅祢　八重さ川石

（新）まこ駒のあさかの沼よわたしてかつ見る下葉ふきまよふ也　後撰

（続後）五月雨よ木下暗乃菰も添あさかの沼乃空ちとして　定家

（続千）郭公にゐて路ほと数をそうそ深も花山乃井かつ乃氏

○會津山　同○　信夫　里　郡

○阿武隈川　同○　信夫　奈古曽　埋木　柵　千鳥
霧　中　渡舟

（新古）君か代にあふ隈河乃埋木も氷乃下にはるをまちけり　宮内卿

（〆）あふ瀬いつまてと今とひつまへるやまた関のあらましになり

阿古屋松　同
（夫木）おかつらのいとまに見しらでくれん
あこやの松やしらてへ　顕仲

○安達原　野　同○　武隈松　小萩　薄　紅葉
普　檀（マユミ）　雉子　鷹　駒　麻　鬼　狩人　黒塚

（新拾）みちのくのあだちのまゆみひくなれは君よりつらを待つるゝ主之

新後古 河内川わたらぬ人の浅からぬ方にまよはん霧にまよふ秋の夜の月　定家

又 ともしびのわたりに影をうつしてふけゆく夜半の武蔵の松の嵐迄　（わたらぬ人のよそのつき）

月 あらちのやまの雪の空をこえてわたらぬ人ぞ恨ある　能因

青羽山 若狭。花 桜 松 鶯 河鳥 若菜

雑 春消ぬまの青羽の山のかすみつゝまつ人をもとまるらん　忠房

又 河鳥の青羽の山に鳴くも花のしらまやと思ひこそすれ　是房

有乳山 高根 峯 越前。矢田野 海津里 （裾野）

冬 山ニノカケチ ノリテル 菴 浅茅 本末

松原 菅原 鹿 蛍 嵐 風 カレキハク 紅葉 月

時雨 雪 霰

冬 あらち山峯のつもりし根あらしに雪も吹くらす有月かな　（よみ人）道房

春 あらそひてふり流しにわたる山越の旅人かりそめのまちし　忠房

家 あらち山はけしくて谷のおくかしきみえぬそつゝわかる　西行

有礒（ノリソ）海 （渡）浅浦 越中。葛 千鳥 雲 恵見

堂貝 舟 呼 濱 真砂

又 大伴のをりにし波をかけて見てそこにも舟をよせし　家持

天橋立 丹后。大江山 生野 倉橋川 殘清水

与謝 内外濱 吹井浦 松 紅葉 厂 ちとり

時雨 入海里 海士 玉藻刈 釣舟 神 [illegible]

三 ちりの浪八重はらひて安かる月みとわたる天乃橋立 隆暁

橋立の松乃下なる磯清水都なりせハ君も汲まし 和泉式部

明石（泊湊） 浦門 沖 播厂。繪嶋 須厂 阿波嶋

生田 小南杜 大和嶋 岩屋 湊河原 松原

思ふ里 岩屋 堤 郭公 千鳥 螢

鹿 漁 釣舟 ともし火 傍家 驛 ?月

み よをこめて明石乃瀬戸を漕出れはるかにおくる鹿の声 俊頼

新古 [illegible]とも 公通

家 わりなくといさ遠近もゆく[illegible]の里の月影 之承

阿武松原 長門 一説播厂

今 みちのくの思ふ乃[illegible]心まかせにあふ乃松原 長宗

千 それゆへ心ながらも年をへていかにもみぬかあふの松原 経房

九 ちりはてゝ恨てのこるとゞまらむあはぬあふの松原 顕季

○秋津野 紀伊 拾 人乃世のあらしと花と秋津野よ（胡かりを乃空あるとさそふ 法皇御製）

○同 宮川 大和○三吉野 同船山 拾 瀧上よ小舟る 刈萱

文 み吉のゝ秋津乃宮の杉花いく世咲てか神さびぬ石 さる海

○淡路 嶋 浮 追門 淡路○阿波門 雄波 須广

住吉 鳴門 若浦 松嶋 繪嶋 乃吉嶋 小嶋様

篠代ノ坂 拾 ら岩 雲 阿島 一ノ小島 秋沙

鴨 松 飛火 灘 驗烟 塀 塩焼 釣舟 夕立

家村と月 舟人る 何何女交野

金 あはぢしまかよふ千鳥の鳴声にいくよねさめぬ須磨の関守 兼昌

新古秋 わたつ向乃宮の村雨に波も及ふ住よし松 宗祇

文 淡路かた沖こく舟乃かよひもとわたる鳴戸 秀緒

淺野か原 同○淡路嶋 瀧上 雉子 雲雀 麦雨

淡枝秋 出きく出も過ぐる瀬の上風淺のいのうけも見えし（みえ） 為家

新秋 あえぬる去もわたる波の音聞えて松と絶よ過る 基俊

阿波嶋 阿波○淡路嶋 明石門 播广須

武庫 住吉松

又住吉の松の嵐はかりそわたる門の波の音まて　忠岑

朝倉山　筑前　○関　木丸殿　花　桜　萩　松風

鶯　ほとゝきす

（あさくら）朝倉や木の丸殿に我をれは名のりをしつゝ行は誰か子そ　天智天皇

又何るとねくらぬ子のまとや朝くら山のをのへに鳴　匡房

（はらかが）檍原　日向　○後拾　西の海あをきか原のしほちより顕れ出し住よしの神　卜部兼直

（とこの）綱浦　讃岐　○延喜乙女　焼塩　千とり

又浪風の関ゆる世にあひておもふ綱の浦人かゝぬ日そなき　家隆

佗野　未勘国又非名所云々　玉川　女郎花　萩

蓬　虫　月

玉人の世ハかゝらぬ人ハまてるにあらしかくれよとの後京極

風おらしの萩の上こす秋風にさそはれてやむ川の後れ

嵯峨野　山城　○千代古道　芹川　嵐山　広沢

小倉　名　常盤森　花　冨小川　雙岡　春日

深草　鶉山　薄　女郎花　葛　萩　雉子

零蚕　虫　康　勁　白□　子日　待　行幸

大宮人　狩人　裾野　道芝　附名月　菴

後拾　[illegible]山こそなきて行野の宮子有明の月　藤経衡

新古　[illegible]行さの赤遠く富士の川の流れあへぬ　花山院

夫　行人の[illegible]白尾花を分けて[illegible]白馬　為家

玉　かすみ[illegible]八子[illegible]花[illegible]秋の萩の附　俊成

○雅野沼　月　後拾　小志の山松風を大[illegible]やの沼やさしく[illegible]　中務

○澤田川　月　○久途都　槙　継橋　五月雨　芦

続古　澤田河きみの白菜くり返し君がみちよて万代や経ん　躬恒

後拾　逢坂小川○小藤岑　岩清水　卯花　抜柏　松

拾遺　白雲の逢坂山と越え行けば小笹の宮[illegible]　元季

佐保　山　河　河原　大和○春日　奈良　三笠　古京

梅　柳　楓　柞　卯花　松　獄　樟原　蜀

数こ井　千　柵　芦　菅　蘭　萩　尾花萩　座

丁子鳥　郭公　零　よふこ鳥　麻

蛙　駒　瀬　舟　高瀬　鴨田　野　神楽

麻手　調布　川枝　姊許　月　芳附霧

（万）ちとりなくさほの河瀬のさゝれなみやむ時もなしわかこふらくよ　坂上郎女

（拾）夕されハさほ乃河原の川霧にともまとハせる千鳥鳴也　友則

（続）このころハ河音も寒き山里に衣うつなりさほの川風　雅経

（新秋）はた薄尾花さかふき黒木もて作れる宿ハ万代まてに　（左大臣のさほの家にみゆきをさせ給ふ時）元正天皇

（同）おちさをハさほ乃河原にくりかけて風よりかゝる柳乃糸　西行

猿沢池　月　○浪　玉も　菖蒲　鴛　女郎花　芦

（又）猿沢乃池にうきたる女郎花首に〻投り身とハ捨ケら　仲正

佐野渡　月　○三わ崎　駒　泊　雪　千鳥　河霧

（新古）駒とめて袖うちはらふかけもなし佐野乃渡りの雪乃夕くれ　定家

（新秋）宿とほきさ乃ゝ渡りのさ乃ゝ夜ハぬれ〳〵もゆく人そ雲の江　家長

同　上野　○舟橋　中川　駒　茎立　芦　○花　里

田　村苗　○茶原　丁　親サクル中　井杭

（月）夕霧にさ乃の舟橋音す也手馴の駒のかへり来るかも　後維母

（又）烟立里人ゝ霞かふけて[illegible]遠さの舟橋　為家

同　和泉　○池　松原　郭公　鴨

（又）駒なへてむさ乃ゝ翔にみえつるハ松のこかけに風乃白雲　[illegible]

佐野岡 紀伊 五 秋風のさむき朝けをさのの岡
こゆらん君にきぬかさましと 赤人

新拾 おもひやるさのの岡の秋風は葉末ふくらし独りかもねん 行家

五月山 摂津 ロ 子規 床 射照 青ワラ 卯花

へ さつき山木の下闇にともす火は鹿のたちとのしるべなりけり 貫之

桜宮 伊勢 家 手向まて詞の花をたてまつる 桜のやよひめくとあらし 慈円

佐夜中山 遠江 ロ 甲斐白根 木下露 時鳥

床 岩根床 関戸 鳥音 紅葉 峯 横雲 鎌田

浦波 雲居 芝草 坂 松 桟 袖枕 関女

高嶺 月 旅路

古 東路のさやの中山なかなかに何しか人を思ひそめけん 友則

新古 雲かねの床よ嵐をいとて独やは旅人のさやの中山 三宝

日 年たけて又こゆへしとおもひきや命なりけりさよの中山 西行

カレデノ
指出磯 甲斐 ○塩山 山石根 松 千鳥 蛍 八千世

古 塩の山さしての磯にすむ千鳥君か御代をは八千世とそなく よみ人

新 山近きさしての磯の夜嵐に思はましかは 去明

サ
○狭山 武蔵 ○池 菖蒲 三稜（ミクリ） 葛 青柳 一 蛙

鈴虫　照射　秋夜ハ

よ　さ月闇さゝ山の峯にも秋ハ空の縫見え星かとみゆる　題不

桜川　後撰　常よりも春へになれはさくら川花の浪こそまなくよすらめ　貫之

更科（山）信乃。姨捨山　木曽　麓川　里　古々

布さらし　擣衣　厂　郡　菊　むさし　高根

後拾於　わすれしな秋はてに月の影をもおもひわすれて衣うつ也　光徳

文　さらしなや月の荒ぬる夜半にはことゝふ山も麓の鳴ていさ　知顕

里ノ蛋　阿波の鳴門　磯　渚　宿　水鶏　塩焼　三首

キ

梅花　鶯　厂　渭江　青り舟　塩木　紫ノ垣根

あ　見ぬ人のあしふみなれぬ宿も埋れぬよする渚今朝の白浪　高倉

ま　見る海夫鳴のの波よ年おれてたゝくる難よかゝるぬ哉　仲正

櫻山　近江　探らくさくら山のさくら花　らく探わたれいちる探わし

ま　三上ある探の山の花さかり春とふよすハ雲しら恵　匡房

堺浦　和泉　ま　ゆふ夢のさうむの浦の探鯛　為家
うりぬりさゝにゑりや川ら人

清瀧　河　山城。高雄山　亀山　高根　山分衣　八谷

岑　筏　舟　柵　柳　花　紅葉　蛍

鶩鴨　天降神　十寸鏡

十　石くゝるみの白玉数見えて清瀧川に流る月影　俊成

玉　高雄山清瀧川を底にみて谷陰めくる松の下道　冬景

夫　まつらん清瀧川乃庭流てちらて花乃影も猶一　如家

小野　宮神　同　船罡　一夜松　心はくし　北荒人神

佛乃（みこ）衣木（ぎ）　郭公　樗　春駒　花すゝき

薄　芝生　流れ　子日　馬場　垳森　挽藤　（三年）一枚起請

九　生過一夜乃松の経ある神乃ゆるさも無やさす

ま　松かぬよるの人に目さましの一夜まて此北野の森　公忠（月は久し）家隆

ゆふかけ新乃松乃一夜松今は松乃北夜来てから後人　家初

貴布祢　川　神　同　瀧　奥山　澤　大田

井関　笛代　江家　九岐　蹈鞴　神

キ子カ鼓　廉　石走　九十流川

チ　きふね川たちそふ浪にさしてゆくえぞ月　後成

丈　秋風の吹くぬれは音も枝に身をえ廉さ鳴る　家隆

ロ　夜半山　同　雨の夜　雪　萩の葉

新古 昔はさて夜のま思ひまもてぬは淡くもあらぬ霞の丈夫

キサ
象山 大和ー小川ー中山 ○青根 十市 花

象羽 松 よふこ鳥 鹿

同 みよしのゝきさ山陰にたてる松いく秋風にそなれきぬらん 好忠

夫 よしの山みねの象は月をあくらさも象川にすむらん 智海法師

象之河原 同 ○霧 萩 千鳥 蛍 川 桜 大観

夫大 秋ふかく清き河原の秋風に霜の上にかされてさゆる冬の夜の月 経朝

服長 母の木濁のみくさきゆぬるにはまかせ清さこそ見ゆれやまし 信實

○清渚 伊勢 新 いせの海や浪のよるよる澄月のかけそ清き渚くもらし 義詮

玉 伊勢の海の清き渚にしほかひになのりそやつまむかひやひろはん 催馬楽

○清見 関 潟 駿河 ○三穂 富士 庵原 沖津川

足柄 入海 湊川 花 木葉 千鳥 関路

鹿 蓬 藤 ○嵐 舟 丁 放鷹 薄 外山

雲 驛 究師 帆 浪 岩枝 月 寄

詞 むかひゐる袖は清見か関なれやかへす波もとゞめぬ月のやとりさ 平範貞

千 清見かた関とはしらて行舟は波のさきよるさなん 家方

波のうへまてうけり虫清水の驛傍むの月は訊かん（公頼）

○木曾　信濃の更科　風越峯　昔鳥之寒　風坂

丸木橋　木賊刈　採木の祝り　菟　葉　知雪

梯　よぶこ鳥　鶉　零　蝉　山田　伏屋　木幡

麻衣　砧　冬の雨　月　川

おもしろやさらしなけちか木練かき家や落あへ（千之）

更科の月の名も去てきてきさ秋の夜月はさ川（頼継）

信濃なる世をおもひつゝれてきる波の隔なり（為尚卿）

○切原　信濃　秋　逢坂の関の清水に見えし駒　山をいつるさくらくれ駒（高遠）

名月よりうつる木の下かて切原のたに（家）

○象潟　出羽　○左近　蜑苫屋　旅ね　豊思姫

不二の高嶺　けしかる草

さすかにあまの戸さしあまのうへや（顕仲）

世の中はかくても経けり象潟の蜑の苫屋をわが宿にして（能因）

姨捨　鏡台　子規　擣　荻　かけのまそ

さらしなや姨捨山に照る月を見てこそすくすく（公行）

○吉備中山 帯の細谷川 鶯 郭公 ほとゝき

華松 苗代田 紅葉 二ツ里人 枝折 袖

舟泊 真かねふく 春の草

古 まかねふくきひの中山帯にせる細谷川の音のさやけさ

合 鶯の鳴るまつそやまかねふく吉備の山人春をしるらん [illegible]

○紀伊海 紀伊 ○伊勢路 遠山 浦ゝ 初鴈 由良

続古 ○紀の真沙 鯛川 関守 月 雪 霞 舟

いせ海やあまの浜への浦つたひ紀の海けふはつるかな [illegible]

新 紀海に鯛川わたし沖中に[illegible] [illegible]

○企救（キク） 湊 豊前の松 天河 星池 菱 恋思

続拾 [illegible]企救湊松下露ふかく人かたのまん 家隆

こよひしも天の川をまつくらん星さへみるきく湊 兼誉

○弓槻嵩（ユツギク） 大和の穴師川 雲 五月雨 月 檜

続古 [illegible] 基

外 巻向の檜原の嵐さえくて弓槻か岳に雪ふりけり 新古今

○遊廻岡（ユキヽ） 同○家高川 荻 薄 小舟くたす

刈萱 梅花 若菜 卯花 附る 菖蒲

夫 旅人のゆきゝも絶て雪ふかき袖かくらん 家隆

同 冬枯のゆきゝ絶ぬる水の上よる風さえて月寄 中務

○雪消沢（ユキゲノサハ） 同

凡 まきれぬ雪消の沢に袖ぬれて

まつしらぬ若菜つまむと 崇徳院

○方木森（ユルギノモリ） 近江 高嶋やゆるぎの森の鷺すらも

夫 ひとりはねしとあらそふものを

千物思ひきさのいゝや

名にしおはゞゆるぎの森の鷺よりも 忠盛

新 物をのみおもひきさのいけ

いつまでかゆるぎの森のつれなさに 光俊

○由良門 丹後 紀伊 ○淡路 遠山 舟呼

名所 上野 若菜 千鳥 附る 梅 霞

小舟 捨舟 小鴫 磯 塩 沖 浜 春月

新 かぢをたえゆらの湊による舟のたよりもしらぬ沖津塩風 極

万 妹かため玉をひろふと紀の国の由良のみさきにこの日くらしつ よみ人

六 塩路漕ゆく湊の蜑舟より上野の鹿の声そするなる 兼之海

○雪嶋 壹岐 ○磯則 松 名所下二 牧の小牛

万 雪嶋の巌にうへたるなでしこは千代にさかぬか君かかざしに

夫 ゆきしまの牧の小牛も雪をしもよそにさぬる程もあるや 衣笠内大

○夕景山 未勘 芝草 春ノ下 寄蜂

[illegible]

○木綿葉川 同 御禊 [illegible] 岩菱

[illegible] 家隆

○御手洗川 山城 賀茂 斤岡 神山 亀山 岩間

川禊 林兼 大夫人 排垣 ウト浅 邑 ヲ三夜

岩橋 藍衣 卯花 [illegible]

井 楢 志賀 蛍 名水 [illegible]

[illegible] 頼政

[illegible] 公重 大殿

[illegible] 家隆

○美豆 杜 牧 野 里 同 ○沱 男山 舟呼 妹 渡守 桜

柳 モミヂ 若菜 菖蒲 真菰 女郎花

数冬 夕良 菅 [illegible] 公 雲雀 [illegible]

蛍 蛙 駒 五月雨 [illegible]

子 山城の[illegible]の里に妹を置て[illegible]舟[illegible]人 頼政

新後拾
浪こゆる[illegible]五月雨に[illegible]小浦 [illegible]

[illegible]
[illegible]

御輿岡 同 凡 [illegible]

ミカノ
甕原 同 泉川 鹿背山 久迩都 木津川 柞

紅葉 萩々 木津渡 大宮人

万
みかのはらくにのみやこはあれにけり大宮人のうつろひぬれば 福麿

[illegible]
[illegible]も今[illegible] [illegible]

三室戸山 同 宇治 [illegible]
[illegible]三室戸山乃さねかつら[illegible]
[illegible]大僧正

ミカサ
三笠 山峯 杜野 神 社 大杉 ○春日 布留 柏木杜

佐保川 瀬々 高根 里 野 浅 坂 細谷川

桜 二本松 萩 [illegible] 蕨 檜原 松原 榊

梅 椎 山菅 宮柱 赤ノ井垣 唐土ニ見月 影

鹿 時鳥 鶯 埋木 氏人 狩人 行幸

霞 五月雨 月 雪 時雨

[illegible]
[illegible]三笠の山[illegible]月[illegible] [illegible]

[illegible]
時雨には[illegible]三笠の山[illegible] 知家

君見よとこの草葉に細谷川の音のさやけさ　古今

三輪（山　川　里）　檜原　神　杉　泊瀬　佐保川　布留

大比叡　辛崎　伊駒　有馬　山中　茂山

宿　門田（山）　市人　西の庵　花　紅葉　露

杉松　出道路　卯花　菖　蔦　枝折

奔斫　柴　鶯　附鳥　鷹　手鳥　麻　蛙

猿　社（山）　猿　松木　掛衣　埋木　手引

味酒　杉社　行幸　カケチ　家附當馬

めづらしき行幸を三輪の神ならは悦ひの杉の過きむ　續古

新古　まき手あらはに宿かりて三輪の檜原に秋風ぞ吹く　鎮作

新後拾　大ぬさや杉立門を尋ねても三輪の神垣　尭仁

文　あとらるかくれ家の嵩に月落て三輪の檜原に秋風ぞ吹く　定家

同　味酒の三輪の山辺の秋の色紅葉のちるまに嵐　よみ人

初　過ぎてとも降る雨の三輪の杉の葉の波にもあるかな　同

三室（山　神　岸）　同の立田　山石瀬　森　紅葉　神南備

谷川　花　榊　杉　柳　梅　卯花　尾花

葛かつら 菅 下草 根ざし 歎き
菊 子規 千鳥 虫 鹿 駒 二ツ鳥
宮柱 赤玉垣 十寸鏡 白ゆふ 神楽 河社
五月雨 雪 霜 菴 谷の下水 松の下葉れ
金 こゝろみに山ぢの露にかはら藤人の苦しの小萩ににしきなりけり 經信
新 こゝろむ山下水もけてみよしのの花の雪にや伊平
云 さゆるあらしのみ山の岩こゝろあらはれつゝ しきしま人 忠為
宮瀧 同 吉野
後拾 夕瀧の瀬の水上見ねどこれ人 実明 みるきみゆきかよふ山ざくら 寂寺
古 みよしの山 月○ みよし野 六田淀 瀧津瀬
新古 神さびる振はくみよしの山のこゝろに見えずあり よみ人しらず
口 淀船山 月○ 吉野 杯津 桜 よろしき人
郡 公丁 康瀧
後拾遺 根ざしてしらぬゆゑによそにみむ舟のうへやまぬこゝろを 入道
此よりみ舟のよそに康成かなしく見えず五月のしら雲 後鳥羽
よし垣原 月の吉野 よし茅 芹 歎き 菊 萩
女郎花 浅茅 梅 柳 花 千鳥 撫

鶯　雲雀　子規　鹿　駒放　若菜　霞　雪

一梓弓をして春雨の里乃みかさゝろくすみやかにあらし　家隆

言あつさゆきゝ原のゝ駒さらさらもあれてゝ色人　俊成

耳成山　日池　摘（葉）　よぶこ鳥　附鳥　鹿

古みて遠乃山のくらし道なしにかすむ乃ゝ朝下波まつ人

よみ人家歌　川　山里　辞濡　ゝ流　夾登　山本　屋上

泉川　渉宿　清河原　古杭　花橘　水葉

柳　散　庭松　菊　款冬　卯花　夕春草

三二玉藻　附鳥　千鳥　鶴　鹿　鍾小録　稲分

舟渡　高津　奥葉　小鯵　陽来　五月雨

子みつの川　夕暮草　仲春やあつまの鹿の涙なるらん　紀文

文濱乃こゝろ野澤さえ入の鳴るみなと涙ゝ行　慈円

三鴻江　同　玉江　入江　芥火　住吉　長柄　渾

田　採貝　柳　松　芦　真菰　菅　蓮花（三川）

子規　鶴　北鶯　鴨　雁　駒　蛍　空貝　高歌

蜑　漁火　行華　婦人（各多）　五月雨

かゝり小と[illegible]みえ男のあくまも[illegible]の[illegible]つれ[illegible]（[illegible]）

頼 今まで江の流まで浮田の[illegible]の[illegible]（宗家）

〇同 伊豆 十六浜 [illegible]やみ[illegible]の[illegible] 安房 四家

〇同 伊予 天川 首代[illegible] [illegible]（雅用）

〇三嶋野 越中 〇萩 浅茅 鶉 小鷹狩

新拾 やまかやおもれむしまゝやよふの[illegible]（為家）

新後古 いかねく秋の[illegible]中[illegible]の浅ち刈[illegible]の萩（昇母）

〇三津 泊 浦 浜 松原 揚津 〇難波 武庫 生田

（ツケノ）鶏鳴江 流江 立田山 [illegible] 浦 渚 浜松

寺 [illegible] 鐘 刈モ 玉モ刈 花 なぎさ 芦

宮本守 よぶこ鳥 [illegible] 路 雫 捨衣 波[illegible]

網川 長貝 塩焼 玉垣 庵

新古 いさゝめに[illegible]の浦の浜松[illegible]（四上 源良）

[illegible] [illegible]の浜人 衣 川やし（後成）

〇同 近江の比良 七まがり 四方 橋 杖 浜松

新後古 比良[illegible]の浜[illegible]七の[illegible]（後京極）

○湊川 摂津 ○生田 同 雑也 明石 迫門 泊

松原 棚無小舟 芦 簾 ゆふしほ 千鳥 呼子

よ 湊川うきねの床にきこゆなりいくたの奥のさをしかの聲 新拾

新古 みなと川上波遠くみえてきしところ五月雨の比 為相

○湊山 月 新勅 宮こ山ことゝひくらし湊風は波しる松は時やくらん 為家

○甚面 同 松 鶯 庵 里 垣 紫 牧戸 曽丹 月

き みなか山さし紀つゝる甲宮は浜松乃ひきまもる枕乃下 哉

月 なかきよみのおもの真の頃まよはしむる宮野

○三犬女浦 摂 同ノ淡路 摂 安房摂 海 千鳥

零 松 員 玉藻刈 ナクリソ 舟 嫉

万葉 見目をはくかまむむこのみけれて人をあなかしみてこめる 家持

万 玉もかるみぬめをすきて夏草の野島の崎に舟近付ぬ人を

○御裳濯川 伊勢の神道山 石清水 又忌ノ夜

千本ノカタソギ 藤 紫藤 玉柏 三角柏 榊

玉もて花 中川 朱竹 神の宮 又門系

文柱 鳴呂 郷公 岩瀬 百枝松 神風

續後撰
人皇乃天地の日の本の代をそなへし川の末のちきり　後鳥羽

凡
萬代とみもすそ川の今ぞたえぬ松よりはよそに思　西行

夫
神風やみもすそ川の石清水君をさゝめやまもる路人　家隆

・宮川　同○岸　抜村　瑞籬　度會　ゆふかつ

住連　江　渡　月

新古
契あれはそけふ宮川のゆふかつら長き世まてかけてたのまん　太上天皇

新拾
みもすそや宮川の末の波の数よりも君とれおれ　慶會朝臣

○三穂浦　沖　松原　駿河○庵原　富士　沖津　峰山

清見　入海　崎　風早山　白浪　本宮

浮島　岩屋　松　沼舟　五月舟　網川ノ

子のまつ　雲ゐ　秀月ノ

三
清見かた入江の清見の月影のみちくるみる浦松　顕昭

續
名高き入海涼し沖津風松ふきこえてよする浦波　為氏

万
風まつる浦の入江の白つゝみ名立もさゝなみ寛人

冬
○三尾　近江○高嶋　比良　田上　大津　又　拙山　浦

中山　○岸　槙振原　楊　本宮　小松　網川

零民芦

秋 あるるやの尾乃松花たえておもなくさへみ小家隆

名所 伝はや小松よ立てみやこをハみかの原なる行けれ人 神主

ま さ波や大津乃宮の月洩しかくそ行くみやの浦とこ 定家

○三上山 嵩 同○志賀 野洲 摂ノ山 南海 紅葉

名 桂 榊 杉 岩根 ノ浦 木綿 影 月

名所 鏡山なるら三上乃山の杉村や八百万代乃色も見えけん 季経

秋 ほのかにも三上乃嶺を見わたせハそこいるも湖とせ見ゆ 上東門院

○二 水茎岡 同○庭 浅茅 葛 萱 菊 荻

浅草 木葉 梅 ノ 雁 うつら 鷺 鵆

蚕 鹿 旅人 田 松虫 千鳥 浮舟 舟 網

雪 霜 村雨 月 妹

古 水くきの岡乃やかたに妹と我とねての朝けの霜のふりはも

新後拾 水くきの岡の葛葉もうつろひて今朝うら寒く出る旅人 雅縁

古 水茎乃岡の湊の浪はなかりけり風海てうらやのわたる人 よみ人しらす

○三井 清水 同○志賀 浅茅生 鶉 蛙 山川

しも暁 持寺 佐山 採

新古 侘ぬれと（千年も経て）のちハいかにや わきらの原に鶴啼らん 行家

新 たゝ渡や千年のちる海ハ雨まて青よりて声ハきこえしと 直

ひ 緑まハ心乃底り洗まりの千年松風のこゑかり月秋 道永

美濃御山 中山 関 菊河 歌枕 柏 杉 一松

うかさる 蝉 豊明 あの関

新古 おもひきやみつゝおゆ山の一松契しよしハいつもとおもれ 伊

続古 ちかひつゝ見まくの中山秋まて又逢さらんそきはの関 寒

流射山 信乃 玉尾花とくるやのちきれの一ひし 本

宮城 野原 陸奥 ○木の下露 流星 萩 鹿 （ちの中有の秋のここに 今朝咸天）

駒射 虫 まま蘆 雉子 鶉 機織虫 松田 附

女郎花 萩 撫子 蘭 桔梗 野ゝ宮 狩人

やくしの 萱 歌枕 五月雨

古 御侍みかさとまうせ宮城野の木の下露ハ雨にまされり

子 ことしけき [illegible] 木の下露に [illegible] かゝる涙の海 直房

ま 宮城野のもとあらの小萩露をおもみ風をまつこそ君をこそまて 宗家

○み豆小嶋 月○山吹 雫 棚無小舟 都ツト

家 小くろ崎みつの小嶋のあまのたゞよふ小舟行末まつことし 宗尊

をこゝろあそびをやしよらも出ゝ

○都出る 月 古 都路へ○わかれを惜みつゝ

ま 別路を月をやくおもひすてゝ都路を出て小萱 公朝

○三吉野 武蔵 伊 みよしのゝたのむのかりもひたふるに

きみかゝたにそよるとなくなる

○美奈乃川 常陸・筑波 渕 木葉 紅葉 桜

淡路 筑波祢乃桜や峯乃花の川おちて渕となるらん 雅有

あは於 小泊瀬乃花のさかりやみなの川峯より落る浪乃白波 清輔

○みの江 舟・鰹ツリ 鯛ツリ 鶴 蛍 釣舟 鶯

鴨 松 花 月 家

万 みの江乃浦嶋か子か鰹釣鯛釣ほこりて七日まて 下畧

ま 袂さむしてよるやむさしはさる松風や秋のみつのよなまさるらん 慈鎮

○みの江ノ 葦（ヨシノハ） 文 月 一説出也・秋乃趣ノ月 梅

新古 水の江のみしかくらき袂さむへてよるひさむけたる浦の松風 季経

○海松目浦 壹岐 ○としふの網 釜

新古共 とくやみるめの浦に住あまも心からよるをもまちてやしほおくらん

○三穂窟 紀行継古 かゝる盤石の上に居て今もの名残れし 住きん人の御ゆかりなる博遍

○御笠杜 筑前。大雪 ゆふたゝき 附句 神冬

俳 大野あるゝみかさ風俗のゆふたゝきさしはても古袖の 附寒

○養宇浦 同 ○空貝ヨメリ

○おほ鳴 肥後。おほ坂浦 かるる 舟

俳 共 芦の大坂浦よ舟出してみれはまたゆく波の 長重

○養老小川 未勘・蛙 山吹 青苔 みをれ草

俳 伝林 蛙啼小川の水の流るゝ是よりて若菜の 師材

○白河 山城。朧 山里 松 花 おる亥 菊 魚

○茂第草庵 かゝる 行幸 卯花 ある

子日 女郎花 萩 岸 祇園 桜 揺子 寺

濁江 法 玉モ 歌人 冷虫 鶯

古 皿乃浦おちてこそ瀧津白河にて君が代よこの名をまさなりけれ まさ姓

都古 あはをしくて今はかねのまかにも今も白河乃花のしたうこ 雅経

祇園あるりに白川桜の並ゐるや是の垣根とみの花の咲 仲正

同 筑前 女撰 年月はかれたわりたるよしも白河乃ひき わたりしもまて花よ咲かや 廿

同関 陸奥。塩竈浦 相坂 夷ヶ嶋 花
卯花 垣根 桜 紅葉 松 雁 鶯 末松 苗
木葉 都 霞ノ月 時雨 東路
後拾 都をハ霞とゝもに立しかと秋風ぞ吹白河乃関 能因法
続古 ゆふいつとゝや見まし白河乃関のあなたの塩竈浦 行能
家 月影も思ふ人そらゝゆらんぬ見をさし白河乃関 為家
○塩竈 山城。岩手乃松 渡 八重葎 浅茅原
古 君まさて煙絶にし塩竈乃浦淋しくも見えわたるかな 貫

塩竈にいつきの????船もよるよ ゆるん 華
同 陸奥。離嶋 白河関 八十嶋 松 鴨 厂
千鳥 鶴 鴫 花 鶯 子日 籬 屋 釣舟
浮嶋 里 ミルメ 霞 霧 月 雪 たく藻
古 我せこを都にやりて塩竈乃まかきの嶋の待そ恋しき
千 塩竈の浦吹風に霧はれて八十嶋かけて澄月影 清輔
文 子を思ふ色もかはらし塩竈の浦の松の朝露 頼武
●摽野（ヒシメノ） 大和 撰吉
絶られてや春をまちみん乃 太上天皇
紫雲影康らゝ

式
秋乃夜ハ独ねさめの草乃庵袖よりも月のやとりとなれる　長明

○生駒　同　○几嶽　河内　若菜　花　若　宿　行春

吉野乃花にさそはれて（？）おもひおもひにかへりこし　宗尊

子
宿りする山の庵乃嵐のみ袖をいく夜ふきぬらん　兼好

新古
寂寞乃岩屋の戸ハ石門にきこえて深の雨の音ぞおとする　覚盛上人

○恐思　河内　○蕨　薄　茶　森　ともし　鷺

廓　河内

大
なつもゆる野の下草深くもかゝりける　俊成

新後古
さよふけて嵐の音にゆめさめて露のおきゐるなかに　押小路

○信太杜　和泉　ゆふつゆ　千枝　子規　楠　葛

蝉　螢　高師浜　里　茸　薄　茶　採　ねぶか

夕之　河内　鳥　月　いつミ川　五月雨

新
ちかき夜の月もやさしきさよの信田の森の方に鳴之　匡房

新千
下紅葉まちえてさきにしらるらん信田の森の下枝の色もまた　国助

玉
うら風の嵐にたえぬ楠の木の下枝より見るまてぞ　ありくに

長津　摂津　○武庫　須戸　淡路　扨凡ナイリ

零　網川　鹿をしかれ草　釜　住吉　云々
月　時雨　雪　真砂地
法　住吉の浅沢の浦のさみたれは岸の松にそむすひこそ浦風　為世
玉　浦風にさゝ波よする住吉の浅沢の浦の真砂地　為子
○白菅湊　遠江　○入海　松　舟人　汐風
○志豆機山　駿河　○時鳥　時雨　紅葉　女郎花
九　[illegible]　定家
続千　[illegible]　忠房

○塩山　甲斐　古　塩の山さしての磯に住千鳥君か御代をは八千代とそ鳴　よみ人不知
新後拾　さしての山さしての磯の秋の月八千代住へき影そみゆる　雅言
○滴森（シヅクノ）　常陸　新葉　濡てふる時雨も露もとめもあへぬしつくの森の秋のおく[illegible]　大内大臣
○志賀　山　浦　都　花園　浜　古津　大曲　近江　○湖海
比良　長等　三上山　打出浜　相坂　[illegible]　日吉
鏡ゝ高根　辛崎　沖小嶋　[illegible]　洗川　山川
岸　花　紅葉　鶴林　松　橋　款冬　藤
菫　芦　わかな　枝折　鶯　郭公　しかる

厂 鳰 蛍 鮒 天降神 一 五[illegible]波 ナノリソ

柞の 綱川 宮木守 九折 請 行幸 入江

搗衣 康 寺 鳰 調物 且[illegible] 水車 [illegible]

青月 雪 湖南 氷 [illegible] 落葉

子 いさ浪やなく[illegible]月[illegible]や[illegible]の[illegible]性[illegible]

[illegible] 浪や志賀の浜松[illegible]子日[illegible] 後成

[illegible] 志賀の浦に五[illegible]の浪立て天[illegible]けるや[illegible]の[illegible] 慈円

[illegible] 浪[illegible]一[illegible]志賀の山寺 [illegible]

[illegible] 志賀の浦[illegible]網[illegible]沖[illegible]て[illegible]

[illegible] 橋の花[illegible]花[illegible]首[illegible]志賀の[illegible] 之

十 [illegible]志賀浦浪[illegible]八[illegible]

○湖 賀樂（カラキ）松 山里 同○宮木 桜 [illegible] 擣 搖（括）店

松 花 子規 厂 康 搗衣 [illegible]色 爪木

炭竈 柴 一 鳴神 [illegible] 湖南 雪 村[illegible]

詞 [illegible]志[illegible]山の[illegible] 惟成

又 [illegible]川[illegible]て[illegible]月 家隆

[illegible] 為家

[illegible]

標茅原（シメヂガ） 新古 [illegible] 清輔 [illegible]

[illegible] ては枯果ぬらん よみ人 [illegible]

信夫 里 山 杜 浦 摺 原 陸奥。奈古曽関 名取河 塩竈

安達原 會津里 宮城野 岩手 躑躅 壺碑（ツボノイシブミ）

[illegible] 桜 松 橋 山梨 楢 卯花 草刈 葛

[illegible] サネカヅラ 真菅 女郎花 [illegible]

[illegible] 郭公 呼子鳥 [illegible] 照射

塩焼 [illegible] 夷 猪 [illegible] 岩根 沖 網 [illegible]

鷹 [illegible] 松原 [illegible] 下草

[illegible] 雲 風 注連 [illegible] 海士のたく縄

[illegible] 清輔

月 [illegible] 讃岐

[illegible] 関を越る [illegible] 西行

[illegible]

古 旅人の越ゆる奥の志ら山心ハかすくちらの道の奥　後撰

下紐関　同　東路の行かぬ人たれそれもいつしかとけて下紐の関　甲斐

塩津山　越前　○駒つまつく　白雪

代 塩津山打こえ行ハ我のれる駒そつまつく家恋しらしも　笠金村

白山　加賀と越路　竈波　雪の下葉　頼の鳥

古 君か行越の白山志らねとも雪のまに〳〵跡ハ尋ん　兼輔

新古 年ふれと越の白山わすれすハかしらの雪をあはれともみよ　躬恒

續古 白山の松の木陰にかくろへてやすらにすめるらいの鳥かな　[illegible]

藤原　同

新古 志ほ中ハうきよしけとしけ家ハ旅ねして妹か家ハ子とも　俊成

新古 衣手に夕風さむし篠原や刈寝の宿ハにかくて行かむ

飾磨　播ノ　○海　川　市　民　○かち　藍　畑

○園生　田　思ひ　野　庵　狩　水鳥　厂　鶴

蜑釣舟　○桜　日笠浦　霞

詞 播ノなる飾磨にそむるあなかちに人を恋しと思ふ比かな　好忠

古 わか上に露そ置なるしかま川海に出てわたる舟のかいのしつくか　中務

夫 しかま津やかへるまてあかし思ひのさかへ行らん　[illegible]

志加（嶋山）筑前。博多 金乃崎 和布刈

。塩焼衣 白魚 小嶋 舟 皇神（スベガミ） 漁火

（俊頼）かゝ人の志かの小嶋に舟出て波にとまりてゆく後れ

（勅）志かの浦やあまの塩焼めくり塩焼は海をくしけのにしれもみ（よみ人家）あまれ

（公）新西にて家志かの嶋かは（トモ云連ミ字）うすき月かけのうちをあまるみて 寛恵

塩屋王子（津） 紀伊。里 文 よみる 宮 松

（十）おかのかくるかゝる神るかの塩やまぬ渕をたえかのくり木下（一本 三条内）

西極山（ニシハツ） 豊前。告嶋 棚無小舟 備 暢 都（賦）

（紅葉）しらかはの風いたくしてかのかまにもたえてのこる蜆なるかな（二条）守覚

。繪嶋 崎 磯 淡路。須广 吹居 湊 山 明石

玉津嶋 廣田 なみ 浦 松 わか葉 花 本捐

赤貫 保井 臨 雲 月 時雨 汐風

子 そら海に浮ふ月よあか空をて繪嶋の磯に見ゆらず 親隆

月 清見かゝみる月井浦よ表にて磯より月かゝる（一本） 家基

一 まちまれておくちかとも繪嶋が磯の素やこの（勝）

（エノハ）榎葉井 大和 又 古るりけりとよらのてらの榎葉井に 長明

○氷室山 山城○宇陀 谷川 岩垣なるゝ 槙

み狩 行幸 松 探り 山下葉 氷ゝ住ゝ 卯花

冨士

千 下さゆる雪も氷室の探り消残こそ夏ハとゝみる 仲正

新後拾 限りあれハ六月のてる日も消ぬ月をこ池の水ハ氷室山下紅葉 [illegible]

○廣澤池 同○ちゝの嵯峨山 [illegible] 山里 岸松

堤 古人 花 柳 杜若 萩 菊 芦 蓴

岸 紅葉 [illegible] 鳴 鷺 鴨 蛙 岩 月 青苗

新 廣澤の池のほとりにすみなからふるさとを見る 為家

ま 廣澤の池にやとれる月影の清(?)なれハ [illegible] 顕房

○平野 原 同○難波 松 杉 花 皇神

拾 生しけき平野の原のあや杉よこゝろをさかへぬへく 元輔

続古 外ハまた嵐の音も聞えぬや平野の松に降る白雪 宗隆

○檜河 橋 月 新勅 さゝのくまひのくま川の [illegible] ひの川の [illegible] 俊成

○廣瀬河 大和○早苗 水渡 浅瀬 五月雨

新千 廣せ河わたる小田の早苗かくはかり袖ひちて(?)とる早苗 宗尊

○檜隈川 同 ○小菅 杣 駒 時雨 入舩 影

古 さゝのくまひのくま川に駒とめてしはし水かへ影をたにみん よみ人しらす

又 ひのくまの舩のとまりて[illegible]河をわたりて駒もゆくらむ 光俊

○廣田社（摂津）新後古 [illegible]しほゆくきはゝわくとひろたの神にまかせん 六条右大臣

○姫嶋 同 続古 みつしほのたえまにみえし姫嶋や小松かうれにかゝる白浪 中務卿

○有馬野 遠江の萩 萱 思草 子日 松 鶴 鹿

金 [illegible]姫小松ひくまかも千歳[illegible] 匡房

又 ありまのゝ白ふ秋萩今こそは[illegible]秋の白露 [illegible]

●比良 山 根 漆 近江 志賀 真野 湖 海 三津 浦

大原 わかな 花 ちる 紅葉 千鳥 鴨 郭公

丁 篝 釣舟 日次の贄 ヒモロキ 神 浦 海

むと川 月 雪 時雨

千 比良の[illegible]根の[illegible]神な月[illegible]

新後古 近江路やまのゝ浜へに駒とめてひらの高ねの花をみるかな 雅経

続拾 はるかなるひらの[illegible]日次の狩そくやしき 国信

●比叡 宮 社 山 高根 杣 同 ○三輪 宇治 路 鷲の峯

長等 谷川 木綿 宮木引 林鹿 牧生窓
山寺 神垣 杣 櫻 花 法 法乃師 国 伽藍
撞 行幸 雪 月 霞
新拾 あきらけく後乃佛の世まても光つたへよ法乃ともしひ 傳教大師
金 うち川乃底のみくつとなりなから猶雲かゝる山そ恋しき 忠快
新後古 大ひえや杉ちりけと見えし法の道も同しことはの神垣 堯孝
新葉 ひえの山みねにそ法の道ことに雲の上のよ路の[illegible]より 慈圓
首吉 神 宮同 ○吾立杣 大比叡 賀茂 稍尾

鷲乃山 越 白根 志賀 鶴林 天照神 行幸
柴戸 奥山 子日 藤 峯 法 月 櫻 七星
法の山 神祭 木綿 榊 猿
新古 たのむ日吉の影は奥山の柴の戸まても[illegible]やハ 慈圓
新古 年ふとも越乃白山わすれすは頭の雪をあはれとも見よ 頼輔
新拾 わすれすなひて日吉乃光るそやはは七乃星乃照さを見よ 成茂
新 ことものにかはるとも日吉とわかむなは同卯月の榊葉そより 慈圓
首高松 幾濃 凡世をてらさる日吉の光は松乃葉毎に けさの今の[illegible] 光俊

比礼振嶺　不見　いそとりしこゝる津の山すき見て　ひれふりの峯をみつゝ月影はなる　祐

比礼振山　肥前○松浦　郭公　蝉　遠津人

（淡は松）松浦川河音高しよ姫のひれふりけん山の五月の比　宗尊

（彩は拾）蝉の羽の衣に秋を松らかたひれふる山の暮そ涼しき　家隆

比古る根　豊前　玉　いさゝよれ比古なゐる根の池水もまへ心のもあさくめや八

ひ（ヒキ）き路　壹岐古　あつさ弓ひきのゝ川のはらゝ未さぬなへり　けるおりのひとりてのまけん

比（ヒ）治（チ）奇（キノ）灘　ヒキノチタも　播广　一説筑前

いさりする　浦く　浮舟　五月雨

かきくもる浮舟ハよるをさしひきの灘の浪のおとそきこえて　中務

うすれ行ひきの嶋の大舟のあまの小舟もなほよるひけり　長方

玉　干潟浦　未勘○沖　雫　蜑　鄭　夕汐

くるゝまの鐘に汐ほしゝ夕汐のひかたの浦に蜑か袖ぬるゝ　ぬ家

比守山　近江○紅葉　木下露　下草　青つゝら　榑

青柳　松　人よふこ鳥　康　蝉　岑　皇　雪　洲

月　時雨　白露　雫

古　白露も時雨もいたくもる山ハ下葉残らす色付にけり　貫之

新古
まくらきをとゝきすかふる山の山かくしやまつてきら　資業

玉
空蝉の涙志るまてなりの山の雲はれぬおもふ木をの為相家

望月牧　信濃。相坂　ゆかの山よ代なかに　東路

金
東路の杳に出るもち月の駒こよひハあふ坂の関　源仲正

新古
さかの山千代の古道跡とめて又露分る望月の駒　定家

最上川　出羽。稲舟　みなと　岸　淋山石ゝみね
鴨　鷺　鵜舟　蛍　柳　滝　瀬　五月雨　河霧

拾
もかミ川のぼれバくだる稲舟のいなにハあらす此月ばかり。

夫
最上川おちくる瀧の白糸ハ山繭よりくるにぞ有ける　定之

○門司関　豊前。○霞　〃　玉章　都ヲ思

勅
暮秋の霞もとつまれ今玉章かよふ人の関守　家輔
もしの関そて
都にもとよりの浪の枕にかよふ夢ぬかけり　如願法師

○藻塩浦　未勘
続古
たまもかるあまのかるものの夕烟
いろぬけりおもひもけふもえん　光俊

○江美ノ洞　月　務川の歌書は本集に告給けり

玉
荒波のたちきよするてゑまの洞の月をみるかな

○尾原　相模
まくらおもくらしやわすれん東路十
川といふ名をあらこしらる

東路の原にはおもひもそへてきぬやよ人のなきさにかへらん

芹川　山城　さかの千世古道　竹田　早苗　菜

鷹人　行幸　狩将

後撰

さかの山行幸絶にし芹川の千世のふる道あとはありけり　行平

続古

けふ見れはよるさへとよそ芹川や竹田ふかき里をおもひやるかな　よしとき人

新後古

あはれそよ人たちなれて旅芹川におひたつらん　家隆

瀬見小川　山城

新古

石川やせみの小川の清けれは月もなかれをたつねてそすむ　長明

閑小川　近江　山城二通

今

音羽山おとにはたつる相坂の関の小川は絶すなかれて　後撰

芹生里　山城

丈

世をいとふ山ならて大原や芹生の里の月ハかはらし　家隆

大原や芹生の里のいつからは身もすみなるん

勢多　長橋　近江　湖海　矢橋　相坂　鏡山

三上山　粟津　里　野路　松原　真木　板　蒼生

調物　奥染　望月駒　中川　清雪

新古

真木の板も苔むすはかり世をへぬる君が代をこそなかき長橋

凡

いつれ見る人の東路のかはらぬも長橋もかへるさにも盛

丈 朝朗空に三上の山みえてあかしかたにせゝされる橋　長能

○関藤川　美濃　○美濃中山　不破中山　伊吹

佐手さん　君か住　月　舟　駒すゝむ　歩

新千 枝おりぬ関の藤河さゝ舟にたゆたふにゝる世か住ほと綜

まさ みのゝ国不破の中山岩清てあつし関の藤川　中務卿

新古 藤河の関のしみすゝしさて夜の袖ぬらしつゝぬる　忠

○菅原伏見里　大和　○小泊瀬　不苗　女郎花

○菅枕　花　岩清し　厂　子鉤　鴫　簾

ス

摂 摂夜　家世をよそに家　君か月　初雁　田井

古撰 あしたつや伏見の田居の露浅茅の露にかゝらんとゝよとる人　家か

新古 夜半に鳴ハ雁をたゝけや伏見の田居をいくよ於　流　慈円

新 秋されは穂のひきくはとゝや伏見の里はかりのなかりて　なる羽

後千 河さきに尾の山やまとへすゝゝや伏見の里の初雁の声　家隆

○菅田池　同　○拉尾　真菰　蓮　女郎花　芦　柳

河島　丁　鷺　鴨　少女　夏草

拾 乙女子か手すさみ池の蓮葉ハ心すゝしく見え候まゝ　り師秋

墨江

あ [illegible]姫の[illegible]朝霧に岸根松こそみえけれ わかれ

千 恋[illegible] 安藝 [illegible]

山床　竈里　山城○大原　小野々山下

新後拾 [illegible]大空や[illegible]の里[illegible]院

の住吉　岸罡里神　松津○淡路嶋　遠里小野

浦　濱宮

下南野　細江　松原　[illegible]浦　難波　長柄橋

武庫　橘小門　津守　竈松原　粟津　昆陽

玉津嶋　朴（ナナ）津　永井浦　出乃淡　石清水　数

浅沢小野　蓮塘生来　藻の白玉　擣衣花[illegible]

柳　橘　法花　忘草　落浪の　向草　蔦

菊　百草花　梅　海松　菖蒲　[illegible]　荻

萩　蓮　神馬草（ナノリソ）　子規　零余子　[illegible]

虫　蛍　蟬　駒　[illegible]神　宮所　赤[illegible]

カタソギ　玉串　行幸　[illegible]　[illegible]　岸上田

苔　山岩根　[illegible]　八千嶋　[illegible]

三笛　子日　舟[illegible]　擣衣　[illegible]原　[illegible]

住吉乃あさハ[illegible]人こそ[illegible] 忠岑

秋

行吉の松の秋風[illegible]つまハ[illegible] [illegible]

恋秋

住吉乃松乃[illegible]神さびて緑にみゆる赤の玉垣 蓮仲

続古

[illegible]や[illegible]五月雨[illegible]住吉の里 国平

九

松陰[illegible]住吉の岸の上田に[illegible] 宗長

続後

わたつ[illegible]浦[illegible]神[illegible]住吉輔親

石清水にて

[illegible]松[illegible] よみ人

丈

[illegible]住吉[illegible] [illegible]

須磨 浦 関 上野 同。淡路嶋 絵嶋 生津 畠

明石 迫門 後山 沖 灘 和田原 花 撫

萱 薄 尾花 磯馴松 モカリ舟 [illegible]

よる鶴 丁 雛子 鴨 蛍 藻（ニスム虫） ミルメ 芦

釣舟 苫屋 塩焼 板庇 漁火 擣衣 蘆 塩屋

寒 五月雨 雪 月 雪 霜。つれ〴〵さびしく

琴 関守 鳴神 巳乃日はらへ 松乃柱 竹あみの垣

金

[illegible]

千
[illegible]や[illegible]の南座の[illegible]月[illegible]　師信

淡子
[illegible]人[illegible]や風[illegible]て衣[illegible]らん　大阪[illegible]

彩子
[illegible]上[illegible]夜[illegible]　津阿

其
鈴舟[illegible]やくらん[illegible]扇子[illegible]　歌昭

支
月[illegible]しろ[illegible]山[illegible]浦風　[illegible]

彩云
[illegible]浦[illegible]近[illegible]　支蕃

○須佐ノ入江円○月　[illegible]　少年　みさご　満汐

淡秋
[illegible]月[illegible]　公猷

○鈴鹿山　河関　伊勢○山田原　神路山　阿野松[illegible]
度會ノ注連　八十瀬　滝　捨（さり）ノ宮　琴花　[illegible]
薄郎公　厂　暑雁　鈴虫　驛　伊勢ノ浜荻
榊　月　[illegible]　五月雨　[illegible]　いつき　[illegible]

金
神無月[illegible]山水　三河

淡[illegible]
[illegible]山[illegible]神[illegible]月[illegible]　行之

彩[illegible]
[illegible]山[illegible]関[illegible]　翌月　法一

支
[illegible]山[illegible]　後成

○角田川　河原　下総。○待乳山　庵崎　関屋里

里　宿　舟　関　浮橋　都鳥　郭公　千鳥　蛙

古　なにしおはゝいさこととはん都鳥わかおもふ人は有やなしやと　業平

新勅　待乳山夕越くれはいほさきの角田河原にひとりかもねん　弁基法師

夫　さらてたにやむともなき庵崎の角田河原にひとりしもねん　為家

○諏防　信入。○木曽麻衣　漆河　氷橋　陸海り

鴨鳴　駒　アヂ村　氷海　[illegible]月

夫　すはの海ハおほちもとをしすへらかに木曽の麻衣さらす道　清輔

夫木　すはの海の氷の橋ハよそにやは神のわたりてとくるなりけん　顕仲

夫　けふこえやすはのみわたりかた分てたゝつ駒のたちかつむらん　知家

尾花咲かやの軒端の一村すゝきまねく秋のさと山

○菅荒野　同○子鈔　越　康　薩埵（サッタ）　木曽

行長朝　あらのゝすゝきわかすゝかすゝきいつくの駒か声そきけはみゆりけり　よみ人家

ま　こなたさまあれはそこにかりてむすふさへ川おほいぬそ　康よみ人　為経

○珠洲海　能登　○長濱浦　周　月　かれ滝

万　すゝの海や朝開てこきくれは長濱の浦に月照にけり　家持

（東）いく[illegible]すゑの松山[illegible]くらん　（[illegible]）

末松山　陸奥。宮城原　雁　ノ　雲　鴫　郭公

花橘　藤　卯花　釣舟　岸　浦　峯

（古）浦ちかくふりくる雪ハ白波の末の松山こすかとそみる　人丸

（新古）霞立末の松山ほの〳〵と波にはなるゝ横雲の空　家隆

（夫）わし山のむすゝる末の松山いく[illegible]年[illegible]　[illegible]盛

貞享二乙丑年三月吉旦

洛陽錦小路

水田長兵衛開板